

公立 | 静岡文化芸術大学

SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE

文化政策学部・デザイン学部 大学院／文化政策研究科・デザイン研究科

SUAC
2026

大学案内



出 会 う 感 じ る 創 造 す る

期待を胸に全国から集う学生。

背中を押し、導いてくれる先生。

出会うたび、自分の中に新しい何かが生まれる。

そしてそれは波紋のように広がり、共鳴し、

静岡文化芸術大学にしかない

“学び”に変わっていく。

そうだ。きっとこの胸の高鳴りは、

世界が広がっていく音だ。

ほら、世界がひろがる、音がする—



目次

001	出会う 感じる 創造する
003	学長メッセージ
005	巻頭特集「知と実践の共鳴」
013	学びのフィールド
019	文化政策学部
021	国際文化学科
027	文化政策学科
033	芸術文化学科
039	文明観光学コース
040	オプション・スタディーズ
041	文化政策学部教員紹介
043	デザイン学部
045	デザイン学科
049	横断的な学び：匠・プロダクト系
051	横断的な学び：メディア系
053	横断的な学び：建築・環境系
057	工房紹介
061	デザイン学部教員紹介
063	大学院
065	文化政策研究科
067	デザイン研究科
069	キャンパスガイド
071	教育・研究を支えるセンター
073	国際交流
076	キャリアサポート
081	キャンパスライフ
088	カリキュラム一覧
096	入試情報

※学生、卒業生の情報は取材時（2024年度）のものです。
※学部教員は2025年度の在籍者を掲載しています。

文化とデザインの力こそ

これからは、文化とデザインの時代です。

20世紀には、科学や技術がさまざまな分野で発達し、それぞれに大きな力を人類にもたらしました。

しかし全体として、人間社会を美しく輝かせたでしょうか。遠近の環境にも、次世代の人たちにも

ツケをまわすことのない、日々感動にみちた社会——じつは、そのような理想に近づくのは、

これから先のことなのです。

この大きな課題は、地域でも、地球規模でも、さまざまなかたちで膨らんでいます。

それらに前向きにとり組める人とは、文化の力、デザインの力への豊かな感性を持ち、

それらの力を有効に働かせる知性と技能を、現場で発揮できる人です。

静岡文化芸術大学は、このような人を育てたいと、25年前、

今世紀の幕がまもなく開こうとする時に開学しました。

しだいに諸外国にも知られ、才能ある人たちが遠近からつどい、対話を重ねつつ学んでいます——

そう、数々の創造者を生み出した稀有の地、浜松の歴史と風土に思いをめぐらせつつ。

皆さん、まずはこの一冊をご覧ください。

静岡文化芸術大学 学長

横山 俊夫



私たち

[公立] 静岡文化芸術大学は、
こんな大学です。

大学名から「文化と芸術」に特化した「芸大」をイメージされたとしたら、実際は違います。いわゆる音楽家や画家を育てる大学ではありません。文化や芸術の学びを活かして、社会やビジネス領域での課題解決のための企画ができ、それを実現できる人を育てる大学です。この考えのもと、芸術と文化を社会に活かすマネジメントに比重を置くのが「文化政策学部」、デザインに比重を置くのが「デザイン学部」です。静岡文化芸術大学が教育を進める上で、重きを置いているのが「知」と「実践」です。課題と向き合い、問いを立てる「知」の力と、リアルな現場の中で課題解決していく「実践」の力。これらを学びの両輪とし、自らを鍛えた多くの卒業生がここから巣立ち、国内外に活躍の場を広げています。

私たちはこのような大学を目指します

| 実務型の人材を養成する大学

豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、
国際社会の様々な分野で活躍できる人材を養成する。

| 社会に貢献する大学

地域、国際、世代が教育研究の場で
幅広く融合する「開かれた大学」として地域社会や
国際社会の発展に貢献する。

知と実践の 共鳴

出会う 感じる 創造する

この言葉が示すように

静岡文化芸術大学では、

学生それぞれの

「知」と「実践」が共鳴しあい、

新たな可能性が広がっています。

巻頭特集 目次

-
- | | | |
|--------------------------------------|-----------------|-------------|
| 01 | フェアトレード×商品開発 | P006 |
| 公正な取引と持続可能な未来を、学生の手で広げる。 | | |
| 02 | 浜松×インクルーシブ社会 | P007 |
| ひとりひとりの多様性を認め合う、インクルーシブな学び。 | | |
| 03 | デザインの力×中心市街地活性化 | P008 |
| 学生たちのアイデアが、
浜松のまちなかに新たなにぎわいを生み出す。 | | |
-

社会と共鳴する 卒業生VOICE **P009**

- | | | |
|-----------|----------------|-------------|
| 01 | 異文化教育×社員を支える人事 | P010 |
| 02 | イベント運営×地域福祉 | P010 |
| 03 | 舞台制作×伝統芸能振興 | P011 |
| 04 | 機能美×プロダクトデザイン | P011 |
| 05 | 思考のデザイン×UX設計 | P012 |
| 06 | 空間設計×未来の暮らし | P012 |

最新トピックスはこちら



01

フェアトレード× 商品開発



武田 淳

文化政策学部
国際文化学科 准教授

関 あかり

デザイン学部
デザイン学科 2年
愛知県立木曽川高等学校出身

栗山 はなこ

文化政策学部
国際文化学科 1年
静岡県立吉原高等学校出身

公正な取引と持続可能な未来を、学生の手で広げる。

フェアトレードの理念を学び、 社会に届ける

学生団体「りとるあーす」は、フェアトレードの啓発と推進を目的に2011年に発足しました。フェアトレードとは、立場の弱い小規模生産者の自立と生活改善、地域発展を目指し、公正な価格で取引を行う仕組みです。

静岡文化芸術大学がフェアトレード大学に認定されたこともあり、団体の活動はますます活発になっています。2025年度部長の栗山はなこさんは「ここならフェアトレードの商品開発に携われるし、地域の人も関われると思って入学しました。りとるあーすに入ることも決めていたんです」と話します。

団体では、企業や地域団体と連携して商品開発

を行い、たとえばコーヒー豆の果皮を再利用した「カスカラティー」は、環境省の「気候変動アクション大賞」を受賞するなど高い評価を得ました。

2024年度部長の関あかりさんは「去年はタオルメーカーとコラボしました。原料のコットンがピンクの湖が有名なセネガル産。刺繍の波模様と船のモチーフに、遠く離れていてもつながっているという想いを込めました。商品化できたことがとても嬉しかったです」と振り返ります。

フェアトレードの考え方を、 より広い社会へ

りとるあーす顧問の武田准教授は、「これまでは発展途上国支援という印象が強かったですが、実際は多様な分野でアンフェアをなくす動きが進んでいます。日本のお茶農家や映画・出版業界など、国内にも目を向けるべき課題があります。社会に必要なものを補う手段として、フェアトレードが活用されているんです」と語ります。りとるあーすの学生たちは、フェアトレードを「支援活動」ではなく「社会の構造を変えるアクション」と捉えています。経済の仕組みや倫理的消費について学びながら、自ら商品開発やイベントを

通じてフェアトレードを広めています。活動を重ねる中で、「フェアであること」を自分事として考え、社会に発信していく力を身につけています。

次世代へとバトンをつなぎながら、りとるあーすはこれからも「フェアが当たり前の社会」を目指して歩み続けていきます。

PICK UP SUAC 学生団体「りとるあーす」



「りとるあーす」による「カスから生まれるプロジェクト」が令和6年度気候変動アクション環境大臣表彰の普及・促進部門 緩和・適応分野で「気候変動アクション大賞」を受賞しました。



02

浜松 × インクルーシブ社会



松本 翠里

デザイン学部
デザイン学科 2年
兵庫県立豊岡高等学校出身

中川 晃

デザイン学部
デザイン学科 准教授

廣瀨 波貴

文化政策学部
国際文化学科 4年
静岡県立浜松湖南高等学校出身

ひとりひとりの多様性を認め合う、インクルーシブな学び。

「お互いを知ること」から、 すべてが動き出す。

年齢、性別、障害、国籍などの違いを越え、誰もが尊重される社会。それが理想とわかっていても、背景が異なる相手と接する機会がなければ、理解は深まりにくいものです。そうした課題に対して、デザイン学科の中川准教授は「まずは交流の場をつくることから」と考えました。その思いに共感した周辺の自治体や教育委員会、企業、スポーツ・福祉団体が協力し、学生たちとともに「Challenge to inclusive in 浜松2024」が開催されました。参加した学生は48名。インクルーシブの視点を大切にしながら、さまざまな準備に励みました。

イベントで学生たちは、地域連携演習の一環と



して、企画立案から広報物の制作、当日の来場者サポートまでを担当。多様な人々が集う場を自らの手でつくり上げ、実践的な学びを深めました。

実践から学んだ、 インクルーシブ社会の姿。

イベント当日は、約2,300名の来場者が訪れ、ステージやブース、ワークショップなどで交流を深めました。学生たちは運営スタッフとしてイベントを支え、来場者や参加者の声に耳を傾けました。

「私は会場内でインタビューを担当しました。準備を進める学生や参加企業、来場した高校生の声を聞く中で、インクルーシブな社会づくりに向けた多くの想いに触れることができました」と松本さんは語ります。

イベントのハイライトは、会場全体でのダンスセッションです。障害のある方、子ども、高齢者、外国籍の方など、すべての人が笑顔で体を動かし、一体感と高揚感に包まれた瞬間でした。「あの時間こそが、まさにインクルーシブな社会の姿だったと思います」と廣瀨さんも話してくれました。多様な背景を持つ人々がともに学び、体験し、

理解し合う。そうした場の積み重ねこそが、共生社会の礎になっていくことを、学生たちはこの経験を通して実感しました。

PICK UP SUAC

Challenge to inclusive in 浜松 2024



スタッフTシャツは役割ごとに色を分け、外国籍の方が多い地域に合わせてポスターは6か国語対応に。何度も検討を重ね、細部までこだわりぬいてイベントを形にしました。

03

デザインの力 × 中心市街地活性化



酒向 悠斗

デザイン学部
デザイン学科 3年
三重県立川越高等学校出身

鈴木 祐佳

デザイン学部
デザイン学科 3年
愛知県立岡崎北高等学校出身

小崎 屈紗

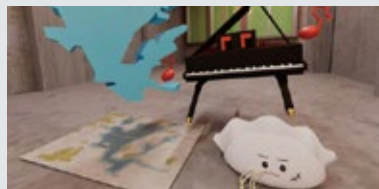
デザイン学部
デザイン学科 3年
静岡県立掛川西高等学校出身

学生たちのアイデアが、浜松のまちなかに新たなにぎわいを生み出す。

「まちなか文化祭」、 学生たちの挑戦が街を彩る。

浜松市の中心市街地には、多くの空きビルや活用されていない空間が点在しています。都市空間の空洞化が進む一方で、それらの空間を「可能性の場」として捉え、新たなにぎわいを生み出す取り組みが各所で始まっています。

静岡文化芸術大学の授業「スペースインタラクシオン演習」では、浜松のまちなかを題材に、学生たちが空間活用の提案を行いました。授業内でのプレゼンテーションを経て、有志の学生たちがチームを組み、実現に向けたプロジェクトを始動。そのひとつが浜松市主催の「まちなか文化祭」への出展です。浜松まちなかにぎわい協議会の協力のもと、一定期間ビルを借用し、肴町商店街を中心にシャッターアートやスタンプラリー



「まちなか文化祭」での出展の様子

など多彩なイベントを実施しました。

まちなかを歩きたくなる。 新しい発見を生み出すデザイン。

「まちなか文化祭」は、単なるイベントにとどまらず、まち全体の魅力を再発見し、継続的ににぎわいにつなげる取り組みとして展開されました。学生たちは、地域の方々との対話を通じてまちの課題を発見、デザインを通じた解決策を模索し、演習の中では、肴町商店街の活性化に加え、まちなかに点在する空き地を活用し、歩きたくなるような回遊ルートの提案も行いました。この活動を発展させ、学生の有志たちは続けて肴町でのイベントを企画しました。「私はキャラクター制作を担当しましたが、メンバーそれぞれが得意分野で力を発揮しながら、一つの形にしていけるのが楽しかったです。地域との交流を通じて、現地調査の重要性を学び、肴町への愛着が深まりました」と小崎さんは語ります。

学生たちは、地域の方々との対話を重ねながら、まちに新しい彩りを加える取り組みを形にしていきました。自身のアイデアをかたちにし、実際のまちなかでプロジェクトを動かした経験は、学生

たちにとって大きな自信となっています。

こうしたプロジェクトを通じて養われた「まちの声を聴く力」や「仲間と協力しながら課題解決に挑む姿勢」は、今後の学びや成長の原動力となり、地域社会とのつながりをより深めていくことでしょう。

PICK UP SUAC

「肴町おさかなびとジャック」 開催



スピニアウトイベント第二弾としてデザイン学科教員研究室と学生有志によるイベントを浜松まちなか肴町エリアで開催しました。イベントを通じて地域との接点を創出。アイデアをかたちにする実践により、学びの輪を広げています。

社会と共鳴する 卒業生 VOICE



ペルノ・リカル・
ジャパン株式会社
人事総務部
文化政策学部 国際文化学科卒業
チェリク 愛さん（旧姓：渡邊）



静岡市役所
障害福祉企画課
文化政策学部 文化政策学科卒業
太石 菜由さん



独立行政法人
日本芸術文化振興会
国立劇場制作部 宣伝課
文化政策学部 芸術文化学科卒業
日下 怜子さん



株式会社マキタ
開発技術企画部 デザイン課
デザイン学部 デザイン学科卒業
鈴木 航さん



チームラボ
カタリストチーム
デザイン学部 デザイン学科卒業
飯田 春佳さん



三菱地所レジデンス
株式会社
クオリティ業務部
商品開発・企画グループ
デザイン学部 デザイン学科卒業
佐藤 弥生さん

それぞれの思いを胸に、自分の道を進んでいる卒業生たち。

どのような「知」と「実践」を重ねてきたのか、そして今、どんな力を発揮しているのか。

先輩たちの「過去」と「今」を知ることが、あなたの「未来」につながっていく…。

自分が成長していくチャンスを見つける、道しるべにしてください。

01 異文化教育 × 社員を支える人事

チェリク愛さん (旧姓：渡邊) 文化政策学部 国際文化学科 2019年度卒業
ペルノ・リカール・ジャパン株式会社 人事総務部

大学時代、私は「学生」という肩書きを最大限に活かし、模擬国連やトルコでのデザインワークショップ、訪中団、台湾語学研修など多種多様な活動に挑戦しました。特に力を入れたのは、留学生支援サークルの立ち上げです。トルコからの留学生の困りごとをきっかけに、異文化交流と支援の場を作りたいと考えました。交流を通じて互いに文化を学び合い、帰国する際に感謝されたことで、やりがいを感じました。

卒業後は輸送機器メーカーの人事総務部に勤務し、結婚を機に国立大学の国際事務、そして現在の職場へとキャリアを積んできました。今の会社では幅広い業務を担当し、学生時代のように新しいことに挑戦しながら学び続ける姿勢を大切にしています。

SUACは先生との距離が近く、学内外に多くのチャンスがあります。自分から一步を踏み出し、積極的に経験を重ねていくことで、未来の可能性を広げることができる環境です。

異文化を学び、
支え合う。
広がる世界の
架け橋に



大学で培った力が今の仕事に生きている

人と関わり、調整する。

02 イベント運営 × 地域福祉

大石 菜由さん 文化政策学部 文化政策学科 2018年度卒業
静岡市役所 障害福祉企画課

在学中は碧風祭の実行委員として活動し、イベント運営の難しさとやりがいを学びました。備品発注や業者との調整、出展団体との交渉など、多くの人と関わる中で、相手の要望を聞きつつ最善策を探る力が身についたと感じます。碧風祭を終えた後、来場者や出展者から「ありがとう」と声をかけられたときの達成感は、今でも心に残っています。

現在は静岡市役所の障害福祉企画課で、障がいのある方が自分の望む地域で暮らせるよう支援する仕事をしています。学生時代にさまざまな学問に触れ、新しい分野を学ぶ楽しさを知ったことが、異動後の新しい業務にも前向きに取り組む原動力になっています。

SUACは一つの学科で幅広い分野を学ぶことができる大学です。私自身、未知の分野にも積極的に挑戦したことで、新しい視点を得ることができました。大学時代にしかできない経験を大切にしながら、たくさんのお会いを楽しんでください。



03 舞台制作 × 伝統芸能振興

日下 怜子さん 文化政策学部 芸術文化学科 2019年度卒業
独立行政法人日本芸術文化振興会 国立劇場制作部 宣伝課

高校時代に人形浄瑠璃の上演を経験し、舞台芸術の奥深さに惹かれました。SUACでは、文化政策やアートマネジメントといった芸術を支える視点から、演劇史や演劇文化論など舞台芸術そのものまで、多角的に学びました。また、劇団で役者をしたり、サークルで音響や照明の裏方を務めたり、薪能公演の企画運営やコンテンポラリーダンスの制作など、多様な角度から舞台に関わる経験を重ねました。

現在は、国立劇場制作部で主に文楽公演の宣伝を担当しています。公演チラシやポスターの作成、取材対応、報道配布用舞台写真の選定、公式SNS更新などを通じて、伝統芸能の魅力を多くの方に届ける仕事です。SUACで学んだ「準備の大切さ」は、今の仕事に直結しています。舞台制作には多くの方が関わり、それぞれが役割を果たすことで成功につながる。どのような準備をすれば円滑に進められるかを常に考える習慣は、在学中の経験から培われたものです。今後も、多くの方に伝統芸能の魅力を伝え、劇場に足を運んでもらえるよう尽力していきます。

舞台芸術の魅力を、
より多くの人に届けるために



理にかなった美しさを追求する。

ロジックと感性を磨き、

04 機能美 × プロダクトデザイン

鈴木 航さん デザイン学部 デザイン学科 2010年度卒業
株式会社マキタ 開発技術企画部 デザイン課

機能美を追求し、道具としての価値を最大限に高める。私は現在、株式会社マキタで電動工具や清掃道具のデザインを担当しています。世界中で使われる製品だからこそ、ユーザーの使用環境やニーズを細かく分析し、最適な形状や素材を選定。デザインの力で「使いやすさ」と「美しさ」を両立することを常に意識しています。SUACでは「なぜその形なのか？」を徹底的に考える機会に恵まれました。特に印象に残っているのは、3年次のプロダクトデザイン演習。自ら課題を設定し、リサーチ・コンセプト立案・ビジュアル化・プレゼンテーションまでを一貫して行う経験を通じて、デザインの本質に向き合いました。また、高山教授の指導のもと、「誰のためのデザインなのか？」を徹底的に考える習慣が身につきました。大学には仲間と切磋琢磨できる環境があり、演習室ではいつでも誰かが制作に没頭していました。デザインを学ぶ上で、刺激し合える仲間の存在はとても大きかったです。「たまたまカッコいい」と思えるプロダクトを生み出すことが今の目標です。SUACには、それを実現するための学びと出会いが詰まっています。



05 思考のデザイン × UX 設計

飯田 春佳さん デザイン学部 デザイン学科 2018年度卒業
チームラボ カタリストチーム

「デザインを学んだからといって、デザイナーになる必要はない」。この考え方に気づいたのは、大学時代に先生方との対話を重ねたことがきっかけでした。私は、何かを“つくる”よりも、その過程での思考や仕組みをデザインすることに興味があると気づきました。その経験を経て、現在はチームラボで「カタリスト」という職種に就いています。カタリストは、クライアントと共にどんなサービスをつくるのかを考え、エンジニアやデザイナーとチームを組み、最終的に自分が意思決定を行う役割です。デザインの視点を持ちつつ、サービス全体の設計に関わる仕事は、私にとって非常に面白いものです。大学時代に培った「思考を整理し、論理的に伝える力」は、今の仕事に大きく活かされています。特に、指導のもとで学んだ「情報の強弱をつけ、ノイズをなくすデザイン」は、資料作成やプレゼンの場面で役立っています。SUACは、デザインを多角的に学び、視野を広げるのに最適な環境です。デザインの道に進むにせよ、別の道を選ぶにせよ、思考を鍛える経験は必ず将来につながると 생각합니다。



デザインは形だけじゃない。
思考を積み重ね、最適解を導き出す。

06 空間設計 × 未来の暮らし

佐藤 弥生さん デザイン学部 デザイン学科 2017年度卒業
三菱地所レジデンス株式会社 クオリティ業務部 商品開発・企画グループ

「ものづくりに関わる仕事がしたい」という思いから建築を学び、現在はマンション開発のプロジェクトに携わっています。入社1〜2年目は土地の購入後、マンションの企画・設計・施工までの管理を担当し、3年目以降は専有部（キッチン・洗面・収納など）の開発に従事。顧客アンケートや市場のトレンドを分析しながら、より快適な住まいを実現するための標準仕様を企画・提案しています。大学時代、特に印象に残っているのは地域と連携したプロジェクトです。袋井市の防潮堤を活用した地域活性ワークショップに参加し、地元の方々と意見を交わしながら、地域に根ざした空間の在り方を考えました。その経験を見ていた先生から「ディベロッパーの仕事が向いているのでは」と助言をいただき、それがきっかけで今の仕事に進む大きな要因になりました。住まいを形づくるには、設計者やゼネコンなど多くの関係者との連携が必要です。大学時代に学んだプレゼンテーション力や調整力が、今の仕事にも活かされています。自分の学びを社会でどう活かすか、その可能性を広げることができるのがSUACの魅力です。

デザインの視点で考える。

快適な住まいのあり方を、



学びのフィールド



知と実践の共鳴

SUAC カリキュラムの特長

▶▶ P015

複雑な社会課題に向き合う力をつける体系的な学びへ

文化政策学部

国際文化学科

定員 100 名

▶▶ P021

文化の多様性を理解し、グローバル社会の課題に取り組むことができる人材を養成します。

文化政策学科

定員 55 名

▶▶ P027

社会科学の知識や調査手法で課題解決のための政策や経営戦略を立案・実行・評価できる人材を養成します。

芸術文化学科

定員 55 名

▶▶ P033

芸術やアートマネジメントの知識から、創造性を活かして文化振興や地域活性化に貢献できる人材を養成します。

デザイン学部

デザイン学科

定員 110 名

▶▶ P045

デザインによる新しい文化・人間社会の創造を通じて、地域社会の発展や文化の向上に貢献し、国際的に活躍できる人材を育成します。

大学院

文化政策研究科

定員 10 名

▶▶ P065

芸術文化の振興や新たな地域政策を創造できる高度な専門家を育成します。

デザイン研究科

定員 10 名

▶▶ P067

デザインプロフェッショナルに必要な専門知識と応用能力を高め、社会の要請に応える人材を育成します。

アドミッションポリシー
(入学受け入れの方針)



SUAC カリキュラムの特長 4 POINT

社会課題が分野を越えて混ざり合い、人々の価値観や仕組みが激しく変化する時代。

より柔軟に、より多角的に対応できる人材を育成するために「知」と「実践」の力を高めるカリキュラムが用意されています。

学部・学科の枠を越えて、他分野も横断的に学ぶことで、専門だけでなく、複合的な視点を身につけ、将来の活躍の場を広げます。

カリキュラム 4つのポイント

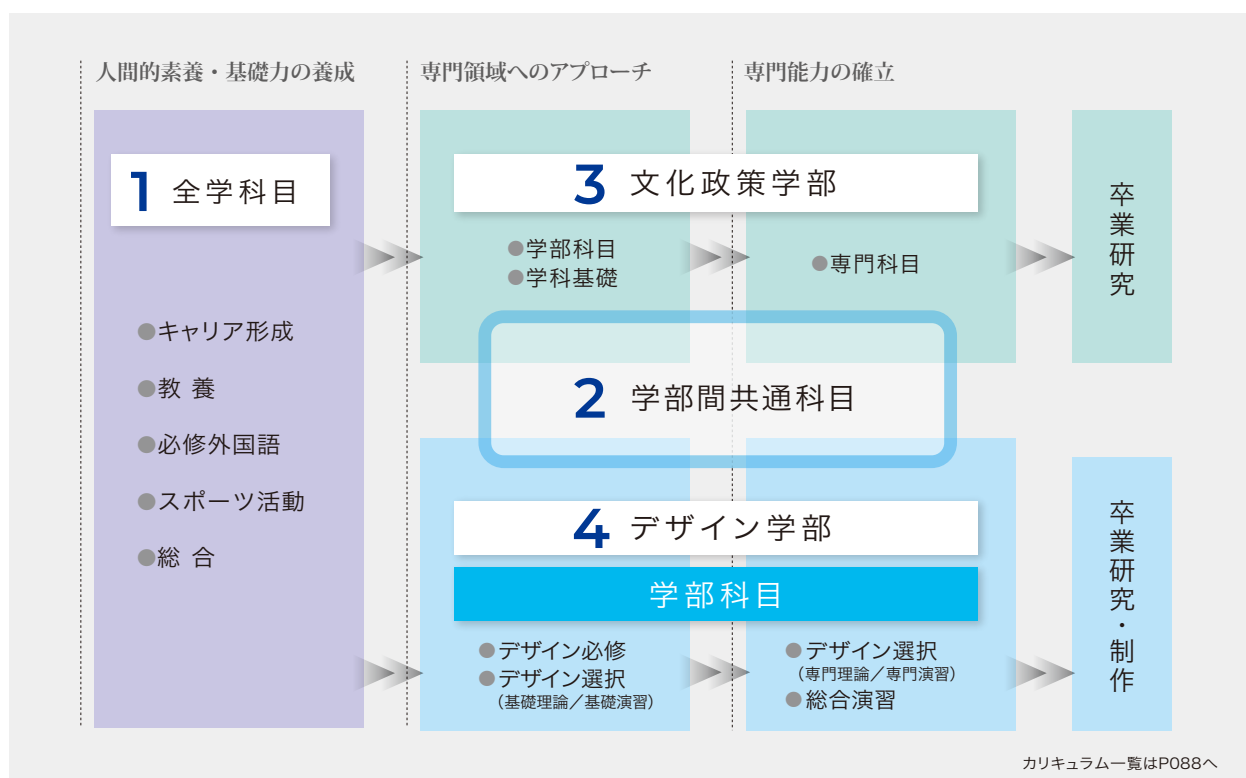
POINT 1 全学科目 / キャリア形成に関する科目と多様な必修外国語を中心に学びの基礎力を高める

POINT 2 学部間共通科目 / 学部を越えた学際的授業で学びの視野を広げる

POINT 3 文化政策学部 / 所属学科の学びに加えて3学科横断プログラムが受講できる

POINT 4 デザイン学部 / 1つの学科でデザインの分野を横断しながら専門性を高める

SUACで学ぶ4年間



POINT 1

文化政策学部・デザイン学部

「教養と感性」「知識と能力」を身につける

全学科目

キャリア形成

本学ならではの体験科目と専門教育につながる
リテラシー科目で学びの基礎を身につけます。

「情報・データサイエンス」「キャリアデザイン」に関する科目群を新たに設置。

「導入」「実践演習」とともに、1 年次から開講することにより、卒業後のキャリアを見据えた学びを展開します。

学びの基礎と感性を養う

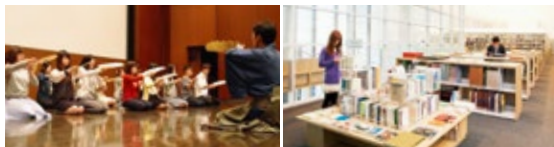
導入

●「文化芸術体験演習」 開講年次／1年次前期
少人数編成で行う演習科目。プロフェッショナルの講師を招き、日本の
伝統文化や芸術表現の実技体験を通して、文化や芸術への接し方や表
現力について学びます。

○演習内容（令和 6 年度）／落語、狂言、写真、茶道

●「学芸の基礎」 開講年次／1年次前期

学びの基礎として必要なリテラシー（読み・書き・情報活用能力）を
身につけ、レポート・論文作成の基礎知識や、プレゼンテーションの
技法等、社会で役立つ実践的スキルを磨きます。



自らのキャリアを構想する

キャリアデザイン

社会の現状や仕事や働き方について学び、自分の良さを将来の進路に結
びつけていく能力の重要性について理解し、自分自身の生き方をデザイン
するための知識やスキルを身につけます。社会で活躍するプロフェッショ
ナルを招いた講座や、企業から提示される課題に対してチームで取り組
む演習を通して、社会で働くことのイメージを具体化させます。

●「キャリアデザイン概論」／開講年次：1年次後期

●「キャリアデザイン講座」／開講年次：2年次前期

●「キャリアデザイン演習」／開講年次：2年次後期

情報社会のスキルを身につける

情報・データサイエンス

PCをはじめとするICT機器の正しい活用法について学び、その技術を
利用してさまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力やAI・
データサイエンスの知見およびその活用能力を身につけます。さらに、
画像の図形描画や処理方法の基礎的なスキルについても学びます。

●「ICTスキル基礎」／開講年次：1年次前期

●「デジタル表現基礎」／開講年次：1年次

●「データサイエンス入門」／開講年次：1年次後期

地域社会とつながる

実践演習

実社会の課題を見つけ、体験を通して理解を深め、解決する方法を学
ぶ演習科目。社会で実践的に活躍するための知識や技術、行動力を
養います。学生たちは学部・学科の枠を越えて、実践的な学びに取り
組めます。

●「企画立案演習」／開講年次：1年次

●「地域連携演習A・B」／開講年次：1年次

●「自主課題演習」／開講年次：2年次



必修外国語

国際社会で力を発揮するための実践的な
語学能力と幅広い文化的知識を身につけます。

必修外国語として8か国語から選択が可能。多様な言語学習のニーズに対応します。

英語	韓国語
中国語	インドネシア語
フランス語	イタリア語
ポルトガル語	ドイツ語



POINT 2

文化政策学部・デザイン学部

社会の複合的な課題に、学部を横断して取り組む

学部間共通科目

学部の枠を越えた学際的な授業で、学生の視野を広げる「学部間共通科目」を新設。文化政策学部の学生はデザイン学部の専門科目を、デザイン学部の学生は文化政策学部の専門科目を、所属学部の専門科目として履修することができます。

文化政策学部で受けられるデザイン学部提供の科目

- デザイン概論
- 生体機能論
- ユニバーサル／インクルーシブデザイン概論
- メディア産業論
- 都市デザイン論 ※1
- デザイン思考 ※2
- 現代デザイン論
- 世界建築史
- グラフィックデザイン概論
- デザインとマーケティング ※1
- 空間演出総合計画 ※2

※1 文化政策学科を対象に開講

※2 芸術文化学科を対象に開講

デザイン学部で受けられる文化政策学部提供の科目

- 視覚芸術論
- 広報・広告論
- マーケティング論
- 劇場芸術論
- 都市経営論
- 産業遺産と産業史
- 経営学
- ルネサンス文化史
- メディア文化論
- 美術史（西洋）Ⅰ・Ⅱ
- 美術史（日本・東洋）Ⅰ・Ⅱ
- 経営戦略論
- 地域ビジネス論
- 文化と芸術 D

POINT 3

文化政策学部 ▶▶ 詳しくはP019

専門分野を横断し、社会の複合的な課題に文化政策で取り組む

文化政策学部

オプション・スタディーズ

所属学科の専門領域に加えて、さらに学びを広げる学科横断型プログラム。

テーマに沿ってまとめられた他学科の体系的な科目群を履修し、物事を総合的・学際的に捉える視点を養います。

所属する学科での
専門的な学び



他学科科目を中心に
構成されるプログラム

文明観光学コース

3 学科横断コース

文明史の観点から観光を捉え、持続しうる観光産業と多様な芸術・文化を融合できる人の養成を目指します。

自身の興味関心に合わせた履修を可能とし、多様で柔軟な学びを実現します。



POINT

4

デザイン学部 ▶▶ 詳しくはP043

より自由度を高く、社会の複合的な課題にデザインで取り組む

デザイン学部

社会の中でのデザインを取り巻く環境の大きな変化に対応するため、デザインのプロセスにおいて多角的な視点で分析したり、領域を越境してユニークなコンセプトを立案する力が求められています。柔軟なデザインの思考力を養うため、さまざまな分野の内容を総合的に学び、広範囲で専門性に富んだカリキュラムを用意。それぞれの進路を踏まえながら必要な科目を履修し、分野を横断しながら幅広く深い学びを獲得します。

総合的な デザイン 基礎の学び

必修科目・選択科目
(基礎理論／基礎演習)

専門的な学び

匠・プロダクト系

- プロダクトデザイン
- 工芸・造形デザイン

メディア系

- グラフィック・コミュニケーション
- 映像・メディアコンテンツ

建築・環境系

- 建築
- インテリア・空間デザイン

横断的な学び

卒業研究・制作

基礎教育から進路までのイメージ

1 年次前期～

幅広いデザイン知識と
技術の修得

1、2年次前期までは幅広くデザインの基礎を学びます。特に各分野の概論を履修することで3つの系の特性を理解し、自分の進路の方向性をイメージすることが重要です。

1 年次後期～2 年次前期

希望と適性を踏まえた
方向性の選択

デザインの基礎を身につけ、デザイン分野で幅広い選択肢があることを認識した上で、自分の興味や希望、適性や卒業後の進路を見定め、主軸とする系や科目を選択します。

2 年次後期～3 年次

3つの系を横断する学び

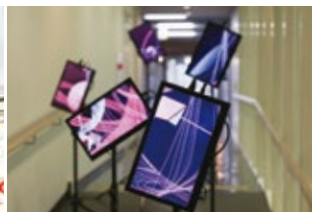
専門的な学びにつながる多彩な学科専門科目、これらの配置は各系の区別が設けられているわけではなく、自分の進路を意識しながら必要な科目を横断的に履修し幅広く学べます。

4 年次

卒業後

多様な活躍の場

現代社会ではデザインを総合的に捉える力を専門分野の実践の中で活かす機会が増えています。デザイナーという職業を主体として、企業や官公庁など多様な活躍の場が待っています。



創造的な思考力を身につけ、現代社会の課題に取り組むことができる人材を。

文化政策について体系的に学ぶことで、人々の考え方や暮らしの多様性を理解し、
社会の発展に貢献できる創造的な思考力を育てます。

現代社会が直面するさまざまな課題に対して、自ら考え、文化と社会の関わりを深く学ぶことで、
新しい価値を生み出し、よりよい未来を築くための視点を身につけます。

文化政策学部では社会の課題解決に向けて積極的に取り組める人材を輩出することで、
社会に貢献していきます。

文化政策学部

| 国際文化学科 | 文化政策学科 | 芸術文化学科

基礎をつくる4つの科目群

「文化政策とは何か」を理解するために、文化政策学部では学部科目として、〈文化・芸術〉、〈政策・マネジメント〉、〈情報・リテラシー〉、〈観光〉の4つの分野の科目群を設置しています。学生は、これらの中からバランスよく科目を選び学んでいきます。これらは、3つの特色ある学科での専門的な学習に共通する土台となります。

| 文化・芸術

各学科の専門分野を学ぶ上で必要な、文化や芸術表現の多様性や歴史などを概観するとともに、異なる文化への理解や多様な社会システム、芸術表現等に関わる幅広い知識を養います。

| 観光

欧州から西アジア、東アジアに至る、そして日本国内における観光交流の歴史的潮流を俯瞰し、また産業革命以降、近現代の観光産業の発展にも目を向け、地域の伝統文化や地場産業を活かした観光の基礎知識を学修します。

| 政策・マネジメント

企業に加え、政府、自治体、NPO/NGOといった非営利組織も含めた、幅広い経営体における政策の企画立案や評価、経営体のマネジメントの基本を学びます。これらを通じて、人と人、人と社会のより良いあり方に資するための実践的な能力を発揮できるようになることを目指します。

| 情報・リテラシー

社会の課題に対する構想力、企画力、問題解決能力を養うとともに、専門的な研究やその成果を、広く社会に向けて発表・表現することや、多様な市民社会の中での合意形成を促進するための実践的なスキルを身につけます。加えて、多様化する情報社会の中で、慎重にこれらに対処するための法的・制度的知識や自身の情報リテラシーの素養を身につけます。

文化政策学部で学べること。3学科での関連ワード

文化政策学部では、「国際文化学科」「文化政策学科」「芸術文化学科」の3つの学科を設け、社会と文化の関わりを専門的に学びます。複雑、多様な社会について、専門領域だけでなく周辺領域の知識にも触れながら、広く、深く学んでいきます。



文化政策学部の3学科で 取得可能な資格等

※詳しくは P079 へ

- ◆教育職員免許状[中学校教諭一種・高等学校教諭一種]
国際文化学科/国語(中学・高校)・英語(中学・高校)
文化政策学科/社会(中学)・公民(高校)

- ◆図書館司書
- ◆博物館学芸員
- ◆日本語教員養成課程
- ◆社会調査士



文化政策学部

| 定員100名 |

国際文化学科

文化の多様性や価値を理解し、
対話を通じてグローバル社会の課題に
取り組むことができる人材を養成します。

今、世界は、大きく変わろうとしています。国を越える経済や人の交流は信じられないほどの速さで進んでいます。そして宗教、伝統文化も大きく変わろうとしています。国際文化学科は、こうしたグローバルな社会を冷静に見極め、積極的な価値を発見する力、なによりも人間共存のための創造力、行動力を生み出す学びを進めています。経験豊かな教員がチームワークで学生と向き合い、つねに多様なニーズに対応しています。そして、毎年多数の積極的な学生が留学や海外でのインターンシップを実現しています。

取得可能な資格

▶▶▶ 詳しくはP079をご覧ください。

教育職員免許状：中学校教諭一種[国語・英語]

教育職員免許状：高等学校教諭一種[国語・英語]

日本語教員養成課程

図書館司書

社会調査士



文化の多様性と価値を理解し、 これからの社会の課題に取り組むための 知識とスキルを身につける。

国際社会・地域社会が抱えている課題を解決するためには、何が問題なのか、その背景にまでじっくりと思考を巡らすことが必要です。さらに文化を尊重しながら、他者対話を重ねることも欠かせません。大学での「学び」を通じて、そのために必要な知識と、主体的に取り組む力、コミュニケーション能力を身につけましょう。

国際文化学科の学びの体系

「国際文化概論」「国際文化基礎論」といった学科基礎、そして専門外国語を学ぶことで多様な文化のあり方や価値を学びます。それに加えて、3つの専門的な科目群である「日本・東アジア」(21科目)・「地中海・西欧・北米」(22科目)・「多文化共生」(20科目)から各自の関心に沿って科目を選択し、文化を創造的、能動的に学んで、卒業研究の準備をしていきます。また、「グローバル・キャリア・デザイン概論」によって将来のキャリアを早期に構築するサポートをします。

国際文化学科の特徴

01

多様な言語と 文化が学べる

国際文化学科の学科専門科目には、英語・中国語・イタリア語・フランス語・ポルトガル語・韓国語をより専門的に深められる科目群（専門外国語）のほかに、日本・東アジア、地中海・西欧・北米といった地域ごとの文化・社会・歴史について学ぶ科目群があります。文化を深く、体系的にあるいは多角的に学ぶとはどういうことなのか、研究方法も含めて考えていきましょう。

02

多文化共生社会や 日本語教育が学べる

キャンパスのある静岡県浜松市は、様々なルーツや文化的背景を持つ人が暮らしている街です。そのため、国際文化学科では、持続可能で誰もが暮らしやすい社会を実現するための、多文化共生に関わる科目と、日本文化を知るための科目の両方が学べます。さらに日本語を「外国語」として学ぶ人々をサポートする仕事を目指したい人は、日本語教員養成課程で実践的に学ぶことができます。

03

グローバル・キャリアや 国際協力が学べる

留学などで積極的に海外に出かける学生が多いのも、国際文化学科の特徴です。さらに海外で得たグローバルな経験を仕事に活かすため、「グローバル・キャリア・デザイン概論」などの科目が用意されています。また、開発途上国を支援する国際協力に関する科目も充実しています。「フェアトレード論」をはじめとしたビジネスを通じた社会貢献について実践的に学べます。

卒業生の声

世界とつながる仕事を、地元から。

国際文化学科 卒業
ヤマハ発動機株式会社

高橋 葉月

海外とつながる仕事がしたい。そんな想いで進学したSUACでは、語学研修や異文化交流を通じて多くの経験を積みました。台湾での語学研修では、現地の大学生と交流しながら中国語を学び、帰国後はスピーチコンテストにも挑戦。ゼミでは知的財産アイデアプレゼン大会に出場し、商品企画の楽しさを知りました。現在はヤマハ発動機で、アフリカ市場向けの補修部品の貿易実務に携わっています。SUACで学んだ異文化理解の力を活かし、来年からは営業職としてさらに挑戦を続けます。



高橋 葉月

国際文化学科 卒業
ヤマハ発動機株式会社

国際文化学科で学ぶ4年間

1年次	2年次	3年次	4年次
	全 学 科 目		
	学 部 科 目		
学 科 基 礎		専門外国語は、英語・中国語・イタリア語・フランス語・ポルトガル語・韓国語から選択できます。	3つの系統からなる専門的な科目群を横断的に学ぶことで、卒業研究に向けて自身の追究したいテーマを模索します。
	専 門 外 国 語		
	専 門 科 目 群 ■日本・東アジア ■地中海・西欧・北米 ■多文化共生		
4 年 間 の 流 れ		演 習（ゼミ）・卒 業 論 文	
学科基礎科目「国際文化概論」「国際文化基礎論」等を通じて基礎を学び、専門分野への足がかりをつくります。	専門科目が本格的に始動。「専門外国語」を通じて高度な言語力を習得。後期には所属ゼミが決定します。	学科専門の講義では、学びたい分野の科目を積極的に履修するとともに、演習（ゼミ）で専門テーマを深く掘り下げていきます。	大学での研究の集大成として、卒業論文をまとめます。ゼミの中で執筆計画を立てて着実に実行、あわせて卒業後の進路を選択していきます。

開講科目例

▶▶▶ カリキュラム一覧はP088以降をご覧ください。

Effective Communication Through Engaging Presentations

「応用英語 プレゼンテーション英語」

【3～4年次／専門科目】

英語プレゼンテーションは、実社会で必要なスキルです。本授業では、データ収集・分析を通じて発信力を鍛え、聴衆を引きつける技術を学びます。講師や学生からのフィードバックを活かし、表現力を向上させ、より説得力のあるプレゼンを目指します。最終プロジェクトでは、デザイン学科や留学生と協力し、インタラクティブなプレゼン展示を行い、実践的なチームワークとグローバルなコミュニケーション力を養います。



無意識に習得したコトバを意識化する

「日本語文法 I-II」【1～4年次／専門科目】

「日本語文法」と聞くと、国語の時間に暗記した様々な文法用語を連想する人が多いかもしれません。しかしこの授業では、日本語を様々な言語の中の一つと捉え、私たちの頭の中にある言語規則を自ら考え意識化するという作業を行います。普段何気なく使う日本語の中にも、これまで気づかなかった多くの発見があるはずです。人間の言語能力の不思議と日本語の魅力を感じてもらえればと思います。

東南アジアについて多角的に考える

「現代の東南アジア」【1～4年次／専門科目】

東南アジアの諸地域について考察する科目群への導入の位置にある科目です。現在の東南アジアは11の国から成る地域で、日本との関係も多様化しています。この科目では、20世紀半ばから現在にかけての東南アジアについて、言語・文化・国際関係・経済等の様々な面から考察し、理解を深めます。学生は、こうしたテーマに関する事例について東南アジアから英語で発信されている情報を読んだうえで授業に参加します。



「地球市民」の視点から国際機構について学ぶ

「国際機構論」【2～4年次／専門科目】

国際連合、EU、ASEAN等の国際機構は国際社会における秩序構築や構成国の社会経済的な繁栄を基本的な目的とし設立されました。近年では歴史文化遺産、持続可能な開発、外国留学といった種々の分野において、これら国際機構と私たち一般市民の生活の間に密接な関連性が見られるようになりました。授業では主要な国際機構の歴史、現状、展望について国際政治学の理論をもとに理解を深めていきます。

ゼミ（卒業研究演習一覧）

3年次前期から始まるゼミナール（演習）では、共通の関心を持つ学生が集まり、毎週行われる授業のほか、現場研修やフィールドワークが企画されるなど、専門的な少人数の授業が行われます。担当教員が個別のアドバイスをを行い、4年次には卒業論文の執筆に展開していきます。

文明の根源を探って光を観る 担当教員：青木 健 教授 専門領域：宗教学・西アジア文明	ヨーロッパの歴史と文化の研究 担当教員：永井敦子 教授 専門領域：西洋史	「多文化共生」新時代-未来を共に創る- 担当教員：崔 学松 准教授 専門領域：中国文化社会・東アジア国際関係・言語社会学
自分だけの韓国を知る 担当教員：林 在圭 教授 専門領域：韓国文化・韓国語	古文書から地域の歴史を掘りおこす 担当教員：西田かほる 教授 専門領域：日本史・文化史	持続可能な未来型共生社会モデルの構築 担当教員：佐伯康考 准教授 専門領域：国際的な人の移動研究
Applied Linguistics and Global Culture 担当教員：Edward Pearce SARICH 教授 専門領域：英語教育	文学×民俗学＝伝承文学 担当教員：二本松康宏 教授 専門領域：日本文学・伝承文学	現場の視点から「地域の発展」を考えよう 担当教員：武田 淳 准教授 専門領域：開発人類学・環境と開発
東南アジアの歴史・文化・社会 担当教員：岡田建志 教授 専門領域：東南アジア史	史料との対話から「今」を問い直す 担当教員：水谷 悟 教授 専門領域：日本近現代史	中東などの近現代史を扱う 担当教員：徳増克己 准教授 専門領域：中東北部と旧ソ連の境界地域史
我が国とアメリカの教育学 担当教員：倉本哲男 教授 専門領域：教職実践学・アメリカ教育学	経済を通して中国とアジアを知る 担当教員：畝 嶺 教授 専門領域：中国経済・開発経済学	フランスを学び、フランスから考える 担当教員：中田健太郎 准教授 専門領域：フランス文学・視覚文化論
日本語・日本語教育の研究 担当教員：佐野由紀子 教授 専門領域：日本語学・日本語教育	言語習得メカニズムの探究 担当教員：横田秀樹 教授 専門領域：第二言語習得・心理言語学・英語教育	グローバル化の活動で国・企業・人を繋げる 担当教員：西脇靖洋 准教授 専門領域：国際関係論
English Education and Global Issues 担当教員：Jack RYAN 教授 専門領域：英語教育	探求を通じて国内外の社会課題に挑戦 担当教員：石坂貴美 准教授 専門領域：国際協力・地域研究（アジア）	日本語教育が社会に貢献できることを考える 担当教員：福永達士 准教授 専門領域：日本語教育
イタリアを知り、世界の文化を読み解く 担当教員：武田 好 教授 専門領域：イタリア語・イタリア文化	一生使える文化人類学 担当教員：内尾太一 准教授 専門領域：文化人類学・フィールドワーク論	しなやかな人文知で文明観光を模索する 担当教員：宮崎千穂 准教授 専門領域：旅と病の歴史・日本とシルクロード

ゼミ紹介（一例）

ゼミ担当教員の声

「多文化共生」新時代 ー 未来を共に創る ー



多文化共生論
佐伯 康考 准教授

国際的な人の移動、母語・母文化教育、国際人的資源管理などに関する専門書を用いた学術議論に加え、ゼミ生たちの企画立案による多文化共生イベントへの出展、外国人材活躍企業への訪問などを通じて学びを深めています。少子高齢化が加速する日本社会が未来を切り拓くには、外国人住民との共生・共創が必要不可欠です。ゼミ生の多くは日本語指導が必要な子どもたちの学習支援などの社会的活動に長く参加し、現場で感じた問題意識を卒業研究へと繋げています。

ゼミ生の声

ことば×アイデンティティ 母語と日本語、その架け橋をつくる学び



Izumi Francine Mai
国際文化学科 4年
静岡県立静岡中央高等学校出身

佐伯ゼミでは多文化共生をテーマに、外国ルーツ児童の教育や日本語教育とICT、多国籍地域と防災など多角的に学びます。本の内容を深く掘り下げる議論を通して、自分の考えを明確にする力を養いました。卒業論文では、外国ルーツの子供の母語・継承語がアイデンティティ形成に与える影響について研究し、インタビューを通じて実態を探っています。ゼミ活動で社会人としての礼儀や協働力も身につく、多文化共生や日本語教育に関心がある方にSUACは最適な環境です。

在学生の声



目標・ビジョンを持って行動すれば、
4年間で大きく前進できる

—— 国際文化学科 4年 平澤 美衣奈
静岡県立浜松南高等学校出身

幼い頃から身近だったSUACに進学し、漠然と海外への憧れを抱いていた私ですが、学びを重ねるうちに「移民」への関心が深まりました。歴史、哲学、文化、多文化共生、経済といった多角的な視点から考察し、卒論では日中におけるイスラム系移民と文化的衝突、受容の過程について研究。日本、中国、フランスでの現地調査を行い、国による受け入れの違いを実感しました。

2年次に1年間の米国留学を経験し、日本文化教室を立ち上げるなど、受け身だった私が自ら行動を起こす力を身につけました。帰国後も各国の留学生と交流し、伊豆観光デザインワークショップや訪中団への参加など、多くの経験が自分を成長させてくれました。

現在は浜松のスタートアップ企業でインターンを行い、ビジネスの視点も養っています。卒業後はドイツの大学院に進学し、移民や国際協力、不平等問題についてさらに学び、日本の未来に貢献したいです。SUACは自ら動けば、どこまでも可能性を広げられる場所。挑戦したい人にぴったりの環境です。

高3のとき	多文化共生や国際関係を学ぶため、SUACを志望
1年次	必修科目で「多文化共生」について学び、移民問題に関心を持つ
2年次	海外協定校への米国留学を経験し、日本文化教室を立ち上げるなど主体的に活動
3年次	日本、中国、フランスでの調査を実施し、卒業論文の研究を進める
4年次	浜松のスタートアップ企業でインターンを行い、卒業後のドイツ大学院進学を準備



地元静岡で活躍するために
世界のことを知っておきたい

—— 国際文化学科 3年 木村 乃愛
静岡県立葦山高等学校出身

大学では幅広い分野を学びたくて入学しました。国際文化学科には留学を目指す学生も多いですが、必ずしも海外に行くことがゴールでなくてもいいと思います。私は多文化共生の授業を通じて、SDGsやフェアトレード、移民・難民問題などを学び、世界の多様性を深く知ることができました。

ゼミでは「イギリスでファンタジー文学が多く生まれる理由」をテーマに英語で卒論を執筆中です。教授や仲間との議論を重ね、より伝わる文章を追求する時間がとても充実しています。就職は地元静岡を中心に考えており、秘書検定や簿記を取得して、公務員講座にも挑戦中。大学で培った地域共生への理解を活かして地域に貢献したいと考えています。三島から新幹線で通学していますが、通学時間も英語の勉強に活用しています。県東部の高校生にも、ぜひ自分の可能性を広げてくれる環境が整ったSUACを選んでほしいです。

高3のとき	専攻研究の児童文学をより深く学ぶためSUACを志望
1年次	必修科目で「多文化共生」について理解を深め、興味を持つ
2年次	スキルアップのため、秘書検定2級、日商簿記検定3級を取得
3年次	英語文学を扱うRyanゼミで卒業論文の研究を進める

国際文化学科の「知」と「実践」

持続可能なビジネスモデルの創出

気候変動の時代の新たなフェアトレードを目指して

アジア初の「フェアトレード大学」に認定されたSUAC。武田淳研究室では、学生たちとフェアトレードの実践活動も行っています。テーマは「コーヒーと気候変動」。このまま温暖化が進んでいくと、2050年にはコーヒーの収穫量が激減する見込みです。収入減少が危惧される生産者に、新たな収入源を作るプロジェクトを行っています。これまで廃棄されてきたコーヒーの実の果肉（カスカラ）からお茶や石鹸を作るプロジェクトは、環境大臣から表彰を受けました。また2024年には浜名湖花博で研究室のメンバーがプレゼンテーションをしました。支援の対象は、コスタリカとパプアニューギニア。コーヒーを通じて、開発途上国の「今」を考えています。



特許を活用した新ビジネスを提案

知財活用アイデアプレゼン大会

「第8回知財活用アイデアプレゼン大会」にて、崔研究室より学生30名で編成された4チームが出場し、そのうち、2チームが最優秀賞と審査員特別賞を受賞（7年連続）しました。大会は、地域活性化とキャリア教育の理念に賛同する協賛各社からの課題に、多くの大学生が挑戦。企業が使用を許諾している特許を利用し、各大学生チームが考案した「新ビジネス」をプレゼンします。様々な問題の解決策を考えることを通じて、幅広い調査分析能力、研究発表能力、自主的行動力やチームワーク・マネジメント力などマルチスキルを向上させています。



卒業生の主な進路 （令和4年～6年度卒業生、抜粋）

公務

静岡県庁(行政)	町田市役所
石川県庁(行政)	愛知県教育委員会(教員)
浜松市役所	大阪府教育委員会(教員)
掛川市役所	浜松市教育委員会(講師)
刈谷市役所	横浜市教育委員会(教員)
豊橋市役所	

卸売・小売業

(株)アダストリア	(株)ZOZO
アッシュコンセプト(株)	(株)中部日本プラスチック
OTBグループ	(株)ニトリ
(株)オンセブンティズ	ホンダ開発(株)
(株)クラシコム	(株)ミサワ
ゲンキー(株)	(株)ライフコーポレーション

運輸・旅行業

(株)エイチ・アイ・エス	(株)星野リゾート・マネジメント
NCA Japan(株)	(株)日本旅行
(株)JTB	(株)ラウンドワン
清和海运(株)	リゾートトラスト(株)

製造・建設業

(株)アイエイアイ	セキスイハイム東海(株)
SUS(株)	タカスタンダード(株)
(株)小糸製作所	東海エレクトロニクス(株)
芝浦機械(株)	(株)日立ソリューションズ
(株)シャンソン化粧品	ブライムアースEVエナジー(株)
(有)春華堂	(株)ミサワホーム静岡
スズキ(株)	ヤマハモーターパワープロダクツ(株)
(株)鈴木楽器製作所	ローランド ディー・ジー(株)
(株)SUBARU	(株)ワールドインテック

金融・保険業

(株)伊予銀行	長野県信用組合
(株)静岡銀行	とびあ浜松農業協同組合
(株)清水銀行	静銀ティーエム証券(株)
大垣西濃信用金庫	東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
岡崎信用金庫	第一生命保険(株)
西尾信用金庫	日本生命保険(相)
浜松磐田信用金庫	

サービス業など

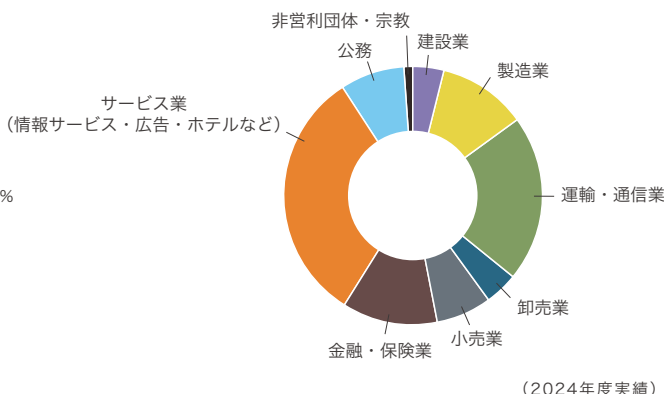
エン・ジャパン(株)	日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)
遠鉄システムサービス(株)	日本赤十字社 徳島県支部
GTS協同組合	日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)
セコム(株)	パーソルキャリア(株)
(株)スズキビジネス	(株)ベネフィット・ワン
生活協同組合コープなごの	ヤマハモーターソリューション(株)
聖隷クリストファー中・高等学校	(株)リクルート
中部国際空港旅客サービス(株)	
(株)東急キッズベースキャンプ	
東邦ガステクノ(株)	

大学院進学

静岡大学
静岡県立大学
静岡文化芸術大学

就職データ

建設業 4%	金融・保険業 12%
製造業 11%	サービス業 (情報サービス・広告・ホテルなど) 32%
運輸・通信業 21%	公務 8%
卸売業 4%	非営利団体・宗教 1%
小売業 7%	





文化政策学部
| 定員55名 |

文化政策学科

生活の質や生きがいの向上を目標に、
地域社会と産業の持続可能な姿を探究し
学際的・実践的なカリキュラムを通じて、
それを実現するための構想力と実行力を培います。

「文化政策」とは、より良い社会のあり方を探究し、これを実現するための方策を意味します。そしてその方策について、文化政策学科では、主に社会科学の視点から学びます。特に「政策」「経営」「情報」という3つの分野を、総合的に学ぶ特色あるカリキュラムを用意しています。地域社会や企業の様々な課題を社会調査などの手法で分析し、持続可能で包摂的な社会の実現に向けた、行政施策・企業戦略・市民活動などを構想し、実現することができる人材を養成します。

取得可能な資格

▶▶ 詳しくはP079をご覧ください。

教育職員免許状：中学校教諭一種[社会]

教育職員免許状：高等学校教諭一種[公民]

社会調査士

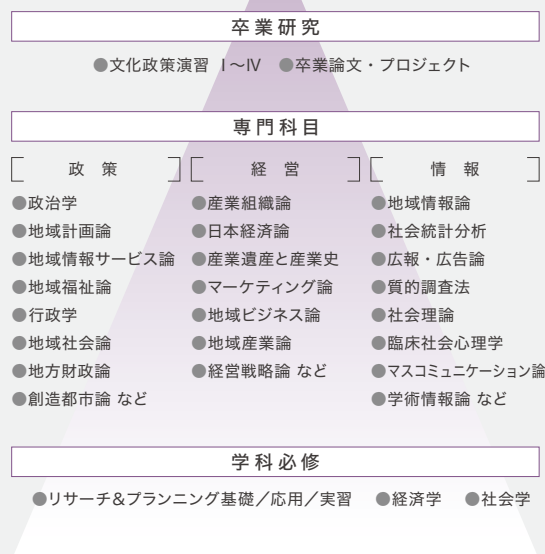
図書館司書



文化政策学科の多角的な学び

文化政策学科には、政策や行政、経済や経営、文化や情報、社会や心理、法律など多岐にわたる専門分野の教員がいます。まず入学から2年間は、多様な学科科目を履修しながらじっくりと学びたい分野やテーマを設定します。3年次からのゼミや4年次の卒業論文・プロジェクトでは、自らが関心を持ったテーマについて、専門知識を持つ教員の指導のもとで学びを深めていきます。また専門的な指導にあたっては、各演習（ゼミ）担当教員による少人数クラスでのきめ細かな教育を行います。

文化政策学科の学びの体系



文化政策学科の特徴

01

調査研究や企画立案の手法を身につける

学科必修では、文化政策の基礎となる知識とともに、基本的なアカデミックスキルや実践的な調査研究・企画立案手法を学びます。また、政策、経営、情報の3つの領域から現代社会の様々な課題を理解する視点を涵養します。

02

地域社会の豊かさを構想する

都市や農山漁村、コミュニティや集落、組織や集団を主な調査研究対象として、そこに住み、働く人々の生活や考え方を、観察やインタビューなどを通じて調べます。そして、多様な学科科目から学んだ知識を、調査で得られた情報の分析に応用しながら理解を深め、問題点を明らかにし、解決策を提言します。

03

産業社会のあるべき形を考える

地域における製造業、サービス業、農林水産業の実態、様々な種類や規模の企業や公共団体の経営・運営について、統計的なデータはもちろんのこと、現場の経営者や労働者、そして消費者の体験や視点を踏まえながら学びます。さらに、企業の社会的責任など企業と地域社会の関係についても学びます。

卒業生の声

地域と共に歩む、信頼される銀行員へ。

文化政策学科 卒業 株式会社静岡銀行 森 唯結

生まれ育った静岡の役に立ちたい。そんな想いで静岡銀行に入行し、現在はコーポレートコンサルタントとして法人のお客さまの課題解決業務に携わっています。大学時代は、静岡新聞との連携プロジェクトや放送部の活動を通して、地域の方々と関わりながら実践的に学ぶ機会が多くありました。人と協力し、目的に向かって進む経験が今の仕事に生きています。地域のお客さまと深く関わりながら、信頼される銀行員として成長していきたいです。



文化政策学科で学ぶ4年間

1年次	2年次	3年次	4年次
	全 学 科 目		
	学 部 科 目		
学 科 必 修 ● リサーチ&プランニング ● 社会学 ● 経済学			ゼミでは専門知識を深めるとともに、課題の発見・分析・解決方法を学び、社会での実践能力を身につけます。
学 科 科 目 ● 政策 ● 経営 ● 情報			
学科必修では、幅広い分野の専門知識を体系的に修得し、実践に活かすための基礎を学びます。	1年次からは「政策」「経営」「情報」の学科基幹科目を総合的に学び、さらに展開科目へと発展させることで応用力を磨きます。	演 習（ゼミ）・卒業論文・プロジェクト	
4 年 間 の 流 れ			
社会を見つめる視座と基礎的能力の開拓 幅広い教養科目といくつかの学科基礎科目の履修を通じて、文化政策を学ぶことの意義や、自らの目指す分野について考えます。同時に、情報リテラシー、データ検索、レポート作成、プレゼンテーションなどの基礎能力を身につけます。	多様な専門知識の習得 多様な学部・学科科目の履修を通じて自らの専門領域の確立を目指します。また、企画立案や社会調査士資格に関する科目の履修を通して調査研究能力を高めます。2年次の終わりには卒業後の進路選択も視野に入れつつ、3年次から始まる演習（ゼミ）を決定します。	演習（ゼミ）を通じた専門の深化 いよいよ演習（ゼミ）が始まります。担当教員の指導のもと、少人数で学習に取り組むことにより、専門知識を深化させるとともに、自ら課題を発見・分析・解決していく能力に磨きをかけます。学外のプレゼンテーションイベントにも参加します。	「大学での学び」の集大成 大学生の総仕上げの学年です。これまでの3年間の学習成果の集大成として、ゼミ担当教員のもとで卒業論文の執筆や卒業プロジェクトに取り組みます。こうして培われた幅広い知識と実践力を活かして、就職や大学院進学などの進路を決定します。

開講科目例

▶▶▶ カリキュラム一覧はP088以降をご覧ください

地域の課題解決策を立案するプロセス

「リサーチ&プランニング 基礎／応用／実習」

【1～2年次／学科必修】

調査研究や企画立案の手法を体系的に学び、データ分析と課題解決の能力を身につけるための科目群です。「基礎」「応用」「実習」の3科目（必修）で構成されています。「基礎」と「応用」では、データ分析の基礎と社会調査手法を学びます。「実習」では、公共政策や企業経営などに関する課題を設定し、各自が調査研究に基づき課題解決策を立案し、その結果のプレゼンテーションを行います。



多面的な観点から今日の行政を考える

「行政学」【2～4年次／専門科目】

行政学には2つの視点があります。一つは、政治と市民をつなぐ行政の役割に注目する視点です。政治が決めた政策は、行政が実施して初めて効果を発揮します。また、市民の声に耳を傾けるのは行政の役割です。もう一つは役所の「経営学」の視点です。行政をうまく運営するための方法論に注目します。この2つの視点を意識することにより、行政の仕組みを理解するだけでなく、行政のあるべき姿について考えていきます。

戦後日本の経済発展を理解する

「日本経済論」【2～4年次／専門科目】

この講義では、戦後復興、高度成長、バブル経済とその後の低迷といった戦後80年間の日本経済の歩みを追うとともに、経済理論の知見も借りて各時期の経済状況を位置づけます。くわえて「日本的経営」と呼ばれてきた日本独自の企業のあり方についてその形成過程についても講義します。そのうえで現代日本経済の抱える諸課題について、戦後史を踏まえつつ分析・議論できるように必要な視角や知識の習得を目標とします。



社会的課題の解決と組織運営を学ぶ

「公共デザイン戦略」【2～4年次／専門科目】

公的組織や民間企業は、社会的課題の解決や組織目的の達成のために様々な施策や活動を実施しています。こうした施策・活動を企画立案し実施することを本科目では「公共デザイン」と呼び、それらを有効に実施するために必要な理論や方法論、具体的な実践方法を学んだ上で、アクティブラーニングとして戦略的な公共デザイン（プランニング）を行います。これらを外部審査会によって審査・講評いただくことで学びを深めます。

ゼミ（卒業研究演習一覧）

3年次前期から始まるゼミナール（演習）では、共通の関心を持つ学生が集まり、毎週行われる授業のほか、現場研修やフィールドワークが企画されるなど、専門的な少人数の授業が行われます。担当教員が個別のアドバイスをを行い、4年次には卒業論文の執筆に展開していきます。

メディア・消費文化から社会を見る

担当教員：加藤裕治 教授

メディアや消費の文化と日常文化が分かちがたく結びついている現代社会の状況を理解し、その課題を明らかにしていきます。ゼミでは社会学を中心とした方法や研究をもとに、各自の研究テーマに取り組むことになります。

社会の中の人間の心に関する研究

担当教員：小杉大輔 教授

まず、心理学の研究法について、グループで体験的に学びます。そして、社会心理学を中心とした最新の研究動向を参考に、各自で研究テーマを決定し、調査を実践していきます。

行動や政策についての経済学的研究

担当教員：鈴木浩孝 教授

消費者や企業にとっての合理的行動をベースに、社会にとって望ましい状態を実現するためのルールや産業政策について、経済学の見地から客観的に考えていきます。

経営戦略論、組織論を切り口に企業を研究

担当教員：曾根秀一 教授

経営学、とりわけ経営戦略論、組織論、経営史の視点から現代社会において重要な位置を占める大小様々な「企業（会社）」について、理論およびフィールドワークも交えながら、研究を進めていきます。

公共政策の分析と評価

担当教員：田中 啓 教授

公共政策の対象となる社会や地域の現状を深く理解することを重視します。その上で、社会的課題の解決方法や政策の有効性を分析・評価する技法について学び、自身の関心のあるテーマに応用します。

公共図書館を通して地域を見る

担当教員：林 左和子 教授

公共図書館を研究するにはその地域についても知る必要があります。図書館を通して地域にアプローチし、地域のために図書館は何ができるかを考えることを目標としています。

都市・地域計画、まちづくりの研究

担当教員：藤井康幸 教授

都市・地域の計画、まちづくりは関口が広く、幅広いトピックの学習、分析から入り、卒業論文に向けて関心分野を絞り込んでいきます。事例研究とフィールドワークを重視します。

中山間地域についての社会学的研究

担当教員：船戸修一 教授

ゼミでは、まずフィールドワークを通して中山間地域（農山村）の現状や課題を社会的に把握することを学びます。そして各自で研究テーマを設定し、入念な現地調査をした上で、中山間地域を社会的に分析します。

経済史・産業史から現代を見る

担当教員：四方田雅史 教授

経済学・経営学の基本的な考え方を学ぶとともに、これまで経済・産業・企業がどのような変遷をたどったか、その背景にある経済・経営的要因について分析し、討論します。

家族と地域福祉に関するライフコース研究

担当教員：小林淑恵 准教授

個人や家族のライフコースと地域福祉の関係を扱います。行政機関との連携活動を通じて地域福祉に関する理解を深め、各自の設定した課題について実証的な研究としてまとめることを目指します。

都市・文化をめぐる行政規制や資金をめぐる法を学ぶ

担当教員：塩見佳也 准教授

文化政策を行政規制や資金調達側の側面から考察し、公民連携をめぐる基本的な法の仕組みやPFIの実施事例を研究します。その際、都市や文化財保護をめぐる法技術を修得し、理論的背景も考慮しながら複眼的に考察していきます。

排除の力学の社会学的研究

担当教員：野島那津子 准教授

マイノリティ（社会的少数者）をめぐる問題を中心に、ある種の人々が、なぜ、どのようにして社会的に排除されている／きたのかを、社会学や近接領域の文献を参照しながら考えていきます。

情報学で環境・社会・経済の課題を解く

担当教員：叢 日超 講師

現代社会の諸課題に対して、情報学を軸にして定性的・定量的な評価及び思考を行います。ゼミでは各自の研究テーマに沿い、様々な手法を用いて情報の収集処理・分析・考察（論文、発表）等詳しく学んでいきます。

ゼミ紹介（一例）

ゼミ担当教員の声

社会問題を多角的に考察し、 別様の社会を構想する力を身に着ける



社会学
野島 那津子 准教授

ゼミでは、マイノリティや社会的排除にかかわる問題について、社会学や近接領域の文献講読を通じて考えていきます。これらの問題は、ややもすると道徳的次元で考えられがちです。重要なのは、なぜ、どのようにして、ある種の人々が社会的排除の状態に置かれている／きたかを、歴史的・社会的・政治的・経済的・法的な次元で捉え、解決策を探ることです。本ゼミではこうした視角のもと、ゼミ生の幅広い関心を引き受けつつ、教員も学生も切磋琢磨しながらテキストを読み進めていきます。

ゼミ生の声

“自分らしさ”を問い続ける。 その答えは、きっと変わり続ける。



尾崎 文菜
文化政策学科 3年
名古屋市立名東高等学校出身

社会学への関心から、社会理論の講義がきっかけで野島ゼミを選びました。ゼミでは、ジェンダーやマイノリティなど社会問題に関する文献を読み、議論を通じて新たな視点を得ています。卒業論文では、現代社会で頻出する「自分らしさ」という言葉に焦点を当て、自己啓発書におけるその意味や歴史的背景を研究しています。ゼミでの議論を通じて、発言する力や考えを言語化する力が身につきました。興味を深め、主体的に学びたい人にSUACは最適な環境です。

在学生の声



挑戦が、新しい自分をつくっていく。

—— 文化政策学科 4年 志賀 彩月
浜松市立高等学校出身

高校時代、私は経営や公共政策、国際、社会学など幅広い分野に興味があり、多くのことに挑戦してみたいと考えていました。そこで、横断的に学べる文化政策学科を選びました。1年次に受講した経営学の授業をきっかけに、理論を学び、それを実践的に応用する経営の面白さに気づき、森山ゼミに所属しました。

大学生活で最も大きな出来事は、3年次に経験した1年間のトルコ留学です。異文化の中で言葉が十分に通じないこともありましたが、相手の話に耳を傾け、積極的に関わることの大切さを学びました。帰国後は「日本企業のトルコ市場進出」をテーマに卒業研究を進めています。

将来は製造業の営業職として、お客様の声を大切にし、より良い製品を届ける仕事に就きたいと考えています。SUACは、自分の興味を広げ、挑戦を後押ししてくれる環境です。新しい分野に踏み出したい人にとって、きっと多くの学びと出会いが待っています。

高3のとき	進路に迷い、幅広く学べる文化政策学科を志望
1年次	経営学に出会い、簿記検定に挑戦
2年次	なぎなたで県代表となり、国体に出場
3年次	トルコの海外協定校に留学し、多文化交流を経験
4年次	復学し、経営学のゼミに所属 卒論は「日本企業のトルコ市場への進出について」をテーマに研究



地域の声に耳を傾け、本音を伝える。
フィールドワークが導いた記者への道

—— 文化政策学科 4年 植田 勝也
静岡県立島田高等学校出身

地域づくりについて学びたいという漠然とした目的を持ってSUACに進学しました。必修科目の「社会学」をきっかけに、人と人の関係性に興味を持ち、1年次から船戸ゼミの活動に参加しました。主に浜松市浜名区引佐町久留女木地区において、棚田での米作りや自治会の定例会、地域行事などを通じて住民と直接会い、対話を重ねることで信頼関係を構築してきました。

4年間通い続ける中で、質問に対する住民の受け応えが変化し、関係性の深まりを実感しました。住民の本音を聞くことができるようになり、より深い立場から地域の実情や課題について学ぶことができたと感じています。質的調査法に魅力を感じ、継続的に地域や人と関わりながら相手の本音を引き出す仕事に就きたいと考え、記者職を志望しました。

文化政策学科では幅広い学びの機会があり、自分が熱中できることをきっと見つけることができると思います。SUACで「本気」になって学び、成長した今の自分にとても満足しています。

高3のとき	地域活動に興味を持ち、地域づくりについて学ぶためSUACを志望
1年次	船戸ゼミに参加し、浜松市引佐町久留女木地区の棚田保全活動に参加
2年次	ゼミの仲間と共に、農作業だけでなく地域の行事や自治会活動にも関わる
3年次	自治会の定例会に参加し、地域住民全員を対象とした調査を実施
4年次	地域の声を聞くことに関心をもち、それを伝えたいと考え、NHKの記者を志望 内定を受ける

文化政策学科の「知」と「実践」

中山間地域の問題解決や集落の維持を考える

フィールドワークを通じた地域づくりの実践

昨今、人口減少や高齢化によって中山間地域の集落が消滅するような主張が見られます。しかし、集落の人口が減少しても、住民の高齢化が進んでも、そこから転出した子どもやそこに地縁を有する孫がその集落に通い、実家の生活を支援したり、集落の行事に参加したりしている限り、そう簡単に集落は消滅しません。船戸ゼミでは、浜松の中山間地域における集落を訪ね歩き、現地で米作りや蕎麦作りなどの集落の共同作業に参加し、集落外に居住する子ども・孫と実家・集落との関係について調査研究しています。そして、その結果に基づく地域づくりの方策を現地で開催する調査報告会で発表し、地域住民の方々と共に地域の問題解決や集落の維持を図る実践活動に取り組んでいます。



経営学の視点から地域経済や社会問題を考える

日本学生経済ゼミナール大会 (通称：インター大会)、アグリカルチャーコンペティション (通称：アグコン)

曾根ゼミでは、「日本学生経済ゼミナール大会」や「アグリカルチャーコンペティション」等の全国大会に出場し、日頃の研究成果の報告、ゼミ内外の学生とのディスカッションを通じて交流を深めてきました。学生の興味関心に沿ってテーマを決め、日本学生経済ゼミナール大会では、2016年に経営分野で優勝および全国4位、2017年は経営および地域経済分野で優勝、2018年には3チームすべてが各分野で準優勝（優秀賞）を果たしました。また、「アグリカルチャーコンペティション」にも出場し、2022年には学術研究部門でブロック優勝するなどSUAC生が躍動しています。結果だけでなく発表に至るまでのフィールド調査、理論研究、資料作成などの過程を重視し、これまでの努力と貴重な経験を今後に活かしてほしいと思います。



卒業生の主な進路 (抜粋)

公務

国税専門官	磐田市役所
静岡地方検察庁	掛川市役所
静岡労働局	蒲郡市役所
愛知県庁	菊川市役所
静岡県庁	豊橋市役所
福島県庁	沼津市役所
三重県庁	袋井市役所
山梨県庁	富士市役所
警視庁	三島市役所
静岡県警察本部	焼津市役所
静岡市役所	渋谷区役所
名古屋市役所	杉並区役所
浜松市役所	静岡県教育委員会(教員)
安城市役所	浜松市教育委員会(教員)

製造業

(株)河合楽器製作所	スズキ(株)
はごろもフーズ(株)	ヤマハ発動機(株)
浜松ホトニクス(株)	ヤマハモーターソリューション(株)
(株)ヤタロー	ローランド(株)

金融・保険業

遠州信用金庫	住友生命保険(相)
岡崎信用金庫	静岡信用金庫
蒲郡信用金庫	損害保険ジャパン(株)
(株)静岡銀行	第一生命保険(株)
静岡県経済農業協同組合連合会	東京海上日動火災保険(株)
静岡県労働金庫	とびあ浜松農業協同組合
静岡東海証券(株)	豊橋信用金庫
しずおか焼津信用金庫	日本銀行静岡支店
静岡ティーエム証券(株)	日本生命保険(相)
静岡ビジネススクレイト(株)	浜松磐田信用金庫
島田掛川信用金庫	三ヶ日町農業協同組合
(株)清水銀行	三井住友海上火災保険(株)

サービス業 (教育・広告・ホテルなど)・医療福祉

(株)内田洋行ITソリューションズ	(株)中日新聞社
(株)SBSプロモーション	(福)天竜厚生会
(株)エヌ・ティ・ティ・データ	(株)TOKAIホールディングス
国立病院機構東海北陸グループ	(株)日テレ アックスオン
サーラエナジー(株)	日本放送協会
(株)しずおかオンライン	浜松商工会議所
(株)静岡新聞社・静岡放送(株)	(株)船井総合研究所
(福)聖隷福祉事業団	(株)マイナビ

卸売・小売業

(株)古林堂薬局	(株)長坂養蜂場
鈴与商事(株)	(株)良品計画

運輸・旅行業

遠州鉄道(株)	名古屋鉄道(株)
(株)ジェイアール東海ツアーズ	(株)ハマキョウレックス
静岡鉄道(株)	富士山静岡空港(株)

建設業

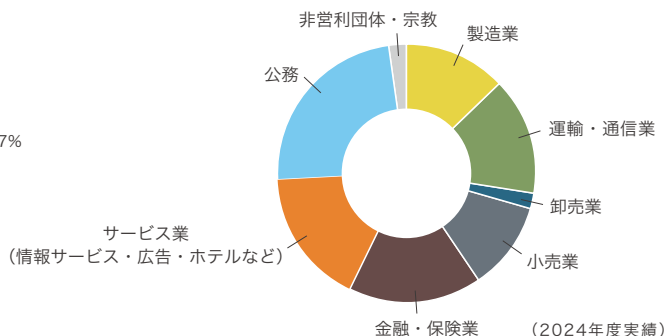
大和ハウス工業(株)	積水ハウス(株)
------------	----------

大学院進学

静岡文化芸術大学	名古屋市立大学
筑波大学	福岡教育大学

就職データ

製造業 13%	サービス業 (情報サービス・広告・ホテルなど) 17%
運輸・通信業 15%	公務 23%
卸売業 2%	非営利団体・宗教 2%
小売業 11%	
金融・保険業 17%	





文化政策学部

| 定員55名 |

芸術文化学科

今日の社会における芸術の可能性を求めて。

複数形のArtsで表記される今日の芸術。音楽、演劇、絵画、映像など単体で表現することもあれば、複数のジャンルがコラボレートして、新しい芸術ジャンルを生み出すこともあります。芸術が社会でその力を発揮するためには、芸術が市民に受け入れられなくてはなりません。芸術を生み出す芸術家のほかにも、芸術を学問的に研究する人、美術館や劇場など芸術組織の運営に携わる人や、より広い視点から政治や経済の仕組みを考える人などが必要となります。芸術文化学科では、多角的な視野に立って芸術と芸術を支える社会システムの両面を理解し、多様な分野で芸術の持つ力を社会に活かすことのできる人材を養成します。

取得可能な資格

▶▶ 詳しくはP079をご覧ください。

図書館司書

博物館学芸員

社会調査士



SUAC_033

静岡市清水文化会館マリナートでの実習



上原美術館での実習



人文科学と社会科学を多角的に学ぶ、 充実したAAAE※カリキュラム

芸術文化学科は芸術や文化について多角的に学ぶことができる学科です。芸術を主専攻としながらも政治・経済・経営・法律等についても十分な理解を持とうとする学生、芸術について深い知識を持ちつつ社会科学の知識を駆使できる専門家や官民の政策プランナー等を志望する学生などを求めています。芸術文化学科のプログラムは芸術運営教育者協会（Association of Arts Administration Educators、AAAE）に正会員として加盟し、AAAEが定期的に策定するカリキュラムスタンダードを参照しながら、芸術文化の分野におけるグローバルな人材育成を目指しています。

※AAAE（芸術運営教育者協会）は、高等教育機関でアートマネジメント教育に携わる関係者のネットワーク。アメリカにベースをおく非営利組織で、1979年に創設されました。大学等のアートマネジメント教育プログラムのカリキュラムスタンダードを定期的に策定・更新するなど、教育の質を高めるための先進的な取り組みをしています。



政策とマネジメント

- 芸術文化政策の理論
- 芸術文化政策の国際比較
- 現代社会と芸術文化
- 文化施設の管理と運営
- アートマネジメント
- 文化財保護政策

文化と芸術

- 文化と芸術
- 現代芸術論
- 音楽史
- 芸術特論
- 演劇史
- 鑑賞と批評
- 美術史（西洋）
- 美術史（日本・東洋）

芸術運営の実践

- 劇場プロデュース論
- 展示プロデュース論
- 舞台運営論
- 舞台技術論
- 博物館実習

- 芸術文化学科での学びの基礎は、高等学校の「地歴・公民」です。
- 「地理」で学ぶ地域文化と「歴史」で学ぶ文化史を深めるのが、美術史、音楽史、演劇史等の科目です。
- 「倫理」で学ぶ思想や哲学が美学につながり、「公共」「政治・経済」の学びが「政策とマネジメント」の科目群の基礎となります。

芸術文化学科の特徴

01

芸術・文化を理解する

人文科学の視点から多様な芸術、文化のありようについて学び、その諸相を探究します。歴史的認識の醸成と、最新の知識の修得によって、豊かな芸術、文化の内容を理解し、それらが現代に生きる私たちの感覚、意識をどのように形づくっているかを考えます。

02

芸術を社会科学の視点から学ぶ

人間の芸術活動を理解するためには、芸術作品や芸術家について理解するだけでは不十分です。芸術文化学科では、法学や経済学等を基礎として、様々な制度・政策や国・自治体・企業等による支援、そして芸術組織等の経営について学びます。

03

2つの側面から多角的に学ぶ

芸術文化学科では「文化と芸術」「政策とマネジメント」というカリキュラムにおける2つの柱を設け、芸術や文化について人文科学と社会科学の両面から学びます。加えて、実践にも対応できる科目も開講し、理論と実践とのバランスのとれたカリキュラムを用意しています。入学定員55名に対し13名の専任教員を擁し、きめ細かい少人数教育を行います。

卒業生の声

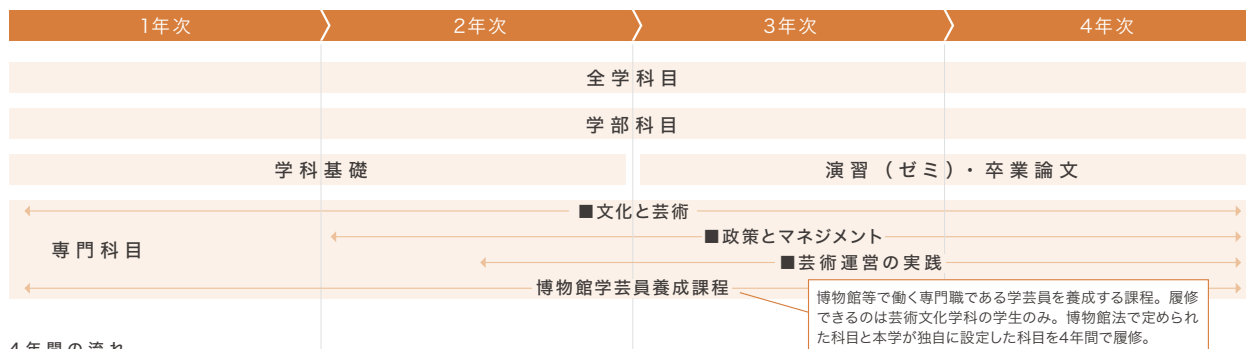
芸術文化の架け橋として、 多様な人々とつながる場をつくる。

——— 芸術文化学科 卒業
サントリーパブリシティサービス株式会社 佐藤 綾香

SUACでは、他学科の授業も履修し、学びを広げながら地域の表現活動の場づくりに関わりました。大学と地域の距離が近い環境だからこそ、学びを実践につなげることができたと感じています。現在はサントリーパブリシティサービスで経理業務を担当し、今後はホール運営に携わる予定です。多様な人が芸術文化を楽しめる場をつくることが目標です。SUACは挑戦の機会に恵まれた場所。興味のあることに挑戦し、可能性を広げてください。



芸術文化学科で学ぶ4年間



4年間の流れ

新しい視点の開拓	芸術を多角的に捉える	知識と実践力を身につける	テーマを深化させる
◎芸術文化を多様な側面から捉え、アカデミックな見方の可能性を体感する。 ◎1年次から多くの専門科目を開講。 ◎興味のある分野から、自分なりの新しい視点を開拓する、大学生としての学習をスタート。	◎諸芸術に関する基礎理論の充実。 ◎芸術を支える様々な条件や環境を、人文科学的な観点からだけでなく、社会科学的な視点からも捉える力を養う。 ◎「芸術文化基礎」で、自分がこれから関心を深めていく領域と濃密に向き合い、確信を持ってアプローチする力を養う。	◎各自ゼミに所属し、自分が深めようとする研究領域の手がかりを見つけ、身につけた基礎知識と研究方法を活用し、独自の課題に取り組む。 ◎「芸術特論」などで、より専門的な知識や思考法を学びつつ、「芸術運営の実践」などの科目群を積極的に活用しながら、知識と実践を結びつける。	◎卒業論文のテーマを決め、論文の完成を目指す。 ◎ゼミを通して培ってきた専門領域の知識を深め、これまでに学んだことを総動員して、大学生活の集大成とする。

開講科目例

▶▶▶ カリキュラム一覧はP088以降をご覧ください。

音楽文化の歴史を振り返り、未来を創造する

「音楽史Ⅰ・Ⅱ」【1～4年次／専門科目】

私たちは、当たり前のようにピアノやギターの音楽を楽しんでいます。それはどのような道筋をたどってきたのでしょうか。音楽史Ⅰ・Ⅱは、これからの音楽文化を構想・創造するために、西洋や日本における過去の音楽を丁寧に振り返り、再考することを目的としています。



研究対象としての美術作品の見方を実地に学ぶ

「鑑賞と批評Ⅰ・Ⅱ」【3～4年次／専門科目】

実際に様々なジャンルの展覧会等に行き作品を観察することで、作品についての基本的知識を学ぶとともに、どのように作品を見るか実体験を通して修得します。その作品観察をもとに思考し記述する力を身につけるため、見学後は毎回テーマを設定しレポートを作成します。



アートを運営する組織を取り巻く環境を学ぶ

「アートマネジメントA～C」【2～4年次／専門科目】

公共性を持つ芸術組織等のマネジメントであるアートマネジメントの名論を学びます。芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につけます。



実地や実践で学ぶ学芸員養成課程の総仕上げ

「博物館実習」【3～4年次／資格科目】

1年生から養成課程で学んできた知識や理論を、実際の体験に落とし込み、学芸員として働く実感を得てもらう科目です。学内での資料の取り扱いや学外の館園実習を通して、学芸員として必要な技能を修得し、卒業後に博物館で働く心構えを養うことを目的としています。



ゼミ（卒業研究演習一覧）

3年次前期から始まるゼミナール（演習）では、共通の関心を持つ学生が集まり、毎週行われる授業のほか、現場研修やフィールドワークが企画されるなど、専門的な少人数の授業が行われます。担当教員が個別のアドバイスをを行い、4年次には卒業論文の執筆に展開していきます。

現地調査を通じて音楽と社会に向き合う

担当教員：梅田英春 教授

世界中の音楽は社会と深く関わっています。ゼミ生は民族音楽学の基礎を学んだ後、国内外で音楽に関するフィールドワークを一人で行い、その成果をもとに音楽と社会のつながりについて考えます。

過去の音楽文化から「現代社会」を考える

担当教員：奥中康人 教授

地方創生の掛け声のもとで「B級グルメ」や「ゆるキャラ」のように一音楽を利用するのはもうウンザリ。身近な音楽に目を配り、文化や芸術の枠組み自体を再考してゆくことを目的としています。

残された美術作品に向き合う

担当教員：片桐弥生 教授

日本美術史の基本的な研究方法を、実際に作品をじっくり見て、研究論文などを読むことで身につけます。残された美術作品が制作当時、何を意図して作られ享受されていたのかを明らかにすることを目指します。

西洋の音楽文化・音楽と社会の関係を探る

担当教員：上山典子 教授

西洋を中心とする音楽文化や、音楽と社会、音楽と政治、音楽と戦争などをテーマに、基本文献から最新の論文までを読み、議論を重ねることで、知識と視野を広げていきます。

文化・芸術活動を担う人々や団体を見る

担当教員：高島知佐子 教授

文化・芸術活動を経営の視点から分析します。フィールドワークを通して、現場の人々の工夫や苦勞を学術的に紐解きます。近現代社会に関する文献を多読し、理論と現場から思考力・分析力を身につけます。

現代芸術・視覚文化への理論的アプローチ

担当教員：谷川真美 教授

多様な形態をみせる現代の芸術や、日常生活をとりまく様々な視覚文化について、芸術の歴史と思想を手がかりとしながらその本質について考え、私たちの生きる現代とはどういうものかを考えます。

演劇・劇場の学問は現場から生まれる

担当教員：永井聡子 教授

演出理念、空間、運営のメカニズムを分析する力を養います。帝国劇場、築地小劇場、東京宝塚劇場が海外の演劇史と作品を革命的に変えたように、観客が仕上げる演劇の本質を理論と実践から探究します。

舞台芸術創造環境と地域社会に関する研究

担当教員：佐藤良子 准教授

地域社会に息づく音楽や舞台芸術の姿を見据えながら、それを取り巻く環境・制度についてフィールドワークを交えた質的調査によって実態を把握し、政策との関わりを考察します。

博物館・美術館の機能と役割を考える

担当教員：田中裕二 准教授

コレクションを収集して収蔵庫で適切に保管、調査研究した成果を展示するといった基本的な機能がいま揺らいでいます。収集から公開・活用方法の検証と博物館の社会的な役割について考えます。

劇作品を内（内容）と外（背景）から考える

担当教員：稲山 玲 講師

戦後日本の劇作家たちが生み出した作品の中から具体的な作品を取り上げ、そのテキスト、演出を分析します。加えて、上演当時の社会背景、制作環境を調査することで総合的に作品を考察します。

西洋演劇の創造と国際演劇交流の研究

担当教員：田ノ口誠悟 講師

台詞劇、オペラ、バレエ、ミュージカルなど西洋出自の舞台芸術の分析手法を学びます。また、西洋演劇の日本における受容、海外戯曲翻訳・翻案といった越境的な演劇文化の交流についても考察します。

芸術文化を通して皆が憩える広場を創る

担当教員：南田明美 講師

芸術文化を通して社会的弱者が声をあげやすい場を創るには、どのような要素が必要なのか。そもそも芸術文化の力とは何なのか。質的調査を通して、それらの問いを追究していきます。

西洋の美術作品から美術と社会の関係を考える

担当教員：藪田淳子 講師

西洋の美術作品が生み出された社会背景や政治経済、各地域の文化交流に留意しながら、西洋美術史の基礎を学びます。先行研究を整理して作品分析を行い、美術と社会の関わりについて考えます。

ゼミ紹介（一例）

ゼミ担当教員の声

作品を言葉で表して 美術と歴史を紐解く



西洋美術史
藪田 淳子 講師

ゼミでは、美術作品をまず言葉で丁寧に記述して、それから先行研究を調べて同時代の資料にもふれ、モチーフの意味や主題について考察します。さらに注目の経緯や当初の設置場所などから、作品を取り巻く環境について分析します。このような過程を経て、なぜその作品が生み出され、どのように受容されたのかなど、作品と文字資料から読み取れる情報を客観的・歴史的に分析し、美術作品の意味や社会との関わりについて考えます。

ゼミ生の声

一枚の絵から広がる、 時代と思想の物語を読み解く。



森平 風花
芸術文化学科 3年
愛知県立半田東高等学校出身

美術館で解説書を読んだことがきっかけで、美術史に興味を持ちました。絵画の歴史的背景や画家の思想を知ると、作品がより深く理解できることに魅力を感じ、藪田ゼミを選びました。現在は、ゲインズバラの《ブルー・ボーイ》に焦点を当て、ファンシー・ピクチャーというジャンルの研究を進めています。ゼミでは、文献の探し方や作品分析の方法を学び、自分の疑問を深掘りする力が身につきました。美術をさまざまな視点で学べるのがSUACの魅力です。

在学生の声



音楽の力を、
もっと多くの人に届けたい。

—— 芸術文化学科 3年 有馬 和輝
鹿児島県立松陽高等学校出身

私は鹿児島県の離島で育ち、幼い頃から音楽に親しんできました。しかし、演奏会などを体験する機会は少なく、高校進学を機に都市部へ移り住んでから、芸術が身近にある環境の素晴らしさを実感しました。その経験から、都市だけでなく地方でも音楽を身近に感じてもらえる環境を作りたいと考え、芸術文化学科への進学を決めました。

大学では、美術史やアートマネジメントなどを学び、幅広い視点から芸術を考える力を養いました。地域連携の授業では、音楽フェスの事業運営に携わり、学んだ知識を実践に活かす機会を得ました。また、サクソフォン奏者としてコンクールやリサイタルに参加し、音楽の魅力を発信する活動も続けています。

演奏者としての視点と、文化を広める側としての視点。その両方を活かし、将来は音楽をより多くの人に届けられる仕事に就きたいと考えています。

高3のとき	音楽をより多くの人に届ける仕事を志し、芸術文化学科を志望
1年次	美術史を学び、音楽以外の芸術分野にも関心を広げる
2年次	アートマネジメントを学び、文化政策や芸術支援の仕組みを学ぶ
3年次	地域連携の授業で音楽フェスの事業運営に携わり、実践的な学びを深める



芸術を支える視点を学び、
行政の現場へ

—— 芸術文化学科 4年 大澤 佳子
長野県伊那弥生ヶ丘高等学校出身

芸術全般に興味があり、SUACなら幅広い分野を学べると考え入学しました。1年次は美術史を中心に知識を深め、2年次にはアートマネジメントや文化政策を学びました。特に地域連携演習では、磐田市で歴史的な広告「引き札」を活用したまちづくりを提案し、芸術で地域活性化を学びました。

3年次にフランスのブルゴーニュ大学に4ヶ月留学し、ルーブル美術館で作品鑑賞やフランスの文化政策を体感しました。4年次にはアンリ・マティスの切り紙絵をテーマに卒業論文を執筆し、少人数ゼミで意見交換しながら研究を進めています。

卒業後は長野県庁で政策に携わる予定です。芸術は観光、教育、福祉など多様な分野と関わりがあり、その可能性を広げる仕事がしたいと考えています。SUACは興味を深めて将来につなげる環境が整っており、自分の好きなことをとことん学びたい人にぴったりの大学です。

高3のとき	絵画や音楽などの芸術全般に興味を持ち、芸術文化学科を志望
1年次	美術史を中心に学び、知見を広げる
2年次	アートマネジメント系の授業を履修し、文化政策や芸術支援の仕組みを学ぶ
3年次	フランスのブルゴーニュ大学CIEF（海外協定校）に4ヶ月間留学し、美術館や文化政策の現場を体験
4年次	アンリ・マティスの切り紙絵をテーマに卒業研究を進める

芸術文化学科の「知」と「実践」

舞台芸術プロデュースの実践から劇場を考察・体感する

劇場プロデュース論

この授業では、芸術・文化を創造する「劇場」の歴史やメカニズムを押さえます。劇場史やメカニズムの進化が、上演される舞台芸術作品のプロデュース方法に影響を与え、演劇、ミュージカル、ダンス作品の演出理念は劇的世界を革命的に変えてきました。演劇人や劇場人の芸術理念の理解を深めながら、劇場空間、劇場運営にどのように反映されているのか。考える力、実行力を養うため、基礎から応用まで、社会での即戦力を養うプログラムを組んでいます。教員が設定するテーマ（企画・プロデュース）の下、専門的な環境の中で、実際にチームワークとしての舞台制作の実践や劇場見学、劇場運営実習を行いながら、劇場から発信することの意味を考察・体感していきます。



アートセンターで学び、実践する

地域連携演習（鴨江アートセンター連携事業）

元警察署をリノベーションして開館した鴨江アートセンター。旧銀行協会の建物を活かし映画関連事業を行う木下恵介記念館。2つの文化施設で芸術家と市民に接しながら、美術、音楽、映像、演劇など、さまざまなジャンルの事業を学ぶ地域連携演習のプログラムです。具体的には、アートコーディネーターの仕事に触れながら、子供から高齢者まで多様な世代を対象としたワークショップ、アーティスト・イン・レジデンス事業で滞する芸術家と市民の交流事業や展覧会などに運営者として参加します。この過程を通して、事業を作ることの楽しさと難しさ、地域の文化施設の役割を考えていきます。プログラムの発展として、2025年は学生が自主企画し、ドキュメンタリー映画上映会を開催しました。



卒業生の主な進路（抜粋）

公務

静岡県庁（行政・警察行政）	浜松市役所
長野県庁	豊橋市役所
静岡市役所	田原市役所

製造業

スズキ（株）	チャコット（株）
（株）石舟庵	（株）デンソー
（有）春華堂	浜名湖電装（株）

金融・保険業

遠州中央農業協同組合	第一生命保険（株）
（株）静岡銀行	日本生命保険（相）
（株）常陽銀行	浜松磐田信用金庫

卸売・小売業

天方産業（株）	資生堂販売（株）
ネットコトヤ静浜（株）	（株）ハンズ
（株）安心堂	ヤマハミュージック東海（株）

ガス・運輸・旅行業

遠州鉄道（株）	（株）TOKAIホールディングス
近畿日本鉄道（株）	サーラエナジー（株）
中部国際空港旅客サービス（株）	（株）ラグーナテンボス

サービス業・その他

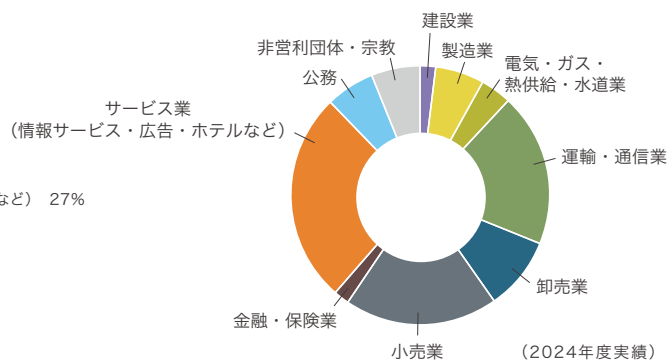
（大）静岡大学（職員）	（株）スペース
（大）東海国立大学機構（司書）	日本郵政（株）
テレビ静岡システムクリエイツ（株）	LEGOLAND Japan（同）

大学院進学

静岡大学	立命館大学
静岡文化芸術大学	京都工芸繊維大学
成城大学	愛媛大学

就職データ

建設業 2%	金融・保険業 2%
製造業 6%	サービス業
電気・ガス・熱供給・水道業 4%	（情報サービス・広告・ホテルなど） 27%
運輸・通信業 19%	公務 6%
卸売業 9%	非営利団体・宗教 6%
小売業 19%	



芸術文化に係る仕事

文化財団・民間劇場、美術館、指定管理者（企業）

（株）エスピーエスたくみ	（公財）静岡県文化財団
（株）共立ファシリティ・マネージメント	（公財）三重県文化振興事業団
（株）ケイミックスパブリックビジネス	（公財）静岡市文化振興財団
サントリーパブリシティサービス（株）	（公財）浜松市文化振興財団
（株）シグマコミュニケーションズ	（公財）横浜市芸術文化振興財団
（株）博多座	（公財）名古屋市文化振興事業団
（株）ヤタロー	（公財）しほね文化振興財団
（独）日本芸術文化振興会	（公財）豊橋文化振興財団

（公財）豊田市文化振興財団

実演団体、コンテンツ制作（舞台芸術・映像など）

（株）アリス館	（一財）福沢市文化振興財団
（株）テレビ山梨	人形劇団むすび座
（株）SBSプロモーション	（株）ビーエーシー
（株）キョードー東京	浜松ケーブルテレビ（株）
（株）静岡新聞社・静岡放送（株）	（株）若尾総合舞台
（株）宝塚舞台	（株）WOWOWプラス
	（株）USEN-NEXT HOLDINGS

学芸員資格関連

磐田市香りの博物館（学芸員）
小泉八雲記念館（学芸員）
（公財）平野美術館（学芸員）
（公財）日動美術財団（学芸員）
和光市役所（学芸員）
日本通運（株）関東美術品支店
（株）丹青ディスプレイ
（株）墨仁堂

文明観光学コース



コースの詳細は
公式Webサイトへ

世界の人々が魅力的な出会いを求めて旅する観光は、地球規模の持続可能な社会の実現に寄与するといわれています。日本でも、地域の文化を新たに輝かせ、豊かな生活を生み出さう大切な産業と期待されます。いま求められるのは、文明という広い視野から観光の持つ創造力を捉える学問領域です。本コースは、文明史の観点から観光を捉え、持続しうる観光産業と多様な芸術・文化を融合できる人の育成を目指します。

目指す人物像

新しい観光資源の発掘

名所・旧跡や食・温泉などの観光資源に加え、文化遺産や産業遺産、芸術文化活動など、新しい観光資源の発掘を担える人材を育成します。

観光分野における地域活性化

浜松を中心として三遠南信地域で行うフィールドワークの体験を活かし、地場産業や伝統文化を踏まえて、観光分野における地域活性化を推進できる人材を育成します。

グローバルな視野による貢献

実践的な外国語能力と文化・芸術分野の実務能力を備え、グローバルな視野から地域の観光・文化に貢献できる人材を育成します。

コースの仕組み

本コースは、文化政策学部の3学科すべての学生が履修することができます。

◎1年次のガイダンスで、カリキュラム（必修・選択科目、ゼミ選択など）についての説明を受け、該当する科目を1～2年次の間に履修します。

◎2年次に、ゼミ説明会や面談などを経た上で、文明観光学ゼミを選択します（一定の定員があります）。

◎3年次から、文明観光学コース専任教員によるゼミに所属し、卒業研究の指導を受けます。

◎文明観光学コースを履修した学生には、文化政策学部各学科の卒業証書に加え、文明観光学コースの修了証を授与します。

開講科目例

「文明と観光」

担当教員：横山俊夫 学長 ほか
開講年次：1年次前期

文明観光学コースの基礎となる必修科目です。まず「文明」と「観光」の概念が多様であることを示して、その上で、現代の世界や日本の諸地域に望まれる「文明」を考えつつ、それにかかわる「観光」という現象について考えます。

「観光と地理」

担当教員：青木 健 教授
開講年次：2年次後期

自然環境と社会の関係を解く地理学の視点から、観光について考えます。特に、異なる文化圏の人々が交流し交易した日本の東海道、ユーラシアのシルクロードなどの街道を取り上げ、観光資源としての魅力を探ります。

「観光と社会」

担当教員：宮崎千穂 准教授
開講年次：1年次後期

古より今日に至るまで、人類は移動をし、生活を営み、文明を築いてきました。観光現象は、人類社会を映す鏡でもあります。本科目では、さまざまな旅や観光の現象を通して、人類社会のあり方について考えます。



写真：静岡県観光協会

オプション・スタディーズ

所属学科の専門領域に加えて、さらに学びを広げる学科横断型プログラム。

テーマに沿ってまとめられた他学科の体系的な科目群を履修し、

物事を総合的・学際的に捉える視点を養います。



コースの詳細は
公式Webサイトへ

所属する学科での専門的な学び

+

他学科科目を中心に構成されるプログラム

文化政策学科

芸術文化学科

対象プログラム

多文化共生プログラム

【例えばこんな人が対象】

- 日本と世界の社会や文化に関心があり、多様な価値観を身につけたい
- グローバルな視野を持ち、地域や世界で活躍したい
- 多文化共生に関連する研究に取り組みたい

科目例／多文化とエスニシティ、国際協力論、国際労働力移動論、フェアトレード論 など

外国語強化プログラム

【例えばこんな人が対象】

- 外国語能力をさらに強化し、グローバル社会で活躍したい
- 多様な価値観に基づくコミュニケーション能力を身につけ、世界の人々と交流したい
- 外国語を用いて研究に取り組みたい

対象となる言語／英語、中国語、韓国語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語

国際文化学科

芸術文化学科

対象プログラム

公共政策プログラム

【例えばこんな人が対象】

- 国や地方自治体の政策について体系的な知識を身につけたい
- 公務員の業務についての学際的な知識を身につけたい
- 政治・行政・法律などの視点から、海外の経済や企業経営、非営利組織の運営等について研究したい

科目例／経済学、行政学、地域福祉論、マスコミュニケーション論、公共デザイン戦略 など

経済・経営プログラム

【例えばこんな人が対象】

- 民間企業の経営や非営利組織の運営に必要な知識を体系的に身につけたい
- 経済学・経営学などの視点から、海外の経済や企業経営、非営利組織の運営等について研究したい

科目例／NPO・NGO論、マーケティング論、グローバルビジネス論、社会統計分析 など

国際文化学科

文化政策学科

対象プログラム

芸術学プログラム

【例えばこんな人が対象】

- 芸術を教養として幅広く身につけたい
- 芸術文化（美術、音楽、演劇等）に関連する研究に取り組みたい

科目例／音楽史、演劇史、美術史、現代芸術論、イタリア文化史 など

教員紹介

国際文化学科

永井 敦子

NAGAI Atsuko



教授／学科長
西洋史

近世フランスの都市文化を研究し、講義では西洋近代文明にも触れます。ゼミでは外国語文献を使って西洋の歴史と文化を考察します。

青木 健

AOKI Takeshi



教授
宗教学／
西アジア文明

古代オリエントからイスラム期にかけての西アジアの宗教を研究しています。特に、古代ペルシアのゾロアスター教が専門です。

林 在圭

LIM Jaegyung



教授
韓国文化／韓国語

専門は韓国文化・韓国語で、特に日本や韓国の村落社会を対象とした伝統的・基層的な生活文化を研究しています。

Edward Pearse SARICH



教授
英語教育

学生が使える英語を修得できるような支援体制を整えています。学生自らの「やりたい」という気持ちを大切にしています。

岡田 建志

OKADA Takeshi



教授
東南アジア史

専門はベトナム史です。20世紀初めのベトナムの民族運動を中心に研究しています。授業では、広く東南アジアの歴史や社会を考察します。

倉本 哲男

KURAMOTO Tetsuo



教授
教職実践学／
アメリカ教育学

アメリカ等の教育学の知見を我が国に「輸入する」研究・教育活動と我が国の教職実践を「輸出する」活動を行っています。

佐野 由紀子

SANO Yukiko



教授
日本語学

現代日本語、特に文法の研究をしています。日本語教員養成課程に関わる授業を中心に担当しています。

Jack RYAN



教授
英語教育／
英語文学

英語文学を研究し、文学を通して英語への好奇心を引き出し、コミュニケーション能力の向上を支援します。

高木 邦子

TAKAGI Kuniko



教授
教育心理学／
発達心理学

青年期の有能感の特徴と形成要因についての研究と、青年期の対人関係や職業選択要因についての研究をしています。

武田 好

TAKEDA Yoshimi



教授
イタリア語／
イタリア文化

研究対象はイタリア語・イタリア文化です。ルネサンス期から近現代に至る文化を個人と国家との関わりから考えていきます。

西田 かほる

NISHIDA Kaoru



教授
日本史／文化史

日本近世史、特に宗教史・文化史が専門です。ゼミでは近世以降の史料読解を中心に、身近な歴史・文化・地域を考察していきます。

二本松 康宏

NIHONMATSU Yasuhiro



教授
日本文学／伝承文学

物語や伝説・信仰などが生まれる環境や風土の研究をしています。こだわりたいのはフィールドワークによる感動と実証です。

水谷 悟

MIZUTANI Satoru



教授
日本近現代史

専門は日本近現代史です。明治・大正・昭和期の雑誌についての思想運動を、政治・メディア・地域等に注目して研究しています。

俞 嶸

YU Rong



教授
中国経済／
開発経済学

中国の格差問題、財政制度について研究しています。特に、経済成長と格差の関係に関心があります。

横田 秀樹

YOKOTA Hideki



教授
第二言語習得／
心理言語学／英語教育

第二言語（外国語）習得のメカニズムを、理論言語学に基づいて調べています。また、外国語の学習方法についても研究しています。

石坂 貴美

ISHIZAKA Takami



准教授
国際開発／
地域研究（アジア）

途上国のセーフティ・ネット構築に向けて研究・実践に取り組んでいます。国内外の社会課題解決に向けて一緒に探究をしましょう。

内尾 太一

UCHIO Taichi



准教授
文化人類学

この学問の魅力はなんといってもフィールドワーク。他者との出会いを通じて、自分の常識や価値観をアップデートしてみませんか。

崔 学松

CUI Xuesong



准教授
中国文化社会／東アジア
国際関係／言語社会学

東アジア国際関係が円滑でない今日、多民族社会の中国など周辺地域と共に逞しく生きる知恵について一緒に考えていきたいです。

佐伯 康考

SAEKI Yasutaka



准教授
国際的な人の移動
研究／多文化共生

異質な存在を排除するのではなく、異なるものが混ざり合う中で生じる摩擦を原動力に、新しい価値を共創する方策を考えましょう。

武田 淳

TAKEDA Jun



准教授
開発人類学／
環境と開発

フェアトレードや観光を切り口に、開発途上国の貧困や環境問題を研究しています。現場の視点から「地域の発展」を考えましょう。

徳増 克己

TOKUMASU Katsumi



准教授
中東北部と旧ソ連の
境界地域史

主に「アゼルバイジャン人」等の民族形成の過程を研究しています。ゼミでは内外の文献を通して近代以降の中東について考えます。

中田 健太郎

NAKATA Kentaro



准教授
フランス文学／
視覚文化論

フランスで始まったシュルレアリスム運動について、またシュルレアリスム以降の視覚文化について研究をしています。

西脇 靖洋

NISHIWAKI Yasuhiro



准教授
国際関係論

主としてEU（欧州連合）を事例とした地域統合や、ポルトガルを中心とした南欧諸国の政治外交について研究しています。

福永 達士

FUKUNAGA Tatsushi



准教授
日本語教育

専門は日本語教育です。多文化社会の町である浜松、そして国際社会に貢献できる日本語教育者の育成に取り組んでいます。

宮崎 千穂

MIYAZAKI Chiho



准教授
旅と病の歴史／
日本とシルクロード

主にユーラシアにおける薬・食の歴史を研究しています。授業では文化の保存・継承をめぐる問題についても考えていきます。

文化政策学科

四方田 雅史 YOMODA Masafumi



教授／学科長
社会経済史／
産業史

日本やアジアに存在する産業やその産地が現在の状況に至った過程や原因について、戦前まで歴史を遡って研究しています。

小杉 大輔 KOSUGI Daisuke



教授
心理学

人間が社会の中で、何をどのように感じ、考え、行動し、発達するのかについて、心理学的に研究しています。

曾根 秀一 SONE Hidekazu



教授
経営学／経営戦略論／
経営組織論

経営戦略・組織論、経年的視点から、特に老舗企業や地場産業の存続と衰退について、国際比較も含め研究しています。

林 左和子 HAYASHI Sawako



教授
図書館情報学

公共図書館はなぜ無料なのか、を考えるために、外国の図書館史や児童サービス、特にユニバーサルデザイン絵本を研究テーマとしています。

船戸 修一 FUNATO Shuichi



教授
社会学／地域社会学

農山村は人口減少や高齢化が進んでいます。このような地域の存続可能性を「社会学」の立場から研究しています。

小林 淑恵 KOBAYASHI Yoshie



准教授
女性のライフコース／
政策／地域福祉

家族形成や就業といったライフコースと政策や福祉制度との関係について研究しています。

野島 那津子 NOJIMA Natsuko



准教授
医療社会学／
福祉社会学

制度に包摂されない病者・障害者の問題や、ある種の人々の排除を促進させる社会的振分けのプロセスについて研究しています。

加藤 裕治 KATO Yuji



教授
文化社会学／
メディア論

メディアを通して形成される文化が社会に与える影響について、マスメディアの歴史的研究の立場から考察しています。

鈴木 浩孝 SUZUKI Hirotaka



教授
応用ミクロ経済学／
産業組織論

複占・寡占市場での企業間の競争や取引について、その仕組みを数理的に解明する研究をしています。

田中 啓 TANAKA Hiraki



教授
行政学／
政策評価・行政評価

行政機関が有効に機能するための仕組みのあり方や、政策の評価について研究しています。

藤井 康幸 FUJII Yasuyuki



教授
都市・地域計画／
まちづくり／創造都市

都市・地域の計画や経営、まちづくりについて、個性的で魅力的な都市、持続可能な都市を意識しつつ、研究しています。

森山 一郎 MORIYAMA Ichiro



特任教授
経営学／
マーケティング論

製造業や小売業のマーケティング戦略について研究しています。これからの市場創造のあり方を共に学んでいきましょう。

塩見 佳也 SHIOMI Yoshinari



准教授
国法学（行政法・憲法）
ドイツ法

法規制の、市民の行動を縛るだけではなく、国家と市場との関係を整備し、価値や情報を生み出す社会的機能や可能性について、考えています。

叢 日超 CONG Richao



講師
廃棄物／エネルギー／
地球温暖化／情報学

AI技術などを用いて資源循環、温暖化、情報関連を研究しています。パソコンを動かす社会の諸課題への解決策と一緒に探究しましょう。

芸術文化学科

高島 知佐子 TAKASHIMA Chisako



教授／学科長
アートマネジメント／
経営学

文化芸術団体はどうやって活動を継続、発展させているのか。活動を担う人々、それを支える組織や産業に着目し研究をしています。

奥中 康人 OKUNAKA Yasuto



教授
音楽学

専門は近現代日本の音楽史。特に日本に外国音楽が流入することによって生じる文化変容や土着化現象について研究しています。

上山 典子 KAMIYAMA Noriko



教授／大学院文化政策研究科長
西洋音楽史

専門は西洋の音楽史や文化研究で、音楽が社会の中でどのように生み出され、受容されていくのに関心があります。

永井 聡子 NAGAI Satoko



教授
演劇・劇場史／
劇場プロデュース論

西洋と日本の演劇・劇場史と舞台芸術の現場を基礎に理論を研究。劇場プロデュースにおける舞台芸術と観客の可能性を探ります。

田中 裕二 TANAKA Yuji



准教授
博物館学／
日本近代史

博物館の運営や近代の企業による芸術支援について研究しています。学科では博物館学芸員の資格課程も担当しています。

田ノ口 誠悟 TANOKUCHI Seigo



講師
演劇学／
西洋演劇史

西洋演劇史を研究しています。台詞劇、パレエ、オペラなど、欧米の舞台芸術が持つ深く多様性に富んだ魅力と一緒に学びましょう。

藪田 淳子 YABUTA Junko



講師
西洋美術史

西洋美術史を研究しています。美術を通して、様々な時代や国の文化や考え方を学んでみませんか。

梅田 英春 UMEDA Hideharu



教授／文化政策
学部長
音楽学

アジア各地の音楽を研究しています。授業では、音段聞き慣れない音楽を通して、音楽と社会の関係について考えます。

片桐 弥生 KATAGIRI Yayoi



教授
日本美術史

私たちの祖先が創り出してきた美術作品には何が求められていたのか、その歴史的な位置づけを明らかにしつつ、探っていきます。

谷川 真美 TANIGAWA Mami



教授／副学長
現代美術／芸術学

現代の芸術現象を手がかりに、私たちが生きているこの時代に関わる思想や世界のありようを研究しています。

佐藤 良子 SATO Yoshiko



准教授
舞台芸術政策論／
地域文化振興論

音楽や舞台芸術などの活動を持続可能なものとするための政策や地域社会との関わりについて研究しています。

稲山 玲 INAYAMA Rei



講師
演劇学／
現代日本演劇

専門は現代日本演劇です。「王権表象」をキーワードに戦後日本の劇作家たちが生み出した作品を研究しています。

南田 明美 MINAMIDA Akemi



講師
芸術社会学／アートマネジメント／文化政策論

社会的弱者に寄り添った芸術文化活動について、日本とシンガポールを比較しながら研究しています。「理論と現場の往復」を大切にしています。

「人と□」の、より良い関係を考え、提案し、創造する

時代とともに変化する人間や文化の多様性を視野に入れ、すべての人に公平でやさしいデザインによる新しい文化・人間社会の創造を通じて、地域社会の発展や文化の向上に貢献し、国際的に活躍できる人材を育成します。

4年間の学びにおいて、人と人、人と技術、人と環境、人と情報とのより良い関係を考え、創造を支える技術と美的感覚を養い、時代に則した生活文化をつくり上げていくデザイン活動の素養を磨いていきます。

デザイン学部

デザイン学科

社会でのデザインの役割を考える

デザイナーとして基礎となる色彩やデッサン、デザインを取り巻く文化や歴史、社会でデザインが果たす役割などを学び「デザインする」ことを多角的に理解した上で、より良い提案やそれを表現するスキルを習得します。

造形基礎力→ 応用的造形技法の修得というステップを重視

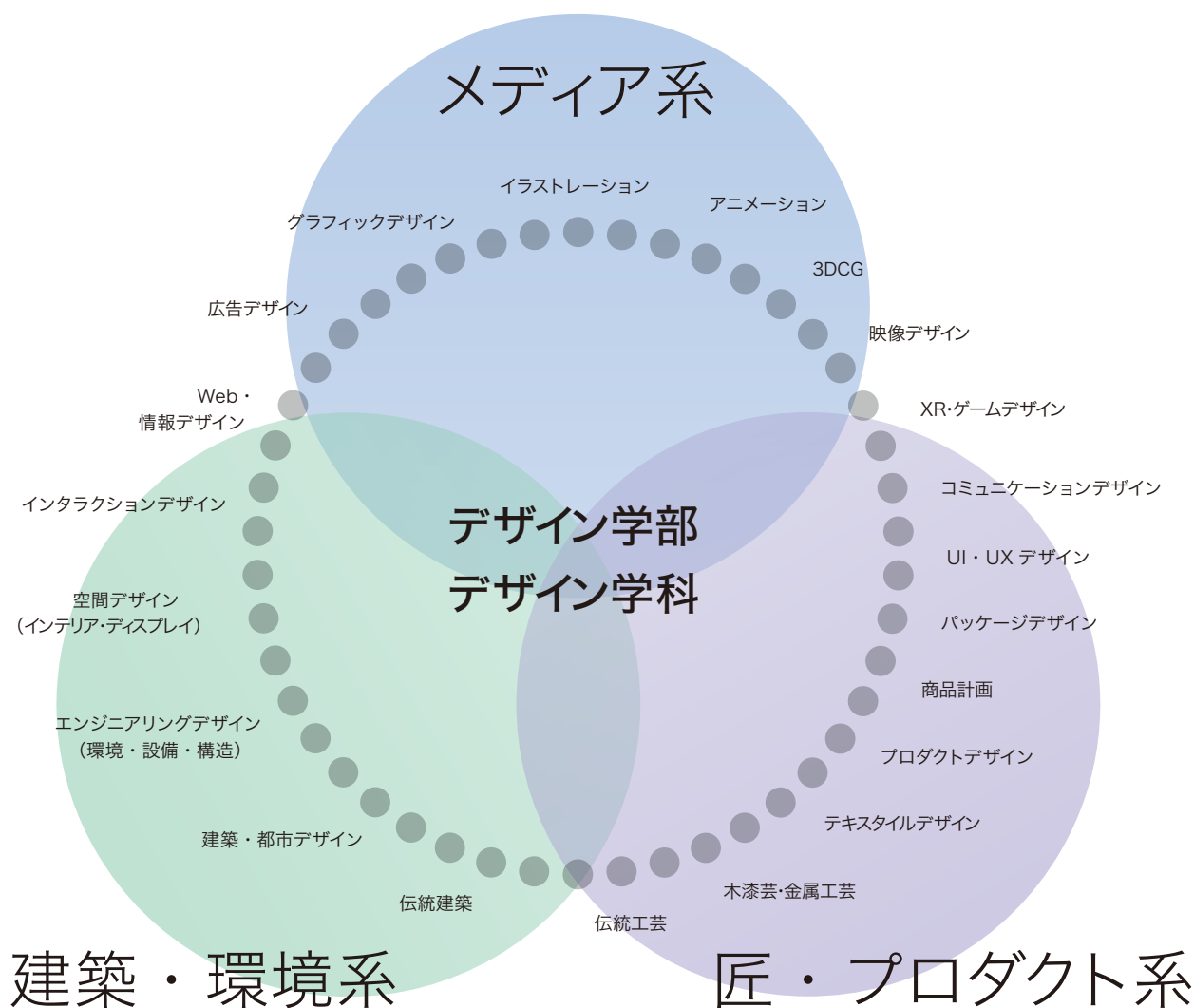
専門科目に先立つデザインに必要なベーシックな技法として、様々な素材や加工法などについて基本を広く学びます。これらの実践的な知識があつてこそ、新しく機能的な提案を生み出すことができます。「基礎造形（平面／立体）」では、デザイナーの創造を支える、モノを見る力、成り立ちを理解する力を養います。

充実した工房群で自由な創作活動

様々なデザインを具現化することのできるクレイモデル室・塗装乾燥室・撮影スタジオおよび各種素材（木材・金属・プラスチック・ガラスなど）が加工できる造形系工房が完備されています。また、CG制作やデジタル合成などを行うグラフィックWS室やマルチメディア室の情報系工房、3Dプリンターやレーザーカッターを備え、デジタルファブリケーションに対応した工作室などの実験系工房なども充実しています。これらの多彩な工房群と過ごす4年間は造形の力を伸ばすのに絶好の環境です。

デザイン学部は3つの系※を横断し、より広く、より深い学びへ

現在、社会の中でのデザインを取り巻く環境は大きな変化を見せています。かつてのように専門分野の知識や技術さえあれば通用するという状況ではなくなりつつあります。もちろん専門的なノウハウが必要なことは言うまでもありません。ただそれだけではなく、デザインのプロセスにおいて多角的な視点で市場動向を分析したり領域を越境してユニークなコンセプトを立案するなど、いわゆる「考える力」が求められています。この柔軟なデザインの思考力はさまざまな分野の内容を総合的に学ぶことで養われると考えます。本学のデザイン学部は1学科制です。その利点を活かし下記の3つの系にまたがる広範囲で専門性に富んだカリキュラムを用意しています。学生たちはそれぞれの進路を踏まえながら必要な科目を分野にとらわれることなく横断的に履修し、幅広く深い学びを獲得することができます。



※図の3つの系とは、デザイン学科で学ぶなかでの進路を踏まえた目指していく方向性をイメージしたものです。

デザイン学科で
取得可能な資格

※詳しくは P080 へ

- ◆一級・二級建築士 木造建築士試験 受験資格 ◆社会調査士
- ◆インテリアプランナー登録資格
- ◆商業施設士補資格（認定校）

デザイン学部 デザイン学科

定員110名

基礎教育から進路までのイメージ

1年次前期～

1年次後期～2年次前期

基礎的な学び

知識を修得する

社会が求める統合的かつ多様なデザイン力を涵養するため、幅広いデザイン領域に共通する概念や理論、現代のデザインへ繋がる歴史やデザインを取り巻く社会環境に関する知識、および国際的なデザイン活動を支える留意事項などを多彩な科目群より学びます。

技術を身につける

豊かな感性と想像力を備えたデザイナーとして社会で活躍するために、自分の発想を平面や立体に的確に表現するなど、デザイナーに必要とされる顧客や社会とコミュニケーションを図る手法を身につけます。また演習を主体とした科目群より新たなアイデアの創造に繋がる造形について学びます。

人にやさしいデザインを理解する

SUACのデザイン教育・研究の基調となるのは、文化・能力・年齢・性別などの違いに関わらず全ての人に公平でやさしいデザインを目指すという理念です。あらゆる立場の人を含むインクルーシブデザインの考え方を理解し、社会の中で幅広く実践できる能力を養います。

専門性を段階的に深める

1年次後期から2年次前期において、3つの系の方向性を意識した科目群によって段階的に専門性を深めていくカリキュラムが設定されています。専門的な知識や造形技法を修得し実践できる力を養います。

学びの方向性を選択

4年間の学びの特長

幅広いデザイン知識と技術の修得

1年次から2年次前期までの期間、必修科目や選択必修科目を中心に幅広くデザインの基礎を学びます。特に各分野の概論を履修することで3つの系の特性を理解し学生それぞれが自分の進路の方向性をイメージすることが重要です。

希望と適性をふまえた方向性の選択

デザインの基礎を身につけながらデザイン分野の多様さや選択肢の幅広さを認識します。その上で、自らの興味と適性をふまえつつ希望する進路を見定め、軸足を3つの系のどこに置くかを判断し、専門科目を履修します。

デザイン学科の
Webサイトのご案内》》

教員や在学生・卒業生の作品をポート
フォリオ形式で見ることができます。



～2年次後期

3年次前期

3年次後期

4年次前期

4年次後期

専門的な学び

匠・プロダクト系

- プロダクトデザイン
- 工芸・造形デザイン

メディア系

- グラフィック・コミュニケーション
- 映像・メディアコンテンツ

建築・環境系

- 建築
- インテリア・空間デザイン

横断的な学び

卒業研究・制作

進路(例)

- プロダクトデザイナー
- Webデザイナー
- エディトリアルデザイナー
- グラフィックデザイナー
- ゲームデザイナー
- インターフェイスデザイナー
- 商品企画などのプランナー
- デザインディレクター
- CGデザイナー
- 家具デザイナー
- インテリアプランナー
- 一級・二級建築士
- 木造建築士
- 商業施設士
- 公務員
- 伝統工芸作家
- 大学院進学

卒業研究・制作と
ゼミについて

3年次後期から担当教員（ゼミ）を選択し、
少人数による活動の中で卒業研究・制作に繋
がる専門分野の知識や技能を深化させます。

3つの系を横断する専門的な学び

専門的な学びに繋がる多彩な内容が学科専門科目として配置されています。これらの科目には各系の区分が設けられているわけではなく、学生はそれぞれの進路を意識しながら必要な科目を横断的に履修し幅広く深い学びを獲得できます。

多様な活躍の場

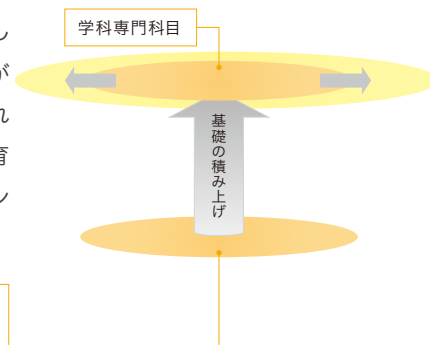
現代の社会状況において、デザインを総合的に捉える力を専門分野の実践の中で活かす機会は増えています。各分野のデザイナーという職業を主体として、企業や官公庁など4年間の学びで培われた力を活かすことのできる多様な活躍の場が待っています。

基礎的な学びから多彩な専門科目へ展開するカリキュラム

デザイン学科では1年次から必修科目や選択基礎科目（基礎理論／基礎演習）を設定しデザイナーとして習得すべき総合的な基礎を学びます。そこで身につけた知識や技術が素養の軸となり、その後の学生の進路に対応した多彩な専門科目の履修に活かされます。また、3年次の「専門横断演習」では、異なる専門分野の教員が協働で教育指導を行い、実社会に展開可能なサービス、製品、体験を含めた横断的なデザイン提案に取り組みます。

必修科目・選択必修科目例

- デザイン概論 ●基礎造形（平面／立体） ●ユニバーサル／インクルーシブデザイン概論
- プロダクトデザイン概論 ●匠造形概論 ●グラフィックデザイン概論 ●映像構成論 ●建築デザイン論
- 視覚表現演習 ●写真撮影技法 ●プログラミング基礎演習 ●素材基礎演習 ●専門横断演習



基礎的な学び…デザインとは何かを考える

デザインの基本は気づいて考えることです。デザイン学部では芸術的感性だけではなく、歴史・文化・科学の知識を活かしながら身近な暮らしや社会の中に問題を発見する力を重視します。どのようなモノやコトがあればその問題が解決できるのかを1学科制の利点によって培われた総合的な思考で論理的かつ実証的に考え、さまざまな知恵やアイデアを結び合わせ解決策の実現を目指します。このプロセスを通して、デザイン論や手法を具体的に理解しながら社会の幅広い分野の中でデザインの役割を拡張できる人材を育成します。

開講科目例

ユニバーサル／インクルーシブデザイン概論

■開講年次・・・1年次後期

人の多様性やさまざまな事例を通して「UD／インクルーシブデザイン」の基礎的な知識を体系的に学び、理解を深めるとともに、両学部の学生が、各々のフィールドで「誰もが自立した生活や社会参加できるデザイン」について考える力を身につけます。



デザイン思考

■開講年次・・・1年次後期

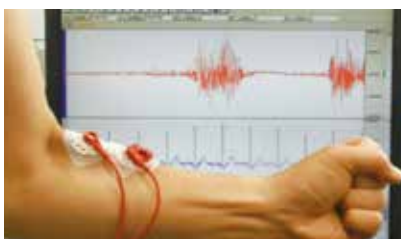
デザイン思考は、デザインプロセスにおける思考方法の一つです。建築やプロダクト、サービスと多岐に渡るデザイン領域で活用され、ユーザー視点を軸としてアイデアを導き出すことを手助けします。この授業ではデザインの基本的な思考法として理解し、実践に用いることを目指しています。



人間工学

■開講年次・・・2年次前期

人間にとってよりよいモノや空間をデザインする際に必要となる人間工学の考え方や測定の方法について学びます。既存の道具や家具、空間、表示などの事例を通して、分かりやすさや使いやすさを実現するための考え方について理解を深める授業です。



ユニバーサルデザイン演習Ⅱ

■開講年次・・・2年次後期

異なる特性を持つ人と共に行動し、観察、分析、ディスカッションを通して、日常生活における課題を提起し、解決策を考えます。「人の感覚や機能の多様性と可能性」を体得することにより、ユニバーサルデザインの本質的な理解が深まります。

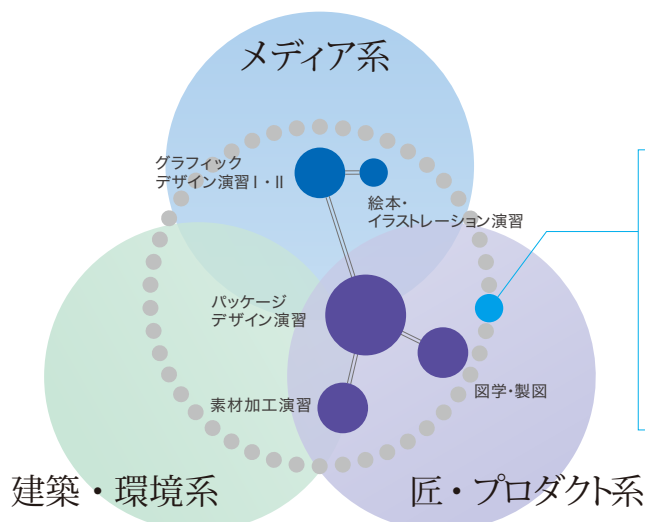


専門分野を中心にしながら幅広く知見や技術を養う横断的な科目履修

3つの系にまたがる横断的な科目履修が可能となるカリキュラムによって、学生はそれぞれの進路を意識しながら専門分野を中心に幅広く深い学びを獲得することができます。



横断的な科目履修例



横断的履修のイメージ例

パッケージデザイン に取り組んでみたい!

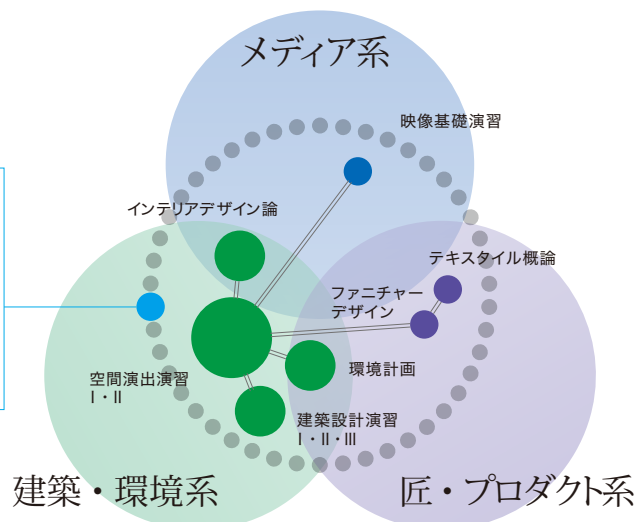
匠・プロダクト系の科目履修に重点を置き、素材や構造などパッケージの道具的機能について学ぶ。またメディア系の科目も履修し、色彩や文字、レイアウトなどパッケージの情報の機能についても学ぶ。



横断的履修のイメージ例

インテリアデザイン に取り組んでみたい!

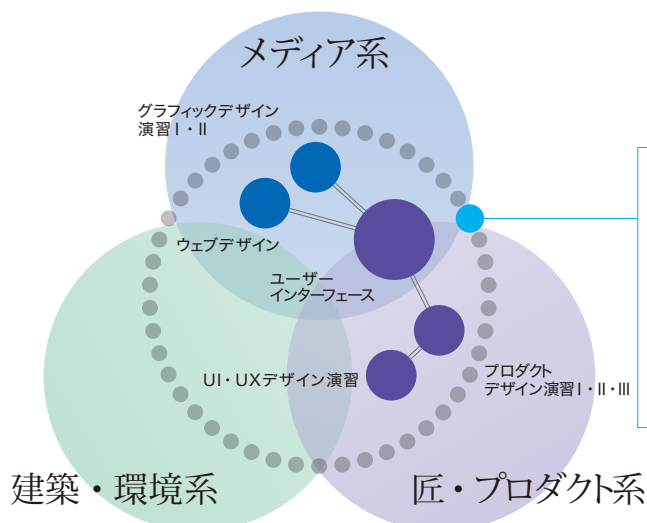
建築・環境系の科目履修に重点を置き、建築的な内観設計や構造、設備について学ぶ。またメディア系の科目で映像演出の手法などについて学ぶ。



横断的履修のイメージ例

UI・UXデザイン に取り組んでみたい!

メディア系と匠・プロダクト系の両方の科目履修に重点を置く。前者ではインターフェイスやインフォグラフィックなどデジタルコンテンツ制作の基本を学ぶ。後者ではUI・UXのプロダクトデザインへの展開について学ぶ。



基礎的な学び

- デザイン概論
- 基礎造形(平面／立体)
- ユニバーサル／インクルーシブデザイン概論
- プロダクトデザイン概論
- 映像構成論
- グラフィックデザイン概論
- 建築デザイン論
- 匠造形概論
- 視覚表現演習
- 写真撮影技法
- 素材基礎演習
- プログラミング基礎演習

プロダクトデザイン

プロダクトデザインでは、産業活動を通してより良い社会と心豊かな暮らしを実現するための製品やサービスを具現化します。社会を構成するさまざまな人々に魅力ある価値をデザインするために、そのプロセスでは、環境・社会、何よりも人間について深く考える力が必要であり、具現化のためには、外観を含めた機能・分かりやすさ・使いやすさを実現する力が必要です。人間工学やマーケティングなどの講義の他に、自ら検証しながら製品をデザインする演習や課題解決のための各種プロジェクトを通して、こうした能力を身につけます。

1年次ピックアップ科目

プロダクトデザイン概論



プロダクトデザインを学ぶ上での基礎知識習得を目標に、社会や市場、素材や加工技術とプロダクトデザインの関係性について理解し、デザインを具現化するプロセスに必要なデザイナーが身につけるべき技能・技術などについても、さまざまな分野の具体的事例を通して学びます。

工芸・造形デザイン

デザインにおいて、素材選びや加工方法を考えて形にすることは、とても重要なことです。古来より我々の生活には、木、土、繊維、金属などのさまざまな素材が用いられてきました。そして長い歴史の中で発展を遂げ、今日では「工芸」という分野が確立され、職人の手業による精度の高いものづくりが海外からも注目を浴びています。本学では日本の伝統的な技法、道具の扱い方などについて学び、手仕事を通して各素材についての理解を深めます。理論と実践の両輪で、社会に還元できる新しいデザインを考えていきます。

1年次ピックアップ科目

匠造形概論



本講義では、造形芸術への理解を深め、現代社会における造形芸術のあり方を学ぶことを目的として、特に工芸技法による造形作品とその作家を具体例に、造形表現に伴う技術および技法と素材から見る特性に焦点を当てます。また、建築空間や総合芸術などに見られる造形芸術を概説します。



2年次ピックアップ科目

プロダクトデザイン演習Ⅰ



手で持って使う機器を題材に製品デザイン開発の入門的なプロセスを体験し、プロダクトデザイン開発に必要な知識とスキルを習得します。モデリングの過程においては、使いやすさの検証とともに、形状や素材の組み合わせによる審美性を追求します。

2年次ピックアップ科目

パッケージデザイン演習



内容物の保護・保持・イメージ伝達などのパッケージデザインに必要な特性について学びます。ブランディングを含めた総合的な表現・演出をテーマとして課題制作に取り組むことにより、形・構造・素材・色彩・構成について理解を深め、パッケージデザインの応用的手法を習得します。

2年次ピックアップ科目

素材加工演習



デザインにおいて、さまざまな素材への理解は欠かせません。素材加工演習では、私たちが日常生活において欠かすことのできない身近な素材を用いて、専門的な知識と加工技法を学ぶとともに、その素材や技法の魅力を発見し、新たなデザイン提案に結びつけていきます。

2年次ピックアップ科目

匠造形演習

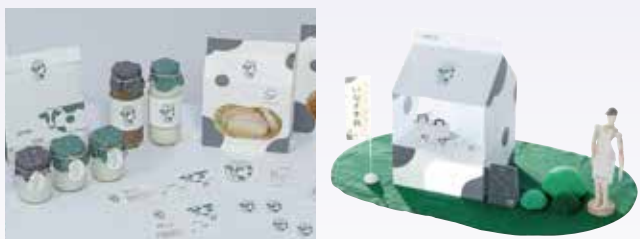


匠造形演習では工芸分野における、さらに専門的な技法について学びます。各専門工房で、より高度な造形力を習得し、伝統技法についての理解を深めます。さまざまな技法に関する特色を知り、手仕事を通して、日本独自の新たなデザインの展開を模索していきます。

学生作品紹介



2024年度卒 吉田妃那/グッ、パッ、ファサッ。(プロダクト)



2024年度卒 串田こころ/INASA MILK STAND (ブランディング)



2024年度卒 巢山悠斗 北原大裕 関根珠音/新たなモビリティブランドの立ち上げ及び製品の考案 (モビリティデザイン、3Dアニメーション)



2024年度卒 鈴木ひかる/返照 (テキスタイルアート)



2023年度卒 大平聖羽/寄り添ううつわ (陶芸・ろくろ成形)



2024年度卒 清水彩月/春彩の理想論 (タペストリー)

基礎的な学び

- デザイン概論
- 基礎造形(平面/立体)
- ユニバーサル/インクルーシブデザイン概論
- プロダクトデザイン概論
- 映像構成論
- グラフィックデザイン概論
- 建築デザイン論
- 匠造形概論
- 視覚表現演習
- 写真撮影技法
- 素材基礎演習
- プログラミング基礎演習

グラフィック・コミュニケーション

私たちは日々、無数の情報に囲まれ、他者とコミュニケーションを取りながら生活しています。そのような時代に、情報の本質を正確かつ分かりやすく表現し、適切に伝える能力はとても重要です。印刷やWebなどの多様なメディアへの理解を深め、さらに情報を視覚的に表現するグラフィックデザインの技術を身につけます。広告、パッケージ、イラストレーション、エディトリアル、ブランディングなど、さまざまなデザイン実務に繋がる講義と演習に取り組み、理解と共感を呼び起こすビジュアル・コミュニケーションのデザイン能力を習得します。

1年次ピックアップ科目

視覚表現演習



グラフィックデザインをはじめ、さまざまなデザイン分野で活用可能な視覚表現の基礎を学びます。文字やシンボルマークなどをデザインする上での基本的な考え方を理解し、課題制作を通じて表現技術を身につけます。視覚表現を専門とする複数の教員によるオムニバス形式の授業です。



映像・メディアコンテンツ

現代のメディアデザインの中核をなす、映像制作のためのさまざまな手法を体系的に学びます。アニメーションの基礎からCGや実写撮影、画像合成など、多彩な映像作成技法の演習を通して、ユニークで質の高い映像コンテンツを生み出す表現力を養います。また、現代ではテクノロジーを活用した「新たな体験・経験」を生み出すデジタルコンテンツの分野に拡張され、インタラクティブデザインを中核とした学びや現代アートからインスタレーション、ゲームの技術や知識を身につけ、感性を生かしたエンターテインメントの創作の可能性を学びます。

2年次ピックアップ科目

サウンドデザイン



サウンドデザインは音楽制作に始まり、映像制作、ゲーム、ライブパフォーマンスからサウンドアートまで、幅広い分野にわたります。音楽だけではなく、言葉、環境音、ゲームのサウンドエフェクトなど、多岐にわたるサウンドのデザインを学びます。



2年次ピックアップ科目

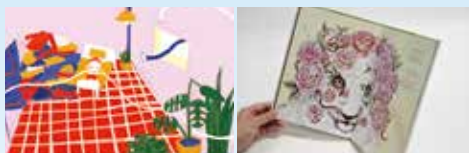
グラフィックデザイン演習 II



第三者にメッセージを伝えるビジュアル・プロモーションをテーマとして複数のデザイン成果物を制作し、グラフィックデザインの実践的な能力を高めます。「何のために」「誰に」「何を」伝えるかという目的性を踏まえた表現を追求し、グラフィックデザイン本来の役割について体験的に学習します。

2年次ピックアップ科目

絵本・イラストレーション演習



「ことばと絵によって物語る生き物」である絵本と、イラストレーションについての専門的な知識と技術を身につけます。優れた作品表現を観察して、色彩・かたちとコンテキスト・構造・物語などとの関係を理解し、イラストレーションおよび絵本の制作を通して表現力・構成力・統合力を養います。

2年次ピックアップ科目

3DCG演習 II



3DCGの作業工程であるモデリング、アニメーション、レンダリングを学びながらキャラクターデザイン、カメラワーク、ライティングなどの専門分野も網羅的に学びます。3DCG制作のツールの習得だけではなく、3DCGの表現力も高めていきます。

3年次ピックアップ科目

エンターテインメントデザイン



五感を刺激するエンターテインメントシステムを題材に、未来のコミュニケーションメディアのあり方を考察します。メディアアート、映像、ゲーム、Web、広告、マンガなどのデザインの現場で展開する最新の事例を学び、自ら創り出すための方法について学びます。

学生作品紹介



2023年度卒 鈴木志歩／ねこたび日記（フォトエッセイ・ポスターデザイン）



2022年度卒 伊藤大希／賢者（手描きイラストレーション）



2024年度卒 柿山いづる／未知とは、（パペットアニメーション、手書きアニメーション）



2024年度卒 杉本日菜／自分自信（3DCGアニメーション）



2022年度卒 安藤萌／森のかくれんぼ（AR絵本）



2023年度卒 佐々木健輔／YAHIRADE（音楽ゲームインストールーション）

基礎的な学び

- デザイン概論
- 基礎造形(平面/立体)
- ユニバーサル/
インクルーシブデザイン概論
- プロダクトデザイン概論
- 映像構成論
- グラフィックデザイン概論
- 建築デザイン論
- 匠造形概論
- 視覚表現演習
- 写真撮影技法
- 素材基礎演習
- プログラミング基礎演習

建築

一般に「建築」は、一つひとつの「建物」を指すと思われるかもしれませんが、本来「建築」は、人々が安心して生活できる空間を作り出すプロセスや、その結果生み出される空間や環境を含んだ概念です。この「建築」という概念に基づき、建築・都市・ランドスケープなどを対象に、環境デザインやエンジニアリングデザインなどのデザイン理念を重ね、社会のニーズに対応することを学びます。必要な科目の履修により、一級・二級建築士、木造建築士の受験資格が得られます。またインテリアプランナー、商業施設士の資格に挑戦する学生もいます。

1年次ピックアップ科目

建築デザイン論



建築デザインの実現に関わる要素、技術、およびそれらの背景となる思想について学び、建築デザインへの理解を深めます。近代から現代を中心とした具体的事例を対象として、周辺環境との関わりや構造形式、機能との関係など、多様な視点からの分析を通して学習します。

インテリア・空間デザイン

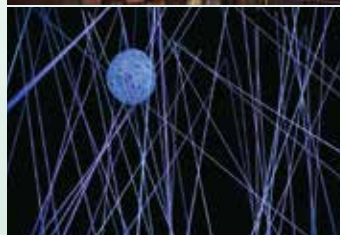
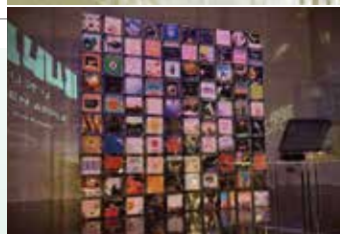
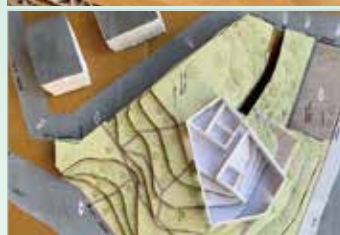
私たちの暮らしは空間の中で営まれています。空間を学び知ることは、自宅や学校、職場、商業施設、公園など実在する場あるいは場面で、生活の質を向上させていく手がかりとなるものです。また今日、ICTの進展に伴い登場したメタバースやインターネット上の仮想空間についての取組みも盛んに行われ、こうした新たな空間領域も学びの対象とします。「インテリア・空間デザイン」は、概論、歴史的背景、専門知識、空間演出方法などを幅広く修得することはもとより、インテリア・空間デザイン関連の実務を意識した実践演習を行います。

1年次ピックアップ科目

空間デザイン



「空間をデザインする」ことは自然や人間社会に対してどのような役割を担っているのか、その楽しさや重要性を学びます。空間デザインを理解することによって、空間は生活の中のさまざまな時間を創造してくれることに気づき、その要因の歴史的背景や現代における表現手法を読み取る感覚を育てます。



2年次ピックアップ科目

日本伝統建築



日本の伝統建築は、歴史や文化を背景に様式を確立し、継承されてきました。建築様式と技術の歴史、建築を構成する材料や道具についても学びます。文化財政策や保存・活用についても理解を深め、地域の文化資産である伝統建築のあり方も考えます。

2年次ピックアップ科目

建築設計演習 II



地域の環境や景観を念頭に置きながら、公共的な施設の設計や複合施設のグループ設計に取り組むことを通じて、求められる要件を総合的にまとめ空間化することを実践的に学びます。毎週の授業で個別指導を受け、完成時には発表し講評を受けることにより、計画を客観的に評価する視点も学びます。

2年次ピックアップ科目

インテリアデザイン論



生活に彩りを与えるインテリアデザインについて、歴史や社会潮流の中でどのように育まれてきたか、その豊かさを学びます。インテリアデザインの知識・理論・手法を理解することによって、身近な空間が心身や五感と呼応していることに気づき、美しいインテリア空間をデザインする感覚を育てます。

2年次ピックアップ科目

空間演出演習 II



空間を構成する基本的な要素である「色・光・音」を用いて、住宅やパブリックスペース、商業施設内ディスプレイなどの空間演出のデザイン演習を行います。演習では高度な演出技術を検討し、また、美しさのメカニズムや演出効果を探索することで新しい空間表現や空間演出に挑戦していきます。

学生作品紹介



2024年度卒 松本文典／衰退する町への伸び縮みしるのススメ（建築設計）



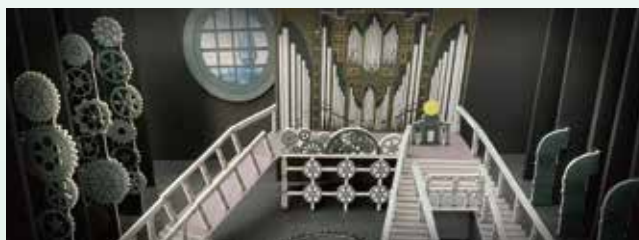
2024年度卒 坂本都波／おまちのまち歩き（建築設計）



2024年度卒 酒井駿太／集落の居の間で（建築設計）



2024年度卒 村岡 凜／居場所が見つかる学び舎～行きたいときに、居たい場所で～（建築設計）



2024年度卒 武山由依／ユゲデール城（舞台美術）



2023年度卒 石田絵莉／服を眺める（ディスプレイ設計）

学生たちからのメッセージ

バイクのCMFデザインに 出会い、モビリティの 未来を創る。

幼い頃、車メーカーのイベントでデザインという仕事を知り、それがずっと心に残っていました。受験当初は別の進学先も考えていましたが、SUACのオープンキャンパスで工房を見た瞬間、「ここしかない」と即決。施設の充実度と、並ぶ車のスケッチの数々に魅了されました。

大学では、プロダクトデザインの基礎を学ぶうちに、四輪ではなくバイクのデザインに興味を持つようになりました。バイクはすべて剥き出しのプロダクトで、CMF（カラー・マテリアル・フィニッシュ）を通じて、デザインの世界観をダイレクトに表現できるのが魅力です。色や素材、グラフィックを駆使することで、乗る人の感性に訴えかけるデザインを生み出せると気づき、どんどんのめり込んでいきました。服部ゼミでは、地元のバイクメーカーのデザイナーが招かれ、業界の最前線を学ぶ機会が多くありました。また、地域のスタートアップ企業にポートフォリオを持参し、デザイナーとしての仕事を獲得。実践を通じて、自分のデザイン力を試す貴重な経験を得ました。



今後は、バイクメーカーのCMFデザイナーとしてのキャリアがスタートしていきます。好きなことを仕事にするのは簡単ではありませんが、SUACにはやりたいことを実現できる環境があります。自分の「好き」を突き詰めることで、理想の未来を切り開いてほしいです。

同じゼミの3人で分担し、2035年想定のEVバイクモデルを作成しました。私はCMFデザイン、塗装を担当しました。バイクのさらなる魅力を引き出せるようデザインを考え、調色をし塗装しました。



関根 珠音

デザイン学科 4年 桐蔭学園高等学校（神奈川県）出身

デザインの視点で 世界を見つめ、学び、 創造する。



高校時代は海外進学を考えていましたが、コロナ禍の影響で国内の大学を選択。デザインと国際系の学びができるSUACに興味を持ち、挑戦しました。デザイン学科を選んだのは、何か新しいことを学び、自分のスキルを広げたいと考えたからです。デザインフィロソフィー領域では、作品としての「モノ」だけでなく、課題解決に至る「プロセス」を重視します。デザインの視点から社会課題を考える学びを通して、広い視野で物事を捉えられるようになりました。ゼミでは「人との関わりの中で価値観の違いを知り、それを学びにする」というテーマとデザインを掛け合わせたコミュニケーションツール「SparkCanvas」を提案する研究に取り組んでいます。



作品名／“SparkCanvas”

自分の中の大きなテーマである、「人との関わりの中で価値観の違いを知り、それを学びにする」というものと、「デザイン」という要素を掛け合わせたコミュニケーションツールを考えました。

また、1年次には国際文化学科の教授のプロジェクトに参加し、バングラデシュでのフィールドワークを経験。紛争や貧困の中でも学びを求める子供たちの姿を目の当たりにし、教育とデザインの可能性に強く興味を持ちました。現在はデンマーク留学に向けた準備を進め、主体的な学びの在り方を探求する予定です。将来は、アートやデザインを活かして教育分野の課題解決に貢献したいと考えています。SUACは、自ら学び、経験を積むことで視野を広げられる環境。私のように多様な興味を持つ人にとって、最適な学びの場です。

佐々木 天音

デザイン学科 3年 神奈川県立小田原高等学校出身

グラフィックデザインで “想い”を 可視化する。

幼いころからデザインの道に進みたいと思い、設備が整った地元の公立大学であるSUACに進学しました。デザイン学科には多様な価値観を持つ仲間が集まり、創作に対する熱量の高さに刺激を受けました。学びの中で特に印象的だったのは、「デザインには明確な意図がある」という気づきです。ただおしゃれだけでなく、制作者が消費者に伝えたい想いを込めることが、美しいデザインにつながると理解しました。



今年度は、創作活動を支援するコミュニティ「JANKIE」を立ち上げました。SUACの碧風祭ではオリジナル作品を販売する学生が多い一方で、自分のブースを持つと他の展示を見に行く時間が取れないという課題がありました。そこで、出展者同士がシフトを調整し合える団体を作り、より多くの学生が碧風祭を楽しめる環境を整えました。企画・運営を通じて、デザイナーをまとめる立場の難しさや面白さを実感しました。

現在は、グラフィックデザインを専門に学び、コンペに挑戦したり就活サイトに作品を掲載したりと、積極的に活動しています。将来的にはフリーランスを視野に入れながら、人の心を動かすデザインを追求していきたいです。



作品名／JANKIE物販用オリジナルステッカー

元々は2年次後期履修の「グラフィックデザイン演習C」の課題として、「かわいい・おしゃれ・おかしみ」をテーマに制作したイラストを、碧風祭のためにステッカー化したものです。パッケージの梱包から販売までを一貫して行いました。

中川 夏依吏

デザイン学科 3年 静岡県立島田高等学校出身

情報処理の授業が きっかけで、 ゲーム制作の道へ。

コンピュータグラフィックに興味があり、幅広いデザインを学べるSUACに進学しました。特に印象的だったのは、2年次に受講した「情報処理A」の授業です。JavaScriptを学び、自分の思い描いた通りにゲームが動く楽しさに夢中になりました。その後、Node.jsを活用したサーバー型ゲームにも挑戦し、プログラムだけでなく、グラフィックやサウンドなど、ゲーム制作全体の知識を深めています。学びの中で最も成長を感じたのは、浜松科学館での展示経験です。来場者に自作ゲームを体験してもらい、フィードバックを受けることで、より良いデザインやユーザー体験を追求する重要性を実感しました。また、的場先生の紹介でサーバー型ゲームに詳しい方と出会い、制作の幅が大きく広がりました。



現在は、卒業制作としてNode.jsを活用したサーバー型ゲーム「コトノハダーツ」を開発中です。卒業後もブラウザゲームの制作を続け、Electronを活用したソフトウェアの開発・販売にも取り組む予定です。SUACでは、専門分野を深めつつも、他領域の知識を吸収できる環境があります。新しい発見を求める人に最適な学びの場です。



作品名 / コトノハダーツ

横長のボードに言葉の付いたダーツを次々に投げ入れ、指定の順番を維持しながら並べていくゲームです。サーバー通信を介してスマートフォンの操作でプレイできます。また、多人数プレイに対応しており同時にダーツを投げられるのも特徴です。

新福 拓也

デザイン学科 4年 愛知県立刈谷高等学校出身

建築知識をベースに、 広い視野での 空間デザインを。



建築の枠を超えたデザインの力を身につけたいと考え、SUACを志望しました。建築だけでなく、多様な領域の知識を学べる環境が整っており、学内の工房設備や、第一線で活躍する講師陣の指導を受けられる点が魅力でした。特に印象に残っているのは、「ホスピタルアートプロジェクト」です。病院の陣痛室や小児病棟の廊下のデザインを担当し、実際の現場で使われる素材や色彩を考慮する難しさを実感しました。病院職員や企業の方々との協働を通じて、授業では得られない貴重な経験ができました。



作品名 / 「遼浜港」へ地域に魅力あるSAとテーマリゾート施設～浜名湖サービエリアに地域の魅力を広めるためのリゾート施設を設計しました。敷地内にテーマの異なる3つの区画を造り、それぞれ宿や温泉など地域の魅力を味わえる空間としました。レジャーの拠点となることも目指しています。

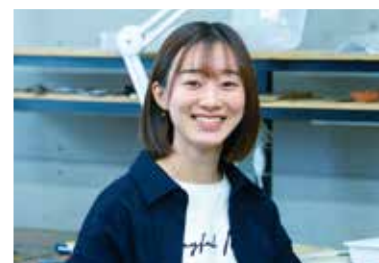
卒業制作では、「地域の魅力を広めるサービエリアとリゾートホテル」の設計に取り組んでいます。空間の変化が人に与える影響を考え、感動を生む空間とは何かを追求中입니다。今後は大学院に進学し、リゾート施設やエンターテインメント空間の設計を目指します。建築士資格を取得し、人を笑顔にできるデザインを追求し続けたいです。SUACには、挑戦を後押ししてくれる環境があります。自分の興味を広げたい人に、ぜひおすすめしたいです。

田中 希実

デザイン学科 4年 愛知県立小坂井高等学校出身

素材と向き合い、 自分の手で未来を つくる。

幼いころから美術が好きで、美術系の大学に進学したいと考えていましたが、具体的にどの分野に進むか決めできていませんでした。プロダクトやグラフィック、クラフトなど幅広く学べるSUACなら、自分に合った表現方法を見つけられると思い、この大学を選びました。入学後、基礎演習でさまざまな領域に触れる中で、素材の特性を活かしながら手を動かす匠領域に興味を持ちました。その中でも特に、自分の手で少しずつ形を変えていける金属に惹かれ、現在は彫金を専攻しています。工房では、教授と学生の距離が近く、授業によってはほぼマンツーマンで指導を受けることができます。少人数だからこそ、技術面だけでなく、材料の調達方法や制作プロセスの工夫など、実践的な知識も深く学んでいます。現在はジュエリー制作に取り組んでおり、七宝の小箱や繊細な装飾を施したリングを制作しています。ジュエリーは小さなズレや傷も許されず、細部まで意識しながら作業することが求められます。制作を重ねる中で、より丁寧に、慎重に手を動かすようになりました。



将来はジュエリー関係の仕事に就き、できれば製造に携わりたいと考えています。そのために、まずは自分のイメージ通りに形をつくれるよう、技術を磨いていきたいです。SUACは、美術やデザインに興味があるけれど具体的な方向性が決まっていな人にぴったりの環境です。まずは自分の表現したいことを大切にしながら、さまざまな技法に挑戦してみたいです。



作品名 / 風と紅葉

掛川の文化財の建物で展示を行うために制作した七宝の小箱です。触りたくなる、愛着が湧くようなものを目指して制作しました。蓋のデザインは紅葉が風に吹かれている様子で、この建物も様々な風に吹かれて変化してきたことを表現しています。

野口 未海

デザイン学科 3年 静岡県立静岡城北高等学校出身

工房紹介

造形系 工房

木材加工室 木材加工

専門的な木材加工を行うための多種多様な機械を設置しています。木材加工専門の助手が常駐しており、制作をサポートします。

◆主な機器／バンドソー、パネルソー、カンナ盤、刃物類



ガラス工房 パーナーワークによるガラス加工、作品の制作

ホウケイ酸ガラス（耐熱ガラス）を、約2,000℃に加熱して加工するための設備を設置しています。変化するガラス特有の物性や加工法を手を動かして学びます。◆主な機器／ガスバーナー、ハンドトーチ、ガラス旋盤、徐冷電気炉



金属工房 彫金・鍛金・鋳金技法による金属素材の加工と造形

金属素材の性質や加工技術について、作品制作を通じて学ぶための道具や設備が豊富に揃っており、金工分野における表現手段と造形力を養うことができます。

◆主な機器／アーク溶接機、ガス溶解炉、高周波遠心鋳造炉



プラスチック加工室 プラスチック加工

プラスチック加工の実習や、プラスチック樹脂を用いた注型・モデル制作を行います。NCトリミング加工機も設置しており、専門的な制作作業が行えます。

◆主な機器／NCトリミング加工機、真空成型機



塗装乾燥室 塗装

自動車一台を塗装できる大型塗装ブースや、有機溶剤を吸収する装置、細かな塗装を行えるエアブラシ装置など、作品の仕上げ塗装に最適な環境です。

◆主な機器／大型塗装ブース、塗料吸気装置、スプレーガン、エアブラシ



クレイモデル室 クレイモデル制作

フルスケールモデル用レイアウトマシンが導入されており、乗用車などの実物大モデルや縮小モデルなどをクレイ（粘土）で制作することができます。

◆主な機器／フルスケールモデル用レイアウトマシン、クレイオープン



情報系 工房

マルチメディア室 サウンド編集・デジタルコンテンツ制作

iMacが設置された工房です。グラフィックデザイン、ゲーム・Webコンテンツの制作、サウンドの録音・編集などを行います。◆主な機器／サウンドスタジオ、iMac



グラフィックWS室 デジタルコンテンツ制作

3DCG制作やゲーム開発、映像のデジタル合成やノンリニア編集など、映像をはじめとするデジタルコンテンツ制作のための作業を行います。◆主な機器／PC（各種ソフトウェア）



その他の工房

造形系工房

情報系工房

実験系工房

金属加工室、ドライモデル室、立体工房、製図室、平面工房、染色工房、CAD/CAM室、暗室、録音スタジオ、総合組立アトリエ

電子制御機器製作室、OA室、CG工房

構造実験室、人体機能実験室、UDラボ、生物機能実験室

木彫工房 木彫制作、漆塗装

木彫制作に必要な設備に加え、器製作のための木工轆轤、漆塗り専用の塗り部屋や、漆風呂を完備しています。

◆主な機器/漆風呂、木工轆轤



陶芸工房 陶芸制作

電動轆轤、真空土練機、たたら機や酸化・還元焼成が可能な大小2基の電気窯など、陶芸に必要な設備が充実しています。

◆主な機器/電気窯、電動轆轤、たたら機、真空



テキスタイル工房 テキスタイル作品制作

染めの設備、高機や卓上機が各種あり、織やミシンワーク、フェルトワークなど繊維やテキスタイル関連の造形設備があります。◆主な機器/スウェーデン・フィンランド・ニュージーランド・日本の手機、手紡ぎ機、ミシン、染色設備



撮影スタジオ 写真撮影・映像撮影

ポートレート撮影や、制作した作品の写真撮影など、様々な用途で撮影を行います。天井にはバンクライトが取り付けられており、操作盤で位置、角度などを調節することができます。◆主な機器/ホリゾン、バンクライト、LEDライト、スタンド類



デッサン室 デッサン・描画制作

石膏像をはじめ、様々なモチーフが準備されていて、それらをデッサンすることができます。デザインに不可欠な観察力と表現力を養うことができます。

◆主な機器/光を選択できる分割天井照明

実験系
工房

空間演出実験室 大判印刷

大型プリンター7台を備えた印刷室です。最大でB0サイズまでのカラー印刷に対応し、授業課題のプレゼンテーションシートや自主制作作品の出力に使われています。

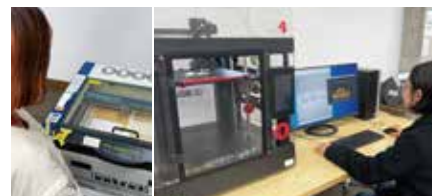
◆主な機器/大型プリンター、PC



工作室 デジタルファブリケーション

CADやCGで作成したデザインデータをもとに3Dプリンターやレーザー加工機を用いて、制作を行います。

◆主な機器/レーザー加工機、3Dプリンター、カッティングプロッタ



デザイン学科の「知」と「実践」

実務経験のある教員 による実践的な 講義・演習

企業などでデザイナーとして豊かな経験をもった教員が多く在籍するデザイン学科では、実践的な講義や演習が展開されています。経験を活かした講義内容や、オムニバス形式で行う多様な企業などから講師を招いた特別講義などを通じて、学生は学習意欲や知的好奇心を高め、キャリアデザインにつなげます。



国際交流を通じて養う グローバルな デザイン感覚

長期休暇を利用して短期日程で行われる語学研修やサマースクールをはじめ、半年から1年の長期留学など、デザイン学科では多様な価値観と歴史と文化を学び、国際的なデザイン感覚を養うため、多くの学生が留学に挑戦しています。現地の学生やデザイナーと英語でコミュニケーションをとり、グループワークやディスカッションを重ねてプレゼンテーションを行うなど、海外に赴いてこそできる様々な経験が可能です。



デザインコンペに挑戦！ 多くの作品が採用

学生を対象に実施される外部団体が主催するデザインコンペティションに、デザイン学科の学生たちは積極的に挑戦しています。応募したグラフィックやプロダクトなどのデザインが採用され、実際に社会の中で多くの方々の目や手に触れることは、デザインを学ぶ上で最も勉強になることのひとつです。2024年度も公共事業やイベント、地域振興などの多くの場面でSUAC生の活躍が目立ちました。



デザイン学部卒業展・ デザイン研究科修了展 (通称:卒展)

4年間の学びの集大成である卒業制作を展示する「卒展」は、4年生自らが企画・運営を行います。毎年2月に学内全体を会場として開催され、一般にも公開されます。課題に向き合いながら培った知識や技術を総動員し取り組む卒業制作。思いがこもった多種多様な作品が並びます。



取得可能な資格

詳しくはP080をご覧ください。

建築士 受験資格	インテリアプランナー登録資格	商業施設士補資格(認定校)
社会調査士		

卒業生の主な進路

製造業

アイシン・エィ・ダブリュ(株)	東芝テック(株)	(株)平成建設	三井ホーム(株)	(株)GKグラフィックス	(株)東急設計コンサルタント
アイリスオーヤマ(株)	TOTO/バスクリエイト(株)	堀部安嗣建築設計事務所	(株)ミルックス	トランスコスモス(株)	ポリゴンマジック(株)
いすゞ自動車(株)	トクラス(株)	(株)ミサワホーム静岡	(株)類設計室	(株)ナビタイムジャパン	(株)ホンダテクノフォート
(株)イトーキ	トヨタ自動車(株)	三井デザインテック(株)	佐藤工業(株)	パナソニック映像(株)	(株)MIXI
エンケイ(株)	(株)豊田自動織機	(株)スペース		(株)ピーエーワークス	ヤマハモーターエンジニアリング(株)
大阪シーリング印刷(株)	トヨタ自動車東日本(株)			(株)フジヤマ	(株)ユークス
(株)オリバー	トヨタ車体(株)			(株)プレックス	(株)ランドマック
柏木工(株)	(株)日産オートモーティブテクノロジー			(株)タカラトミーアーツ	(株)グッドパッチ
(株)河合楽器製作所	(株)日本カラーエンジニアーズ			鈴与デシシステムテクノロジー(株)	フェンリル(株)
河淳(株)	日本たばこ産業(株)			富士ソフト(株)	
キヤノン(株)	パナソニック(株)				
共和レザー(株)	浜松ホトニクス(株)				
起立木工(株)	林テレンプ(株)				
(株)クボタ	(株)パナダイ				
クリナップ(株)	(株)日立製作所				
(株)ケイ・ウノ	日立グローバルライフ				
(株)小糸製作所	ソリューションズ(株)				
コクヨ(株)	富士ゼロックス(株)				
(株)コルグ	ブラザー工業(株)				
コンビ(株)	フランスベッド(株)				

卸売・小売業

サンスター文具(株)	プラス(株)	(株)エフ・ディ・シー・プロダクツ	(株)千趣会	磐田商工会議所	(公財)静岡市文化振興財団
サンワサプライ(株)	ブリヂストンサイクル(株)	オルビス(株)	(株)東京インテリア家具	(株)オリエンタルランド	(株)Teable
(株)システック	(株)本田技術研究所	(株)カインズ	(株)TASAKI	(株)ジー・コミュニケーション	テクノリサーチ(株)
(株)シマノ	(株)マキタ	(株)サマンサタバサジャパンリミテッド	(株)ニトリ	(株)四季	ボラス(株)
シャープ(株)	マツダ(株)	シーラック(株)	(株)プシロード		
(株)シャンソン化粧品	三菱自動車工業(株)	シャディ(株)	(株)ユナイテッドアローズ		
(有)春華堂	(株)ムンスター				
スズキ(株)	矢崎化工(株)				
(株)鈴木楽器製作所	(株)ヤタロー				
スタンレー電気(株)	(株)ヤマニパッケージ				
(株)SUBARU	ヤマハ(株)				
セーラー万年筆(株)	ヤマハ発動機(株)				
セイコーエプソン(株)	(株)リヒトラブ				
ダイハツ工業(株)	レック(株)				
タカラスタンダード(株)	レンゴー(株)				
デコラテックジャパン(株)	ローランド ディー、ジー、(株)				
(株)東芝	リンナイ(株)				

金融・保険業

JAとびあ浜松	しずおか焼津信用金庫				
日本生命保険(相)					

放送・広告業

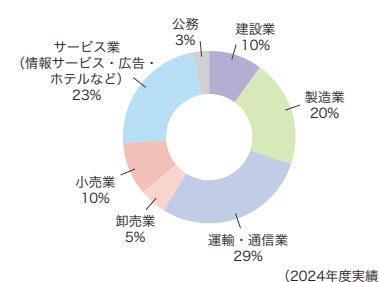
(株)朝日メディアブレーン	(株)名古屋テレビ事業				
(株)エイエイビー	(株)日企				
静岡エフエム放送(株)	(株)日本テレビアート				
(株)静岡新聞社	(株)博展				
太陽企画(株)	(株)博報堂プロダクツ				
(株)テレビ朝日クリエイト	(株)メディア東京				
UUUM(株)					

情報・専門サービス業

(株)アクアプラス	(株)ジイケー設計				
(株)アドフィル	(株)GKダイナミックス				
(株)アドブレイン	(株)ziba tokyo				
(株)インテリジェントシステムズ	(株)JR西日本コミュニケーションズ				
UO	(株)シミズオクト				
MGS照明設計事務所	スズキ教育ソフト(株)				
(株)オープスマイル	(株)STUDIO4°C				
(株)オムニバス・ジャパン	(株)スペース				
(株)カブコン	(株)セガ				
(株)京都アニメーション	(株)大和工芸				
(株)ゲームスタジオ	(株)丹青社				
(株)コーエーテックモホールディングス	(株)TBSトライメディア				
(株)コナミデジタルエンタテインメント	(株)テクノサイト				
(株)Cygames Pictures	(株)DMM.com ラボ				
(株)Sun Asterisk	(同)デザイン・アープ				
(株)GKインダストリアルデザイン	東映アニメーション(株)				

ハウジング・建設業

アサヒハウス工業(株)	セキスイハイム東海(株)				
(株)池田建築設計事務所	積水ハウス(株)				
(株)一条工務店	(株)大成住宅				
(株)イリア	大東建託(株)				
(株)金沢伝統建築設計	大和ハウス工業(株)				
サーラ住宅(株)	飛島建設(株)				
住友林業(株)	(株)中村組				
須山建設(株)	中村建設(株)				



教員紹介

デザイン学科

藤井 尚子 FUJII Naoko



教授／デザイン
学部長・学科長
テキスタイルデザイン／染色
布を用いてQOL（生活の質）を向上させるデザインを研究しています。一枚の布に広がるデザインの可能性を、一緒に探求しましょう。

岩崎 敏之 IWASAKI Toshiyuki



教授
構造デザイン
アイデアを形にするために構造は不可欠です。建築のみならず、すべてのデザインに通じる構造の考え方を伝授します。

植田 道則 UEDA Michinori



教授
建築とインテリアの空間デザイン
日本の美意識が育んできた内外空間デザインを、インタラクティブな発想を伴いながら、探求しています。

小浜 朋子 OBAMA Tomoko



教授
ユニバーサルデザイン(UD)/デザインリサーチ
UDの概念をもとに、多様なユーザ・生活環境をあらゆる角度からリサーチし、現実と未来をつなぐデザインアイデアを探求していきます。

Jérôme BOULBÈS



教授
3DCGデザイン/メディアアート/アートアニメーション
3DCGをメインに、モーショングラフィック、3Dスキャン、リアルタイムレンダリング等の最先端技術を用いた映像作品制作及び研究をしています。

高山 靖子 TAKAYAMA Yasuko



教授
プロダクト・サービスデザイン
グローバルな視野で人と社会をデザインで結ぶプロダクトとサービスの研究をしています。

中野 民雄 NAKANO Tamio



教授／大学院
デザイン研究科長
スマートデザイン／建築環境・設備
都市・建築から持続可能(サステナブル)な社会に向けてエコロジーとエコノミーを両立させたスマートデザインを追究しています。

羽田 隆志 HADA Takashi



教授
プロダクトデザイン／魅力工学
特許V.S.システムを採用した2輪車などを設計開発しています。また強い魅力を実現するための企画立案法を研究開発しています。

和田 和美 WADA Kazumi



教授
メディアアート／Webデザイン
映像を中心に扱ったインスタレーションやWebサイトなど、インタラクティブな空間を制作・研究しています。

荒川 朋子 ARAKAWA Tomoko



准教授
テキスタイル／繊維造形
「繊維」から導き出される、造形の表現性と可能性、その広がりと奥深さに強く惹かれ研究活動をしています。

小川 直茂 OGAWA Naoshige



准教授
グラフィックデザイン／インフォグラフィック
高度情報時代における情報表現と情報伝達のあり方について、視覚的な観点での研究・制作活動に取り組んでいます。

小田 伊織 ODA Iori



准教授
木工芸／漆芸
日本の伝統技法を用いて、木と漆を素材としたアート作品や日常的な器などを幅広く制作し、造形表現を探求しています。

松江 幸子 MATSUE Sachiko



准教授
プロダクトデザイン
人を主役に、物やサービスとの接点にある物語を深め、生活や社会をより良く美しいものにデザインを共に探求しましょう。

松田 達 MATSUDA Tatsu



准教授
建築意匠／3DCAD／都市計画
建築と都市を連続的に捉え、デザイン・研究活動を行っています。空間の新しい可能性について、共に探求していきましょう。

宮地 良治 MIYACHI Yoshiharu



准教授
インターフェイスデザイン(UI/UXデザイン)
生活者視点のUXデザインで課題を捉え、製品やサービスの使いやすさを体感できるUIデザインの制作・研究を行っています。

倉澤 洋輝 KURASAWA Hiroki



講師
グラフィックデザイン／エディトリアルデザイン
美術館などで開催される美術工芸領域の展覧会を、グラフィックデザインによってその魅力を広く伝えることを実践しています。

王 雪陽 WANG Xueyang



特任助手
現代陶芸
陶芸は、技巧を駆使して個性が表現された独創的な作品を作れることも魅力です。ぜひ一緒に面白い陶芸作品を制作しましょう。

太田 正明 OTA Masaaki



特任助手
木工芸／漆芸
木や漆を中心に社会や暮らしを多角的な視点で捉えて、素材の特性を活かした生活日用品や芸術作品の造形表現を探求しています。

丹羽 あや NIWA Aya



特任助手
グラフィックデザイン／保存修復
グラフィックデザインの制作・研究を行っています。その他に主に繊維の保存修復の研究も行っています。

根木 隆之 NEGI Takayuki



特任助手
3DCGデザイン／映像デザイン
映像というコンテンツが持つ力について、3DCGをベースに様々な映像表現の研究・制作を通して、一緒に考えていければと思います。

亀井 暁子 KAMEI Akiko



教授
建築設計／
サステナブルデザイン
建築空間を地域・都市、さらには広域的な視点から捉えるアプローチで、周辺環境と持続的に発展するあり方を探索しています。

かわ こうせい KAWA Cosei



教授
絵本／
イラストレーション
ことばや絵で伝えられる物語を通して、どのように人の心が動かされるのか探究しています。

佐井 国夫 SAI Kunio



特任教授
グラフィックデザイン
グラフィックデザインの役割はビジュアルコミュニケーションであり、新たな視覚表現のための技術と美意識をいかに育てるかを課題として研究しています。

迫 秀樹 SAKO Hideki



教授
人間工学
体格や筋力、嗜好など一人ひとり違う人間の特性を捉える手法や、それを活用したものづくりを研究しています。

服部 守悦 HATTORI Moriyoshi



特任教授／副学長
トランスポートデザイン／
プロダクトデザイン
クルマを中心に移動機器のデザインを研究しています。次世代モビリティの普遍性と革新性について一緒に考えましょう。

花澤 信太郎 HANAZAWA Shintaro



教授
建築設計／
都市デザイン
建築設計と都市デザインが専門分野です。これからの建築や都市空間について一緒に考えてみませんか。

日比谷 憲彦 HIBIYA Norihiko



教授
グラフィックデザイン
文字やシンボル、色彩などのエレメントを平面・立体・空間に展開し、ブランドや施設のイメージ形成を図る手法を研究しています。

的場 ひろし MATOBA Hiroshi



教授
メディアアート／
インタラクションデザイン
新しいテクノロジーを活かしたアートの制作と、システムの使いやすさや使う楽しさの向上の研究を進めています。

中川 晃 NAKAGAWA Akira



准教授
空間デザイン／
デザイン経営
TV、テーマパークにて多くの空間デザインを手掛けて参りました。デザイン経営の知見も有するので、「デザイン・ビジネス」でお手合いをさせて下さい。

新妻 淳子 NIITSUMA Junko



准教授
日本伝統建築
日本の伝統建築と近世建築普請活動に関する研究をしています。伝統建築から直に日本の意匠や技術を学び新たな創造を目指します。

丹羽 哲矢 NIWA Tetsuya



准教授
建築／地域／
景観デザイン
人々が暮らす空間を包括的にデザインしています。多くの人が共有できる建築理念を具体的な空間にする発見的なデザインプロセスが研究テーマです。

百束 朋浩 HYAKUSOKU Tomohiro



准教授
映像学／
映像技術
映像の分野で表現と技術の両面から制作・研究を行っています。総合芸術である映像は科学と芸術の両方を学ぶ必要があると考えています。

古賀 真弥 KOGA Masaya



講師
金工
金工の伝統技法を基にアート作品や装飾品などの制作を通して、金属ならではの質感や色彩表現を活かした新たな表現方法を研究しています。

佐藤 亜矢子 SATO Ayako



講師
現代音楽／電子音響音楽／
サウンドデザイン
現代音楽・電子音響音楽が専門ですが、サウンドスケープ・場所・空間・環境への興味と共に、音が関わる芸術の研究・制作をしています。

遠藤 祐輔 ENDO Yusuke



助教
写真／映像／
表象文化
ストリート・スナップの写真表現を軸に、生成AI、監視社会などをキーワードとして映像表現の可能性を探る制作と研究を行っています。

羽島 昂平 HASHIMA Kohei



特任助手
プロダクトデザイン
3DCADでモノのデザインの多様性を研究しています。デザイン・モノを形にしていくなびや楽しさを一緒に体感しましょう。

横地 敬 YOKOCHI Takashi



特任助手
金属造形
多様な表情をみせる金属の性質を活かしたアート作品や日用品の制作・研究を通して、豊かな暮らしを探ります。



文化政策研究科／デザイン研究科

| 定員10名

| 定員10名

大学院

さらなる2年で広がる「文化」「デザイン」の未来像

21世紀は「市民」の時代と言われています。

それは、これからは「政府」「企業」ではなく「市民」が主体となり、
自分たちの望む社会を創造していくことを意味しています。

大学院では、市民社会のリーダーに必要な、様々な価値観を尊重しつつとりまとめていく、
課題解決の能力を養成します。

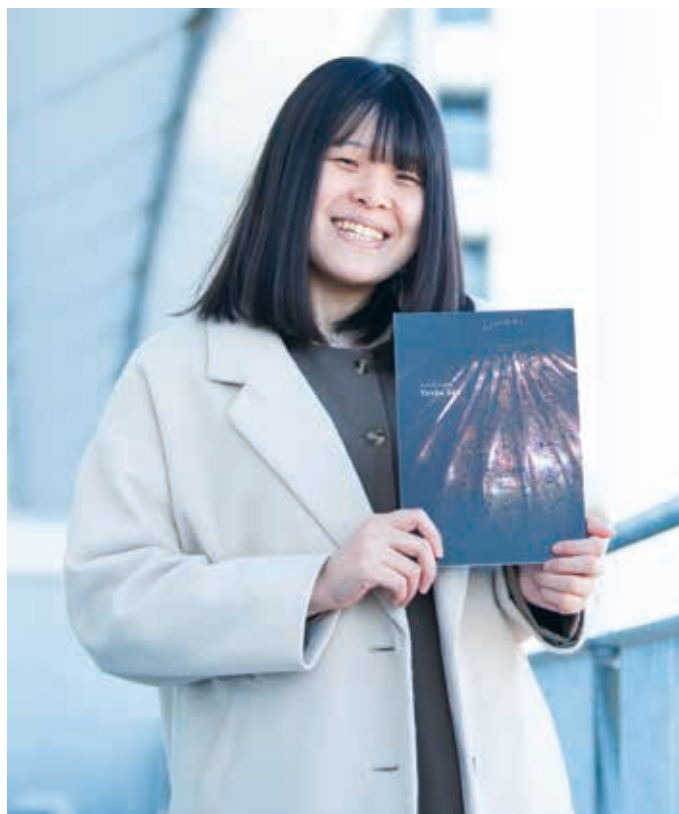


自分のルーツに向き合い、 社会とつながる研究を。

——— 文化政策研究科 1年
出身大学/静岡文化芸術大学 文化政策学部
相川 ヌビア サオリ

私は、自分のルーツである日系ブラジル人について研究するため、文化政策研究科に進学しました。学部時代、特に教育分野を中心に日系ブラジル人の若い世代について学び、今も日本の学校に通うブラジル人の若者の学習支援にも携わっています。その中で、子どもたちから「なぜ私は日本に住んでいるのにブラジル人なの？」といったアイデンティティに関する質問を受け、深く考えさせられた経験が研究のきっかけとなりました。現在は、日系ブラジル人の高齢化をテーマに、ライフプランやコミュニティの課題を探りながら研究を進めています。

SUACは多様な分野の専門家が集まり、自分の興味を深めることができる場所です。高校時代、進学に反対されたこともありましたが、SUACでの出会いや学びを通して大きく成長しましたが、SUACでの出会いや学びを通して大きく成長しましたが、興味があることに挑戦することで、新しい自分に出会える場所、それがSUACだと感じています。



デザインの力で、 伝統と未来をつなぐ。

——— デザイン研究科 1年
出身大学/静岡文化芸術大学 デザイン学部
鈴木 志歩

私は、地元・燕三条地域のものづくりについて研究するため、大学院に進学しました。学部時代、燕三条の産業と職人を紹介するルポルタージュ冊子を制作したことがきっかけで、デザインの力で地域に貢献したいと考えるようになったからです。現在は、約400年前に始まった和釘生産から現代の金属加工産業に至るまでの歴史や、地場産業の発展について調査を進めています。SUACの大学院は、異なる分野を学ぶ学生と同じ空間で過ごすため、多様な視点から意見を聞けることが大きな学びです。こうした環境が、自分の研究に新たな気づきをもたらしています。将来は、伝統を守りながら新たな価値を生み出すデザイナーを目指しています。社会や人々の変化に敏感に答え、デザインの力で感動や発見を生み出していきたいです。

現場からの学びを重視した実践的なカリキュラム

文化政策研究科では、専門的な文献研究だけでなく、実践の場でのフィールドワークや調査を重視し、文化・芸術の持つ可能性を可視化・具体化できる人材を育成していきます。院生は以下の3つの研究専門領域から1つを選び、領域横断的で学際的な研究を教員の指導のもと展開していきます。

※文化政策研究科は、2010年度から AAAE（Association of Arts Administration Educators）の正会員となっている大学院です。

Arts and Cultural Management

アーツアンドカルチュラル マネジメント

楽団、劇団、美術館などの民間および公立の施設運営、行政の文化政策、文化産業、文化イベントなどのあり方や可能性に関する研究を行います。

Regional Policy and Management

地域政策マネジメント

まちづくりや地域活性化、コミュニティ政策、自治体改革、行政評価など、未来の地域に必要な活動や政策のあり方、可能性に関する研究を行います。

Glocal Studies

グローカルスタディーズ

グローバル化の影響で、世界的規範や法、地域社会にどのような変化が生まれているのか、そして未来の持続可能な社会のあり方や可能性に関する研究を行います。

進路実績（抜粋）

- 公益財団法人掛川市生涯学習振興公社
- 公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）
- 公益財団法人豊田市文化振興財団
- 公益財団法人名古屋国際センター
- 公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）
- 公益財団法人浜松市文化振興財団
- 公立大学法人静岡文化芸術大学
- 学校法人八戸工業大学
- 特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター（PARC）
- 特定非営利活動法人グッドネーバース・ジャパン
- 株式会社大阪市開発公社
- サントリーパブリシティサービス株式会社
- 株式会社四季
- 静岡鉄道株式会社
- 株式会社北國新聞社
- 静岡県庁
- 静岡市役所
- 浜松市役所
- 【進学】名古屋大学大学院博士課程一橋大学大学院博士課程

修了生の声

現場と理論を結びつけ、国際協力の未来を切り拓く

NGO ジュマ・ネット（事務局長）、NPO 法人かものはしプロジェクト（スタッフ） 稲川 望さん
文化政策研究科 2022年度修了

入学の動機 大学時代、私は国際協力に従事し、難民キャンプや紛争地を訪れ、バングラデシュで1年間NGO活動を経験しました。その中で社会構造や国際関係の重要性を痛感し、現場のみでは見落としてしまう視点を持つ必要があると感じました。恩師が修士課程で指導していたこともあり、その体系的な学びと理論を身につけるために迷わず本学の修士課程に進学しました。

現在の仕事への活かし方 私は南アジア地域で平和構築や人身売買などの社会課題に取り組んでいます。現場では語学力や適応力の他に、歴史や民族、国家の系譜など抽象的で体系的な理解が必要です。大学院での学びは、これらを理解するための重要な「地図」となりました。指導教員のもとで行った地域・歴史の詳細な調査や、副指導教員と共に人類学の理論書を読み込んだ経験は、現場での視点や見方を深め、まさに長い旅路を歩むための羅針盤となっています。



カリキュラムの特徴

01

基礎科目

修士論文の構想づくりを進めるための「文化政策研究の方法」と、修士論文の仮説をフィールドワークや現場での調査を通して複数の教員と共に考察していく「アクションリサーチ基礎」「リサーチワークショップ」があります。

02

基幹科目

各分野の概論的な知識を学び、学際的な系譜を学ぶための「領域横断科目」と、「アーツアンドカルチュラルマネジメント」「地域政策マネジメント」「グローバルスタディーズ」に関連した専門的な内容を学ぶ「専門科目」があります。

03

演習科目

演習Ⅰ（1年目）と演習Ⅱ（2年目）から構成されています。演習Ⅰは異なる教員による2つを履修し、領域横断的に学びます。演習Ⅱはさらに1名の教員の本格的指導のもと、論文を完成させていきます。また研究科内での発表会の機会もあります。

03

修士論文

演習科目

- 演習Ⅰ
- 演習Ⅱ

02

基幹科目

- アーツアンドカルチュラルマネジメント専門領域の科目
- 地域政策マネジメント専門領域の科目
- グローバルスタディーズ専門領域の科目

01

基礎科目

- 文化政策研究の方法
- アクションリサーチ基礎
- リサーチワークショップ

修士論文（例）

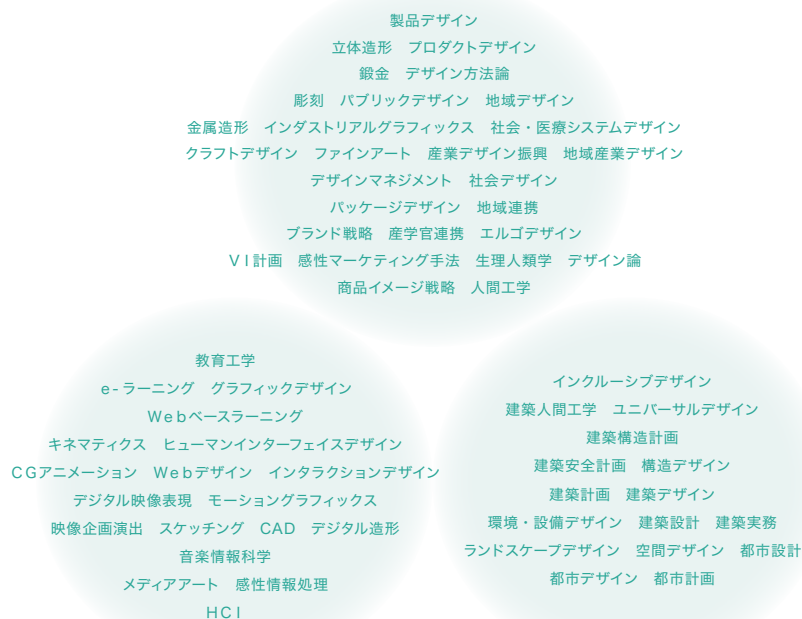
- バリの文化政策と舞踊家の語りにみるレゴン舞踊様式の確立と継承
- 地方都市における洋楽受容と日露戦争—鹿児島県を中心に—
- 地域志向型劇団の可能性と課題—地域との関係性に注目して—
- 浜松地域における中小ピアノメーカーの軌跡—アトラスピアノ製造を事例に—
- 呉市例大祭の動態的研究—歴史的変遷と社会的役割の変化—
- バングラデシュのナショナル・アイデンティティ形成
- 中国人アートマネジメント人材のキャリア—日本留学経験者に着目して—
- 芸術政策を巡る合意形成とローカルアーツエージェンシー—ポートランド市の芸術税とパブリックアートプログラムに着目して—
- 静岡県浜松市の在日ブラジル人第2世代のメンタルヘルスをめぐって
- トランスナショナルなコンテンツを持つ可能性—日本バラエティ番組に関する対立と調和—
- 社会的包摂とねむの木学園—宮城まり子の活動に着目して—
- 公立図書館運営に求められるパートナーシップ—中津川市の事例分析—

※修士論文は静岡文化芸術大学学術リポジトリをご参照ください。



研究分野

高度情報化、循環型社会への転換、そして高齢化の進展など、大きく変化する時代環境にあって、デザインに要請される内容は多様化し、デザイナーには専門的な能力が幅広く求められるようになっていきます。デザイン研究科では、そのような社会的要請に応えるために、皆さんがこれまでに身につけたデザインあるいはその他の分野の専門性をベースにして、より高度なデザインの力を磨くための実践的な研究の場を提供します。



進路実績（抜粋・50音順）

- 株式会社一条工務店
- 株式会社イリア
- 運城幼児師範高等専科学校（中国、教員）
- 柏木工株式会社
- カワサキモータース株式会社
- コイズミ照明株式会社
- 株式会社 GK テック
- ジェイアール東海建設株式会社
- 静岡県森町まちおこし協力隊
- 株式会社シャンソン化粧品
- 株式会社セガ
- ダイハツ工業株式会社
- チームラボ株式会社
- 中央コンサルタンツ株式会社
- 株式会社電通
- 株式会社乃村工藝社
- 株式会社博報堂プロダクツ
- 浜松市役所
- 林テンプ株式会社
- 株式会社日立建築設計
- 富士通株式会社
- ブラザー工業株式会社
- 株式会社ボックス
- 三井デザインテック株式会社
- 三菱地所レジデンス株式会社
- 三菱電機住環境システムズ株式会社
- 学校法人トキワ松学園 横浜美術大学（教員）
- 【進学】筑波大学大学院人間総合科学研究群
デザイン学学位プログラム（博士課程）

修了生の声

新たな視点で社会を彩る、実践の場で培ったデザインの力

株式会社 GK 設計 関西事務所 設計室 チーフデザイナー 近藤 洋輔 さん
デザイン研究科 2015 年度修了

入学の動機 私は学部時代に「デザインの美しさが現実社会とどう繋がっているか」を究明したいと考えました。浜松は、海と山があり都会すぎず田舎すぎない環境で、生活に根ざしたデザインを研究するには最適な場所です。また、東京と大阪のほぼ中間に位置しており、建築の見学やイベント参加にも便利な地理条件です。そのため、本学のデザイン研究科に進学を決めました。

現在の仕事への活かし方 大学院では、浜松の沿岸部に建設する防潮堤の環境デザインや、地元酒造メーカーの徳利やおちょこのプロダクトデザインなど、多様なプロジェクトを経験しました。これらの異なるスケールの対象をデザインする中で、「着眼点」が重要であることを学びました。変動する社会では常に新しい価値が求められています。現在のデザイン業務でも、この「ものごとをどう見て、どう見せるか」という発想は、私のデザイン哲学の基盤となっています。



カリキュラムの特徴

デザイン研究科のカリキュラムは3つの要素で構成されています。

01

特論科目

各デザイン分野に対応した少人数制の専門科目により構成されます。学生は、各特論科目の履修を通じ、高度な専門知識の習得を図ります。また、学際的な研究能力を高めるために分野を横断する科目履修を基本とします。

02

特論演習科目

特論演習やインターンシップ等により構成され、特論科目の学修内容を深化・発展させるとともに、実践的な能力を身につけます。特論演習は各特論科目に対応して開講され、学生は、各自の研究計画に沿って科目を選択して履修を進めます。

03

特別研究

指導教員の指導のもと、大学院在学期間を通して研究活動を推進し、その成果を修士論文または修了制作としてとりまとめ、2年次後期に提出します。

デザイン研究科において、所定の単位を修得すれば、一級建築士免許登録要件の実務経験2年として認められます。

03

修士論文 修了制作

02

特別研究

特論演習科目

特論演習

インターンシップ等

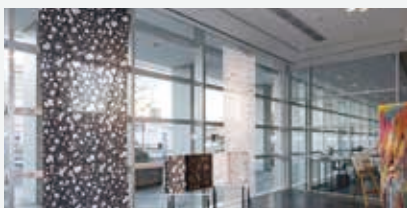
01

特論科目

- デザイン史
- ユニバーサルデザイン
- エルゴデザイン
- プロダクトデザイン
- パッケージデザイン
- 基礎造形
- 造形デザイン
- インダストリアルデザイン
- インターフェイスデザイン
- インタラクションデザイン
- メディアデザイン
- 映像デザイン
- Web デザイン
- インテリアデザイン
- ランドスケープデザイン
- 建築デザイン
- 構造デザイン
- 環境設備デザイン

修士論文・修了制作テーマ（2024年度実績）

- 地域の人々を繋ぐサステナブルな
プロダクト・サービス・システムの研究
- 触れたいくなるテキスタイル素材によるアートワーク
— 視覚的知覚と触覚的知覚を手がかりに —
- アプローチ空間に関する研究
— 交通ターミナル周辺地域における空間計画 —
- 文字の構成要素を用いた、染色における新たな表現の探求
— ろうけつ染による雨の表現 —
- シアー素材による空間印象の変容についての実践研究
— 「透け感」のあるテキスタイルを用いて —
- FSC 認証天竜材を用いた薄型小幅直交集成板の開発と
社会実装に関する基礎的研究
- 表象空間を含む設計手法の研究
— 空間の不可視領域を題材として —
- 高齢者の身体機能維持を楽しく支えるプロダクトデザイン研究
— 「二人でトレーニング」するサポート機器 —
- 親子で遊びながらコミュニケーションが取れるゲーム
- 地域固有の風土と空間構成に関する研究
— 防災機能をもった地域拠点づくりについて —



※修士論文・修了制作要旨は静岡文化芸術大学学術リポジトリをご参照ください。



01 出会いの広場



2階にありながら人工地盤により緑化された、学生と市民の憩いの広場。各施設とつながる、大学の中心的スペースです。

02 創造の丘



浜松市内が一望できる屋上庭園は、まさに都会のオアシス。山の尾根、波のうねりを思わせる緩やかな起伏が印象的です。

すべての人にやさしい、アクセシブルな自由空間 ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、年齢や性別、能力の如何にかかわらず、すべての人が利用できるようにモノや空間をデザインするという考え方です。あらかじめ多様な人々の利用を想定し、アクセスを可能にしておく配慮が必要とされています。本学では、機能性と審美性を備えた、さりげなく、美しく、できる限り多くの人のアクセスを可能にするユニバーサルデザインを目指しています。



多機能型トイレとサイン

トイレの種類は、男性、女性、多目的の3種類。各々の違いを識別できるよう、入口には手が届く高さに点字を設置しています。



音声でも誘導する案内サイン

案内サインは、大学カラーのブルーを基調に、日本語と英語で表示しています。点字案内板も学内11カ所に設置され、音による誘導も行っています。



ゆったりとした廊下や階段

廊下も階段も幅が広く、ゆったりとすれ違えるよう設計されています。廊下は無駄な凹凸がなく、階段は踏み面を広くとり、勾配も緩やかです。

キャンパスには、学びに向き合う感性と実力が高まる
魅力あふれる環境が整っています。

03 体育館



アリーナも備えたバスケットコート2面分の広々とした体育館は、隣のトレーニングルームと合わせて授業や運動系クラブ・サークル活動にも使われています。

04 ギャラリー



大学西側学園通りに面したガラス張りのギャラリーは、185平方メートルのスペースで、24枚の移動式の展示ウォールにより自由なレイアウトが可能です。年間を通じて、市民の方々にも楽しんでもらえるいろいろな展覧会などが開かれています。

05 大講義室



いわゆる階段教室の講義室で、219名を収容可能。AV機器を完備し、プレゼンテーションの場としても適しています。

06 講堂



603名を収容できる講堂は、ブラウン系色で統一され、落ち着いた雰囲気を醸し出しています。大学の行事、イベントやセミナー、学生の発表の場として利用されています。

07 研究棟



教員研究室が集合する12階建ての建物。研究室訪問にはアポイントメントが必要です。

08 学生ラウンジ



09 購買



10 学生食堂



※購買と学生食堂は静岡文化芸術大学生生活協同組合が運営しています。



教育・研究を支えるセンター

図書館・情報センター

学生の主体的な学びや教員の調査研究を支える「知の拠点」として、所蔵する資料とネットワーク上の情報をもとに、多種多様な学修・調査研究に活用できる環境が整備されています。

学術情報の収集と提供

約27万冊の図書と約1,700タイトルの新聞・雑誌、約4,500点の視聴覚資料や各種オンラインデータベースを備え、学生、院生、教員の調査研究活動を支援します。カウンターでは専門スタッフによるレファレンスを行い、学内外の学術情報にアクセスするための相談も受け付けています。

学内情報ネットワークの構築

学生・教職員の情報環境を整えるため、学内に無線LAN（Wi-Fiアクセスポイント）を設置しています。

図書館・情報センター
Web サイトへ



【メディアステーション ～“知の拠点”のランドマーク】
ノート PC やタブレット端末により手軽に情報検索が行え、自由度の高い家具配置によりグループワークなどのアクティブラーニングが可能なエリアです。

国際交流センター

グローバルな視野と地域の視点を併せ持つことにより、多文化を理解し、世界の人々と積極的に関わることができる人材育成の支援を行っています。

留学支援

留学を希望する本学学生のための説明会の開催や留学への支援をはじめ、本学で学ぶ外国人留学生を対象にした支援やイベントを実施しています。

多文化共生への取り組み

海外の交流協定校との交流事業の促進や多文化共生に関する学生の活動への支援など、グローバルなプロジェクトを推進します。



留学に関する情報は
Web サイトへ



服飾文化研究の専門家を招聘し、日本の着物文化が海外のファッションや絵画に与えた影響についての講演会を開催。



大学生チームが英語のプレゼンテーションを披露し、実際の企業の問題に対処するためのアイデアを発表するYBM (Young Business Masterminds) に参加。

文化・芸術研究センター

学部・研究科の連携による研究活動を推進するとともに、学術・文化芸術に関わる研究成果の情報発信を行っています。

教員特別研究の支援

教員特別研究費制度のもと、教員の積極的で学際的な研究活動を支援し、2学部との連携を推進しています。

研究成果の発信

研究成果発表会や静岡文化芸術大学学術リポジトリ、研究紀要で公表し、行政機関や研究機関の方々へ広く発信しています。



文化・芸術研究センター
Web サイトへ



学術リポジトリ
Web サイトへ



【研究成果の地域への還元】教員特別研究における研究成果を地域に還元するため研究成果発表会を開催。



【研究成果物の公開】静岡文化芸術大学学術リポジトリでは、研究紀要、ワーキングペーパー、教員特別研究費及びイベントシンポジウムの成果を学内外に向けて公開。

地域連携センター

文化やデザインに関する本学の知見を活かした産業振興や地域づくりのため、産学官民の連携を進めています。

地域・産学官連携の推進

産学官民からの受託事業を積極的に受け入れ、研究成果やプロジェクトとして地域に還元しています。

公開講座の開催

社会的に関心の高い事項に関する本学の知見や、本学が重点的に取り組んでいる学術テーマについて、公開講座として地域に発信しています。

イベント・シンポジウムの開催

本学の教育・研究の成果を産官学各界および広く地域の皆様にご理解いただくことを目的として、展示、ワークショップ、セミナーなどの各種イベントや、様々な研究分野に関わるシンポジウムなどを支援・開催しています。



地域連携センター
Web サイトへ



【公開講座】「ものづくり文化」の原点ともいえる「道具」を起点に、「ものづくりと人づくり」を多角的に捉え、座学だけでなく実際に道具に触れることにより、身体全体で理解を深める講座を開催。



【イベント・シンポジウム】北遠地区に伝えられた神事芸能について、祭具や古文書を展示するとともに、ギャラリートークや演舞を披露。

国際交流

留学経験者の声




ボローニャ大学
(イタリア)

3年次 6ヵ月間 ボローニャ大学へ交換留学
文化政策学部 芸術文化学科 4年 静岡県立磐田北高等学校出身
尾高 美海

積極的に人と関わる、 人と向き合う姿勢を学んだ

Q. 留学までの経緯を教えてください。

留学に行くことは入学前から希望していました。入学後は留学を見据え、イタリア語を履修しました。オンライン留学でイタリアの学生と交流した際、積極的な意見交換に魅了され、その思いはさらに強まりました。でも、いざとなると不安で躊躇してしまい、留学の申込みを出したのは締切最終日でした。この時決断できて本当に良かったです。費用は、親に負担が掛からないようアルバイトを掛け持ちして貯めました。また、SUAC独自の奨学金制度も利用できて良かったです。

Q. 留学中に得たもの、成長したと感じたことはありますか？

イタリアでは、日本と違ってカフェに行くとなかなか人が声をかけてくれます。友達を通じて人とのつながりも自然にできました。私はこれが素敵だと思いました。友人たちは私の目を見て話し、興味を持って話を最後まで聞いてくれます。私もより積極的に初対面の方とコミュニケーションをとるようになりました。相手に対する真摯な姿勢は、今後働いていくうえでも大切にしたいと思っています。

帰国後のレポートから



留学中はイタリア語の講義に加え、「中世美術史」や「Italian culture」を履修しました。

中世美術史は、一見教会のような雰囲気のある建物で開講され、美術やその時代の建築様式についての理解を深めることができました。講義形式は日本と変わりますが、先生は教室内を歩き回りながら講義を進め、質問のある学生は自発的にどんどん発言していく様子が伺えました。

Italian culture は、週に一回、夜の時間帯に開講され、歴史や映画・文学などイタリアの文化についてたくさん学ぶことができました。この講義は留学生向けのコンテンツであるため、すべて英語で進行され、クラス内も溢れるほどの留学生が受講していました。パワーポイントだけでなく映像資料も充実していた印象で、グローバルな雰囲気を感じられる面白い講義でした。

イタリア語に関しては、学生同士の交流も多く、先生との距離も近いので、毎授業に生き生きと参加できました。




ビクトリア大学
(カナダ)

2年次 1ヵ月間 ビクトリア大学へ短期留学
文化政策学部 国際文化学科 2年 静岡県立沼津西高等学校出身
鷲見 航希

間違いを恐れず、 自ら学ぶ姿勢が英語力向上の鍵

Q. 留学までの経緯を教えてください。

中学2年生の時、出身地域のプログラムで10日間カナダへ行きました。そこでは多様な人種の人々が暮らしており、フレンドリーな雰囲気に魅力を感じました。その経験が強く印象に残り、「もう一度カナダへ行きたい」と思うようになりました。国際文化学科へ入学後、海外の文化をより深く学びたいと考え、短期留学を決意しました。来年はさらに長期留学としてオーストラリアへの留学を計画しています。

Q. 留学中に得たもの、成長したと感じたことはありますか？

多文化社会のカナダでの交流を通して、日本とは異なる多種多様な価値観や考え方が世界には存在していることを実感しました。異文化を尊重する姿勢を忘れずに外国の方と協力していきたいです。また、今回の1ヵ月間のカナダでの生活を通して、自身の英語力も高めることができました。今後のキャリアにおいては、その英語力を生かすことで、活躍の場を大いに広げていきたいです。そして、自分の意見をしっかりと持ち、積極的に自己主張することの重要さも今回の語学研修を通して学ぶことができました。

留学への支援

本学学生の留学支援のために

- SUAC奨学金制度
- 日本学生支援機構による奨学金制度の大学認定枠
- 海外協定校で取得した単位の本学卒業単位への認定

海外からの留学生支援のために

- 単位互換、留学生宿舍の提供 等【交換留学生】
- 授業料減免制度、奨学金制度 (SUAC、日本学生支援機構) 等【私費留学生】
- 留学生交流会

派遣留学生危機管理サービス

本学主催の留学・語学研修生には、指定の海外旅行保険を用意しています。これにより、海外での万一の事件・事故への対応力を高め、迅速なサポートを可能にします。備えを万全にして、充実した留学生活にできるよう環境を整えています。

世界に広がる留学先

本学の基本理念である「国際社会に貢献する開かれた大学」の実現に向けて、海外の多様な大学と交流協定を結び、様々な交流事業を展開してグローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。



海外協定校（18校）（2025年3月現在）

 フンドレー大学 / アメリカ合衆国 1882年に開学し、現在は経営学部・教育学部・医療学部・教養学部・薬学部、理学部の6学部からなる総合大学。オハイオ州に位置し、学生数約4,000人、地域との結びつきが強く、留学生に対するサポート体制も充実しています。	 イズミル経済大学 / トルコ 2014年より産学共同国際ワークショップで交流を深め、2015年に交流協定を締結しました。イズミル経済大学(2001年創立)は、2大学院、7学部、2専門学校からなる総合大学で、英語で授業を行い、外国籍の教員が多数在籍する国際色豊かな大学です。
 ブルゴーニュ大学 CIEF / フランス ブルゴーニュ大学は、1722年創立、フランスのブルゴーニュ地方に5つのキャンパスを持つ国立総合大学で、学生数30,000人、教員数4,000人を数えます。国際フランス語センターは、ディジョン市のメインキャンパス内にあり、大学の学部に対応する一機関として毎年3,000人以上の留学生を受け入れています。本学は2011年から語学研修学生の派遣を行っています。	 ボローニャ大学 / イタリア 1088年の創立で「世界最古の大学」とも言われている国立の総合大学です。イタリアのエミリア・ロマーニャ州の州都であるボローニャ市にあり、在籍学生数は10万人を超えています。アートマネジメント研究の分野においては、総合芸術学科(1970年創立)が先進的研究拠点となっています。

その他の提携校

アイルランガ大学／インドネシア	国立高等装飾美術学校／フランス	サンパウロ大学／ブラジル	湖西大校／大韓民国
ウェルズ大学トリニティ・セント・デイビッド／イギリス	ルール大学ポッフム／ドイツ	ウダヤナ大学／インドネシア	華東師範大学／中華人民共和国
BESIGN（コートダジュール大学）／フランス	ワルシャワ美術アカデミー／ポーランド	国立台湾師範大学／台湾	浙大城市学院／中華人民共和国
	サザンクロス大学／オーストラリア	ダッカ大学／バングラデシュ	

語学研修

実体験を通じて異文化への理解を深めることは、真の国際人としての感性を養う上で、欠くことのできない条件です。本学では世界に通じる人材育成を目指して、世界各国への研修を実施するなど、語学研修の充実にも努めています。(毎年プログラム内容を見直しています)

2024年度 語学研修先

ビクトリア大学／カナダ：英語	ブルゴーニュ大学 CIEF／フランス：フランス語
バンガー大学／イギリス：英語	国立台湾師範大学／台湾：中国語
サザンクロス大学／オーストラリア：英語	F+U アカデミー／ドイツ：イタリア語、ドイツ語
デ・ラ・サール・アラネタ大学付属語学センター／フィリピン：英語	CCEL クライストチャーチ／ニュージーランド：英語

海外留学プログラム

本学では多くの学生がグローバルな視野やスキルを培えるよう、多彩な留学プログラムを提供しています。

海外日本語教育インターンシップ

実施期間／2024年9月5日～9月18日（14日間）

場 所／アイルランガ大学（インドネシア）

海外の日本語教育の現場で授業見学・授業補助・教壇実習を体験するプログラム。2024年度は本学と交流協定を締結しているアイルランガ大学（インドネシア）で実施しました。本プログラムは、様々な背景・学習動機を持った学習者がどのように日本語を学んでいるかを知り、その後の日本語教員養成課程での学びに繋げることを目的としています。本学からは国際文化学科3年生（日本語教員養成課程履修者）が参加し、授業見学・アシスタント・教育実習などを行いました。観光・文化体験も経験し、プログラムを通して現地の文化を学ぶとともに学生交流の機会を得ました。



イタリアンデザインサマースクール

実施期間／2024年8月23日～9月8日（17日間）

場 所／ボローニャ大学およびベルティノーロ研修センター（イタリア）

本学と交流協定を締結しているボローニャ大学（イタリア）のデザインサマースクール。世界最古と言われるイタリアのボローニャ大学にて、デザインを学びます。世界各国から参加者が集まり、授業やメンバー間のやりとりは英語で行われました。本学からはデザイン学科の学生が参加。授業は主に座学、見学、プロジェクトワークに分けて行われ、トスカナ地方での伝統工芸見学や、ランボルギーニ、フェラーリなど車産業の見学を通じて、デザインの歴史や製品の進化を深く理解しました。3D CADでのボトルデザインや、カトラリーやキッチン用品などのデザインにも挑戦し、実践的な学びの場となりました。17日間という限られた時間でしたが、参加学生は、共に高め合える仲間との出会いや新たな文化と価値の発見など、海外に赴いてこそできる様々な経験をすることができました。



語学パートナー

留学生と日本人学生が互いの母語を教え合う「語学パートナー」は、自然な言い回しやネイティブな発音を教え合える環境で、言語の交流だけでなく、お互いの文化についても会話するなど、身近な国際交流の取り組みとなっています。

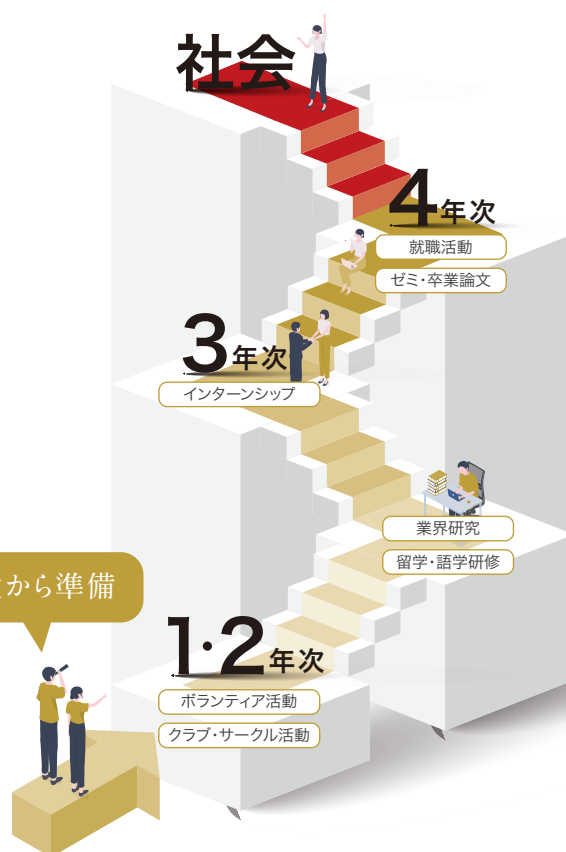


キャリアサポート

就職支援

学生生活を通して、将来の夢や希望が実現できるよう、就職ガイダンスやセミナー、資格取得のための講座など、様々な就職支援行事を行っています。

将来を見据えた視点で1年次から準備



	1年次・2年次	3年次	4年次
		授業・研究・制作	
		サークル	
		アルバイト	
		ボランティア	
就職活動		自己分析 業界研究 企業研究 エントリーシート作成準備 面接練習	企業説明会 志望動機・自己PRまとめ 採用試験 - エントリーシート提出 - 筆記試験 - 面接・グループディスカッション - 内定
		インターンシップ／オープンカンパニー	
就職支援	低学年向けキャリア支援セミナー ポートフォリオ制作ガイダンス (デザイン学部対象)	個人面談 インターンシップ／ オープンカンパニー説明会 就職ガイダンス(全学対象) 就職ガイダンス(デザイン学部対象) 業界研究セミナー 模擬面接・グループディスカッション講座	就職相談 履歴書・エントリーシートアドバイス 面接練習
		デザイン職の 就職活動について 学びます	
		学内企業説明会	
		資格取得等対策講座	

高い就職実績を支える、手厚いサポート

就職希望者決定率

97.8%

(2024年度 卒業生実績)

個人面談



キャリア支援室職員が3年生全員と個人面談を実施し、希望する業種・職種、勤務地などを確認します。ここで得た情報をもとに、学生が希望する進路実現についてきめ細かなサポートをしています。

就職ガイダンス



就職活動に必要な、進路選定や受験対策などテーマごとに座学と実践をバランスよく組み合わせたガイダンスを年間通して実施し、誰でも無理なく就職活動準備が進むようになっています。

デザイン系就職ガイダンス



ポートフォリオの作り方、業界・職種別の動向や実技試験など、デザイン職の就職活動特有の傾向と対策について解説し、デザイン学部生の就職活動をフォローします。

学内企業説明会



本学学生の関心の高い企業を中心に採用担当者を招き、会社概要から募集職種、採用試験などについて説明してもらいます。本学OB・OGが参加する機会も多く、生の情報を得ながら参加学生は企業研究を進めています。

資格取得等対策講座



公務員など専門的な対策が必要とされる就職試験に向けたものから、分野に限らず仕事をすることによって有用と思われる資格など幅広い分野にわたって各種の講座を開講しています。

簿記検定試験対策講座

簿記の知識は社会のあらゆる仕事や生活で役に立ちます。この講座では基本的な商業簿記および記帳、決算などに関する実務を学び、日商簿記検定試験の3級合格を目指します。

MOS試験対策講座

オフィス事務のスタンダードソフトであるExcelやWordなどの利用能力を証明する資格試験です。試験合格に向けて受験勉強をすることにより、各ソフトの機能を体系的に習得できます。

ファイナンシャル・プランニング技能検定対策講座

貯蓄計画、投資対策、税金対策など、総合的に資産計画を行う専門家である3級FP技能検定の合格を目指す講座で、金融機関や証券、保険会社を志望する学生に人気があります。

秘書検定試験団体受験

ビジネスシーンに必要な一般常識や接遇・マナーといった分野を学ぶ検定です。基本的なマナーを身につけておけば、就職活動の際にも人事担当者や面接官に好印象を与えることができます。

公務員試験対策

公務員試験対策講座

公務員特有の学科試験について、教養と専門の2講座を開講し、1～2年かけて勉強していきます。料金は市価の約半額と格安で受講できます。

公務員試験直前演習講座

公務員試験を直前に控えた5月から6月にかけて模擬問題を中心とした答案練習を行います。公務員志望学生はこの講座を受講し試験対策の総仕上げを行います。

合格者の声

公務員試験に挑戦し、福島の魅力を発信する仕事へ

——— 文化政策学部 文化政策学科 4年 福島県立安積黎明高等学校出身

大森 花梨

もともと図書館司書を目指していましたが、大学で司書課程を履修する中で、公務員も図書館職員として働く機会があることを知り、選択肢を広げるために公務員試験に挑戦することを決めました。しかし、試験範囲が幅広く独学では難しいと感じたため、3年生から公務員講座を受講。数学や経済など苦手な分野を克服できたことに加え、対面講義ならではの仲間との情報交換や先生方のきめ細かなサポートが大きな助けになりました。

また、キャリア支援室でエントリーシートの添削を受けたり、公務員の先輩と集団討論の練習を重ねたりと、試験対策に力を入れました。その結果、地元福島の県庁職員として内定をいただくことができました。

今後は、福島の魅力を発信する広報の仕事に携わりたいと考えています。大学で県外の人と交流する中で、福島に対するイメージが震災や東北地方といった漠然としたものが多いことに気づきました。自分自身が地元の魅力を再認識し、県内外の人に福島の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。



内定先
福島県庁

就職内定者からの声



内定先
株式会社 JTB

文化政策学部 国際文化学科 4年
静岡県立静岡高等学校出身
高橋 光子

挑戦し続けることで、見つけた自分の道

私は就職活動において、業種を一つに絞らず、多様な分野の企業に挑戦しました。エネルギー商社、生命保険会社、ホテル業界、旅行会社など幅広く受験し、最終的にJTBへの入社を決めました。選択の決め手は、自分が心からワクワクできる商材を扱っているかどうか。そして、グローバルにもグローバルにも活躍できる環境があるかでした。大学生活では、長期留学、日本語教員養成課程、地域ボランティア活動、学祭運営など、多くの挑戦をしました。特に、2年次のアメリカ留学では、日本文化を発信するイベントを企画・運営。英語でのプレゼンや現地の人々との交流を通じて、異文化理解とコミュニケーション力を磨きました。

就職活動ではキャリア支援室を最大限活用し、50枚以上のエントリーシートを添削してもらい、面接対策も徹底。支援室の方々が親身に相談に乗ってくれたことで、安心して挑戦を続けることができました。

SUACは、興味のあることに挑戦し続ける環境が整っている大学です。ここでの経験が、私の成長を大きく後押ししてくれました。

4年間の流れ

1 年次

- ・ボランティアサークルに参加（チャリティー活動、環境保全活動）
- ・留学準備を開始

2 年次

- ・海外協定校のアメリカ・フィンドレー大学へ1年間の留学
- ・イベント運営委員会に所属し、日本文化イベントを企画
- ・インターンシップの準備を始める

3 年次

- ・カンボジアでの海外建築ボランティアに参加
- ・ボランティアサークルの臨時代表となり、文化祭運営に携わる
- ・知的財産プレゼンコンテストに出場

4 年次

- ・武者修行プログラムに参加し、実践的なビジネススキルを学ぶ
- ・お試し地域おこし協力隊への参加
- ・キャリア支援室を活用しながら、多業種への就職活動を実施



内定先
株式会社
本田技術研究所

デザイン学部 デザイン学科 4年
長野県岡谷南高等学校出身
北原 大裕

好きなものをとことん追求できる 環境がここにある

大学に入学した当初は、漠然とモノづくりが好きで、家具デザインのコンペに参加するなど幅広く学んでいました。転機となったのは、2年生の時に参加した「二輪デザイン公開講座」。バイクメーカー4社が合同で開く講座で、そこでクレイモデルの存在を知り、その魅力に惹かれました。以来、プロのデザイナーの指導のもと、空きコマも放課後も工房でクレイモデル制作に没頭するようになりました。

インターンを経験するうちに、二輪のモデラーとして働きたいという思いが強まりました。四輪に比べて少人数のチームで開発を進める二輪業界では、自分の関わる範囲が広く、貢献度が高いと感じたからです。さらに、業界全体の雰囲気良さや、バイク好きな人々の製品に対する熱量にも魅力を感じました。

就職活動では、誰よりも多く制作を行い、探究心を持って楽しむことを意識しました。キャリア支援室のサポートも手厚く、エントリーシートの添削を受けたことで自信を持って臨むことができました。

SUACには、自分の「好き」を追求できる環境が整っています。充実した工房、教授との距離の近さ、浜松というモノづくりの街ならではの学びが、私の成長を支えてくれました。

4年間の流れ

1 年次

- ・授業での制作に意欲的に取り組む
- ・家具コンペに応募

2 年次

- ・二輪デザイン公開講座を受講
- ・授業外でblender、クレイモデル制作
- ・ポートフォリオ制作
- ・二輪車、四輪車メーカーのインターンに参加

3 年次

- ・授業外でクレイモデルを多数制作
- ・ポートフォリオのブラッシュアップ
- ・デザイン会社で短期アルバイト
- ・二輪車、四輪車メーカーのインターンに参加
- ・普通自動車二輪免許取得

4 年次

- ・本田技術研究所に内定
- ・卒業制作

取得可能な資格等／文化政策学部

	国際文化学科	文化政策学科	芸術文化学科
1 中学校教諭一種	国語 / 英語	社会	—
1 高等学校教諭一種	国語 / 英語	公民	—
2 図書館司書	○	○	○
3 博物館学芸員	—	—	○
4 日本語教員養成課程	○	—	—
5 社会調査士	○ ※	○	○ ※

※他学科科目（文化政策学科科目）の履習が必要のため、計画的な履習が必要です。

1 教育職員免許状〔中学校教諭一種・高等学校教諭一種〕

中学校教諭一種・高等学校教諭一種の免許状を取得できる教職課程を設けています。教職課程を履修し、必要な科目の単位を修得するとともに教育実習（2～4週間）、中学校一種はさらに特別支援学校・社会福祉施設などで介護等体験実習（7日間以上）を行うことが必要です。教員として就職するには教員採用試験に合格することが条件となります。

2 図書館司書

図書館で専門的職務に従事する職員に求められる資格です。司書課程を履修し、必要な科目の単位を修得することで資格が得られます。また、課程科目を履修する中で、大学での学修や仕事上で必要となる、情報・資料・文献の探索方法や組織化などに関する知識や技術を身につけることができます。

3 博物館学芸員

博物館で資料の収集・保管・展示・調査研究のほか、これらの関連事業について専門的事項に携わる職員となるための資格です。美術館、資料館、水族館、動物園、植物園などでも専門職として活躍できます。博物館学芸員養成課程を履修し、必要な科目の単位を修得するとともに博物館実習を行うことで資格が得られます。

4 日本語教員養成課程

日本語教員養成課程は、日本語を母語としない人に日本語を教えるための必要な知識・技能を学び、日本語教師として日本語学習者を指導する高い能力をもつ人材を養成する課程です。なお、本学の日本語教員養成課程は、文部科学省より課程（※）の確認を受けたものであり、同課程を修了する方は、国家資格「登録日本語教員」の登録に必要となる研修、及び試験の一部が免除されます。

※「必須の教育内容 50 項目に対応した日本語教員養成課程等」及び「平成 12 年度報告に対応した日本語教員養成課程等」

5 社会調査士

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等を捉えることのできる能力を有する人材に対して、一般社団法人社会調査協会が与える資格です。社会調査士の資格によって、調査報告書を適切に評価したり、自ら調査を企画・実施・分析したりできる一定の能力を有する人材であることをアピールすることができます。

合格者の声

生徒と共に成長し続ける教員を目指して

——— 文化政策学部 国際文化学科 4 年 愛知県立成章高等学校出身

藤井 七海

幼い頃から教員という職業に憧れ、大学では選択肢の一つとして教職課程を履修しました。本格的に教員を志したのは 3 年生のとき。ゼミ活動やアルバイトなど、様々な経験を重ねる中で、自分が本当にやりたいことは教育だと気づき、より一層熱意を持って教職の勉強に取り組みました。所属ゼミでは、中山間地域に通い、昔話の採録調査を行い、その成果を本として出版。地域の方々と対話を重ねることで信頼関係を築く大切さを学び、国語教員として文章力を磨く貴重な経験になりました。また、学校外の学びが視野を広げるきっかけとなり、「教える」という行為の奥深さを実感しました。4 年次の教育実習では、生徒たちの成長を間近で見守ることができ、「やはり教員は素晴らしい職業だ」と再確認。座学では学べない学校現場のリアルを体験し、改めて教師としての使命を強く感じました。実際の授業では、マニュアル通りにはいかない難しさを痛感する場面もありましたが、その分、子どもたちと正面から向き合う大切さを学びました。私は、生徒が主体的に考え、成長していける環境をつくりたい。そのために、常に問いを投げかけ、共に考え続ける教師でありたいと思っています。



内定先
愛知県
教育委員会
(中学校教員)

取得可能な資格等／デザイン学部

	デザイン学科
1 建築士受験資格	○ 建築士受験資格は、所定の単位を修得した場合に得られます。
2 インテリアプランナー登録資格	○ インテリアプランナー登録資格は、所定の単位を修得した場合に得られます。
3 商業施設士補資格（認定校）	○ 商業施設士補資格講習会の受講資格として所定の単位修得が必要になります。
4 社会調査士	○ 他学部他学科科目（文化政策学科科目）の履修が必要なため、計画的な履修が必要です。

1 一級・二級建築士 木造建築士試験 受験資格

建築士は建築物の設計および工事監理を主業務とし、建設会社や建築設計事務所、官公庁などで活躍できます。定められた科目の単位を修得し卒業することで、建築士資格を得るための試験を受験する資格を取得できます。さらに本学卒業後、本学大学院デザイン研究科に進学し、所定の科目の単位を修得すれば、免許登録要件としての実務経験年数（2年）として認定されます。

2 インテリアプランナー登録資格

インテリアプランナーは、インテリアプランニングにおける企画・設計・工事監理を行うインテリアに関する知識と技術に習熟した専門家のことです。設計製図試験に合格・登録し、所定の実務経験を経ることにより、インテリアプランナー資格を得られます。本学の所定の単位を修得することで、合格後の実務経験が免除されます。また、20歳以上の人に受験資格があり、在学中でも学科試験に合格・登録すると、アソシエイトインテリアプランナーの称号が付与されます。

3 商業施設士補資格（認定校）

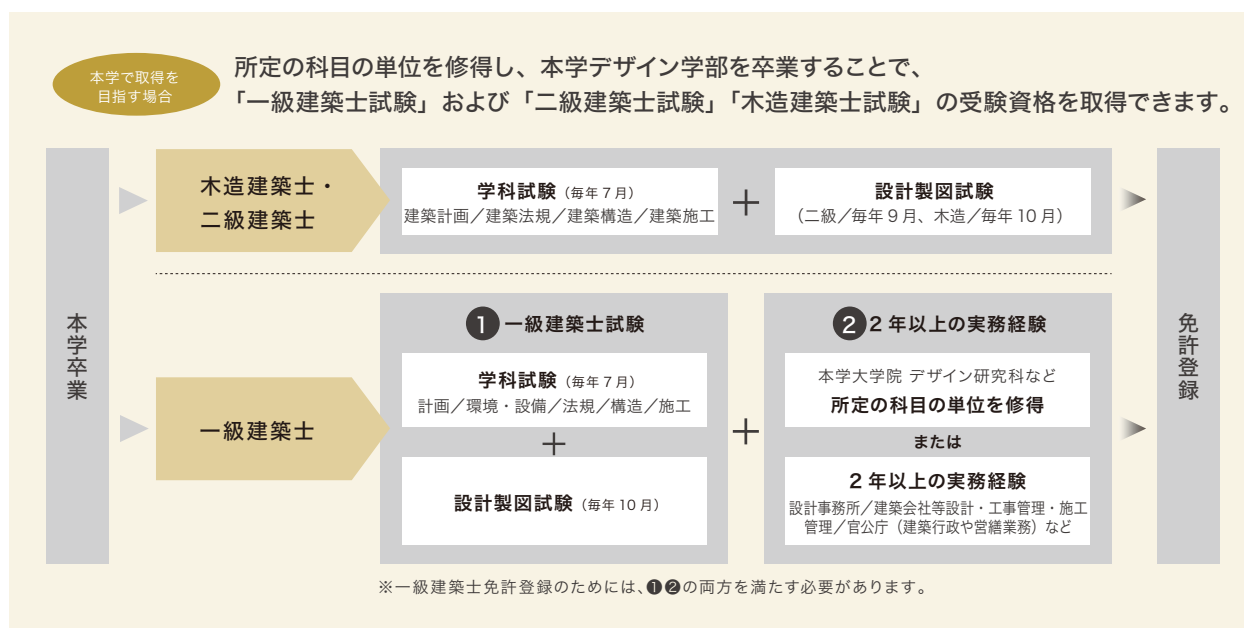
商業施設士補資格とは、商業施設の企画・設計・デザイン・監理などに関する知識を有していることを証した資格制度です。本学の所定の単位を修得し、商業施設士補資格講習会を受講修了することにより資格が取得できます。最短で2年生の段階で商業施設士補を取得することができ、商業施設士補資格取得後は在学中でも商業施設士資格試験にチャレンジすることもできます。

4 社会調査士

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象などを捉えることのできる能力を有する人材に対して、一般社団法人社会調査協会が与える資格です。社会調査士の資格によって、調査報告書を適切に評価したり、自ら調査を企画・実施・分析したりできる一定の能力を有する人材であることをアピールすることができます。

建築士資格取得の流れ

※受験資格や免許登録要件は2025年3月時点のものです。「建築士法」の改正等により変更されることがあります。



そよぐ風と、
揺れる緑と、
わたしとキャンパス

SUAC CAMPUS LIFE



学生の出身地

47 都道府県
+
3 外国

日本全国、海外から学生が
集まっています。
地元が同じの同級生、先輩に
出会えるかも



学生数



1,494 人

学部生 **1,457** 人 大学院 **37** 人

コンパクトな大学で、すぐ皆と顔なじみになれるアットホーム感がグッド

教員数

90 人

国際文化 学科 **25** 人 文化政策 学科 **15** 人
芸術文化 学科 **13** 人 デザイン 学科 **37** 人

教員1名あたりの学生数は16.2人で、
先生からも名前と顔を覚えてもらえる
距離感がイイですね



学生クラブ・同好会数

63 団体

文化系クラブ・同好会 **50** 団体
体育系クラブ・同好会 **13** 団体

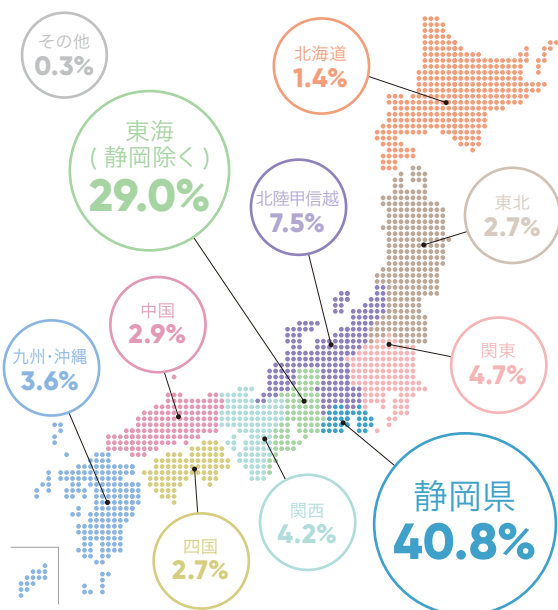
気になるクラブ・同好会はありますか？
学科学年を越えた仲間が見つかるかも



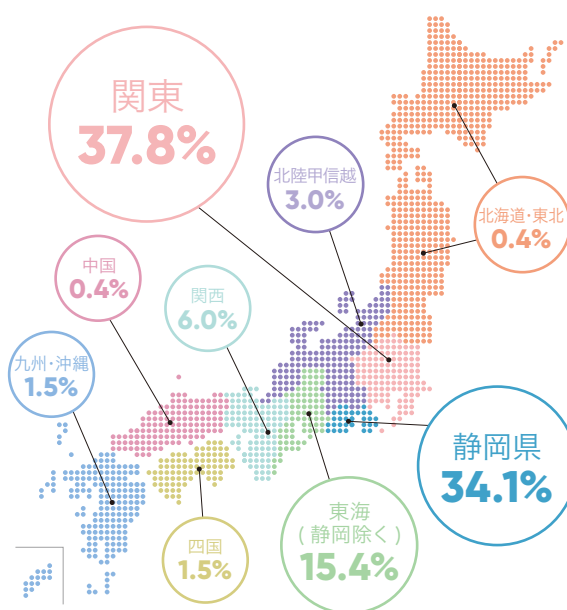
大学公認の学生団体
一覧はこちら



学生の出身地域



学生の地区別就職先



SUAC 生の1日



SATSUKI TAKANE

高根 颯希
文化政策学部 文化政策学科 1年
静岡県立藤枝東高等学校出身

大学生活を楽しみながら、 視野を広げる毎日です

高校3年生の夏、担任の先生に勧められてオープンキャンパスに参加しました。そこで先生方や在校生の親しみやすさを感じ、SUACの雰囲気の良さに惹かれて志望しました。入学後も、先生との距離が近く質問しやすい環境で、学びやすさを実感しています。

現在、特に興味を持っているのは「リサーチ&プランニング基礎」。Excelの使い方から始まり、今後はデータ分析も学べるため、実践的な力が身につくそうです。また、地域連携演習の一環として「佐久間分校のオリジナルカレンダーづくり」にも参加。人口減少が進む地域の魅力を発信するプロジェクトで、私の地元も同じような課題を抱えているため、他人事とは思えず関わることにしました。イベント企画の経験も活かしながら、どうすればより多くの人に興味を持ってもらえるか、考えながら取り組んでいます。

一週間のスケジュール（2024年後期）※授業名、活動名など

	月	火	水	木	金
1 9:00~10:30	情報リテラシー 応用 B	リサーチ& プランニング基礎	文化政策概論		
2 10:40~12:10		英語 コミュニケーション IIA	情報システム論		英語 コミュニケーション IIB
3 13:00~14:30	ユニバーサル/ インクルーシブ デザイン概論	静岡学			経営学
4 14:40~16:10					社会心理学
5 16:20~17:50	地方行政論				経済学



8:40 大学に到着

週4日、実家から通っています。浜松駅までのアクセスも良く、便利な環境です。



1限目「リサーチ&プランニング基礎」

Excelの基礎から学び、今後はデータ分析にも挑戦。将来に役立つスキルを身につけたいです。



昼 ランチタイム

いつもの友人たちとおしゃべり。何気ない時間ですが、楽しくリフレッシュできます。



夕方 浜松駅周辺でショッピング

授業後は友達とお茶をしたり買い物を楽しんだりしています。アルバイトの日はプライダール関係や塾講師の仕事もこなしています。

WHAT'S YOUR CHALLENGE?

論述が苦手でしたが、授業を通して少しずつ書けるようになってきました。イベント企画の経験を活かし、「佐久間分校のオリジナルカレンダーづくり」にも挑戦中です。地域の魅力を伝えるデザインを意識しながら、視野を広げるため英語学習にも力を入れています。大学生活を通して自分の可能性を広げたいです。



挑戦していること # バイト
働くことの大変さ # プライダール



好きなこと # 友達と旅行
綺麗な景色をみる # 文化財などをみる
大学生の休みを楽しむ



学校の授業
高校の時とは違いパソコンをよく使う
友達と協力して作った # カレンダー作り
いろいろな学び





SOU ITO

伊藤 颯
デザイン学部 デザイン学科 3年
三重県立川越高等学校出身

社会問題を解決する価値ある デザインを考えたい

入学当初は建築を学ぶつもりでしたが、授業を受けるうちにものづくり全般に関心が広がり、現在はカーデザインに興味を持っています。特に、モデラーという職種に惹かれ、車や立体物の造形について日々学んでいます。個人の好みを反映するデザインではなく、社会問題を解決するデザインに魅力を感じ、今後もこの視点を大切にしたいです。現在取り組んでいる活動は本学教員の監修のもと行われている「他大学生 × 自動車メーカーとの合同プロジェクト」。インターンで出会った県外大学の学生に誘われ、カーデザインを本格的に学び始めたばかりの自分にとって、早く成長する機会になると考えて参加しました。プロジェクトでは、自動車メーカーのデザイナーの方から約70～80時間にわたりマンツーマンで学び、プロの姿勢や考え方、技術を深く吸収できています。ものづくりの第一線で活躍する方々と直接関われるのが、このプロジェクトの大きな魅力です。

一週間のスケジュール（2024年後期）※授業名、活動名など

	月	火	水	木	金
1 9:00～10:30		デザイン マネジメント			
2 10:40～12:10		商品戦略概論	総合演習Ⅰ	プロダクト デザインプロセス	
3 13:00～14:30		インダストリアル グラフィックス			ものづくりの デザイン
4 14:40～16:10	(自主活動) 他大学生 × 自動車メーカー 合同プロジェクト			(自主活動) 他大学生 × 自動車メーカー 合同プロジェクト	
5 16:20～17:50		コミュニケーション プロダクツ			デザイン思考



9:30 自転車通学

一人暮らしのマンションは通学に最適な立地。遠州の強風と格闘しながら登校する日も。



12:00 ランチタイム

友人たちと一緒に食事。情報交換の場にもなっている。



14:00 自主制作

授業の合間を活用して、カーデザインのスケッチやモデリングに取り組む。



19:00 アルバイト（メキシカン居酒屋）

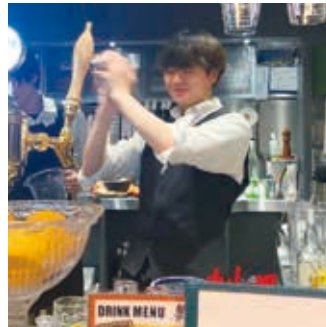
社会人との関わりを持てる場。接客を通じてコミュニケーション能力も向上中。



趣味カメラ # 祖父からもらったカメラ
風景撮ることが好き
こだわりのキャノン製品
散歩中の犬の写真も撮る



映画好き # 旅行好き
撮影現場を見学
映画館でよく鑑賞する
SF 好き



メキシコ居酒屋でのアルバイト
テキーラカクテル作り # 本格的なタコス
バーカウンターでの接客
深夜に食べる美味しい賄い

WHAT'S YOUR CHALLENGE?

これまで関心のあることばかりに目を向けてきましたが、今は多様な分野の知識を取り入れることで、新しい視点が得られると実感しています。現在はカーデザインに取り組みつつ、地域や社会の課題にも目を向けたデザインにも挑戦。英語の学びにも力を入れながら、自分の幅を少しずつ広げているところです。

TURNING POINT

S U A C 生が成長のターニングポイントになったヒト・コト



創る喜びが、
人を動かす力になる。

八木 更紗
デザイン学部 デザイン学科 3年
静岡県立島田高等学校出身

私は舞台美術を学んでいます。中学生の頃、音楽フェスで昼と夜で変わるステージに魅了され、空間デザインに興味を持ちました。入学後、舞台美術のコンペで案が採用され、自分のデザインが形になる経験をしました。公演で子どもたちが楽しそうに舞台を見る姿を目にし、「また作りたい」という強い思いが芽生えたことが私のターニングポイントでした。

その後も劇団の舞台美術を担当し、実践的に学び続けています。舞台セットは単にデザインするだけでなく、演出の意図を反映し、限られた条件で最適な形を創り出す必要があります。多くの人と意見をすり合わせながら創り上げる力が身につきました。SUACには、自分の「やりたい」を形にできる環境があります。仲間や先生から刺激を受けながら、今後も舞台美術の技術を高め、照明演出にも挑戦して、さらに魅力的なステージを創り出していきたいです。



デザインの本質を学び、
挑戦し続ける。

渡邊 彩夢
デザイン学部 デザイン学科 3年
愛知県立西尾高等学校出身

私はグラフィックデザインを専攻し、デザインの本質を学ぶことに力を入れています。SUACは技術だけでなく、デザインの考え方やマネジメントまで学べる環境であり、入学後に視野が大きく広がりました。

私のターニングポイントは、短期留学と碧風祭でのショップ運営です。短期留学では、学んできたことが世界で通用することを実感し、自信ができました。また、碧風祭では友人とハンドメイド雑貨店を立ち上げ、コンセプト設計から運営までを経験。スケジュール管理やマネジメントの重要性を学びました。現在は「みゅうプロジェクト」に参加し、新商品のプロモーション企画に携わっています。SUACには挑戦の機会が多く、積極的に動けば新しい道が開ける環境があります。今後もデザインの力を活かし、成長していきたいです。



創る人を支えたい。
その思いが、
私の未来を決めた。

平島 凜
文化政策学部 芸術文化学科 3年
日本音楽高等学校（東京都）
（現・品川学芸高等学校）出身

高校ではミュージカルを学びましたが、「支える側として芸術文化に関わりたい」と考え、SUACに進学しました。SUACはアートマネジメントを学べる数少ない大学の一つで、多様な芸術文化に触れられる環境に魅力を感じました。

大学生活のターニングポイントは碧風祭運営委員会の委員長を務めたことです。高校1年生のとき、SUACの碧風祭に感銘を受け、「入学したら運営に関わりたい」と決めました。90名の委員をまとめるのは初めてで、進捗管理や指示の難しさを痛感しましたが、周囲の支えもあって無事にやり遂げました。また、デザイン学科の友人との出会いも大きな転機でした。彼らの創作への真剣な姿勢に触れ、アーティストやクリエイターの権利を守ることが芸術文化の発展に重要だと実感し、知的財産管理技能検定3級を取得。現在は2級取得を目指して勉強中です。将来は、創る人を支える仕事に就きたいと考えています。





挑戦の連続が、
自信と未来をつくる。

深町 彰真
文化政策学部 文化政策学科 4年
群馬県立前橋高等学校出身

入学当初はコロナ禍で制約の多い生活でしたが、先輩方のサポートを受けながら、人との交流を深めました。その影響で積極的に行動することの大切さを実感し、軽音楽部の部長としてイベントを企画・運営、碧風祭の総務局長として活動しながら、バレー部やアルティメットサークルにも所属しました。多くのことを並行して取り組んだ経験は、大きな自信につながりました。

また、半年間の海外協定校へのブラジル留学は私の価値観を大きく変えました。帰国後は、外国籍の子供の教育課題について卒論で研究。多様な経験を積んだことで、広い視野と柔軟な思考が身についたと感じます。卒業後はメーカーの営業職に就き、海外勤務を目指して語学力をさらに磨いていきたいです。



自ら動き出せば、
すべてがつながっていく。

伊藤 愛
デザイン学部 デザイン学科 3年
豊川高等学校（愛知県）出身

入学当初はグラフィックデザインに興味がありましたが、立体造形の授業をきっかけにプロダクトデザインの面白さを知りました。特に、モノが「使われる」ことで生まれる体験に惹かれ、プロダクトデザインを専攻することを決めました。また、モビリティデザインサークルに所属し、そこで出会った先輩の影響でモビリティ分野に興味を持つように。インターンやワークショップにも積極的に参加し、最終的に車のGUI デザインを手がける企業への内定が決まりました。SUACは、自分から動けばどこまでも挑戦できる環境です。領域を越えて学び、先生や仲間とつながることで、予想もしなかった出会いや学びが生まれます。これからも、デザインを全力で楽しみながら、新しい挑戦を続けていきたいです。



決断することで、
世界は広がる。

丸山 紗輝
文化政策学部 国際文化学科 3年
静岡英和女学院高等学校出身

入学後に会った友人たちは、私の価値観を大きく変えました。感情をあまり表に出さない性格でしたが、英語と日本語が混ざった会話の中で、自分の気持ちを素直に伝えられるようになり、心地よさを感じています。

大学生生活の転機は、碧風祭運営委員会のステージ局長を務めたことです。軽い気持ちで参加したはずが、一歩踏み出し組織をまとめることになり、適材適所の大切さを学びました。当日は、演者の笑顔や観客の楽しむ姿を見て、大きな達成感を得ました。

次の挑戦は、アメリカで1年間有期契約社員として働くことです。異文化の中で働くことに不安もありますが、これまでの経験を活かしながら成長したいと思っています。SUACは自分らしく学び、挑戦できる環境が整っています。ここでの経験が、あなたの未来を大きく広げてくれます。

碧風祭 HEKIFU-SAI

碧風祭は、文化政策・デザイン両学部の特徴を活かし、社会貢献や国際交流を追求する学生実行委員会による学生主体の大学祭です。地域企業・団体と連携し、文化・芸術の発信拠点を目指しながら、浜松の「顔」となる存在感のある大学祭を目指します。

碧風祭の由来：青（碧）・浜松の風・祭

スクールカラーの鮮やかな青（碧）と浜松の風をイメージし SUACから浜松に、世界に、未来に、新しい風を起こすような碧風祭を創り出して、いこうという思いが込められています。



カリキュラム一覧

文化政策学部
デザイン学部

089 文化政策学部カリキュラム一覧
091 デザイン学部カリキュラム一覧
093 卒業要件単位数一覧
094 全学科目一覧

公式 Web サイトでは
さらに詳しいカリキュラム内容をご案内しています。



大学案内よりさらに詳しいカリキュラムに関わ
るご案内は、公式 Web サイト(右記 2 次元コード)
の「カリキュラム」内の「学部カリキュラム」
をご覧ください。



卒業要件単位数一覧

2026年度 カリキュラム一覧

文化政策学部	学科名	区 分	卒業に必要な単位数	合 計
	国際文化学科	全学科目	34単位以上 (1)【キャリア形成】8単位以上、ただし、次のすべてを満たすこと ・導入区分 必修3単位(「文化芸術体験演習」及び「学芸の基礎」) ・情報・データサイエンス区分 1単位以上 ・キャリアデザイン区分 1単位以上 ・実践演習区分 1単位以上 (2)【教養】12単位以上 (3)【必修外国語】8単位以上、ただし、次のいずれかを満たすこと ・英 語 8単位以上 ・中国語 8単位以上 ・英語4単位以上、かつ、中国語、フランス語、ポルトガル語、韓国語、インドネシア語、イタリア語、ドイツ語の中から同一言語で4単位以上	128単位以上
	文化政策学科			
	芸術文化学科			
		学部科目	32単位以上 なお(1)～(3)の18単位を含む (1)【文化・芸術】6単位以上 (2)【政策・マネジメント】6単位以上 (3)【情報・リテラシー】6単位以上	
	国際文化学科	学科科目	62単位以上 なお、次の(1)～(2)の8単位を含む (1)【学科基礎】必修4単位 (2)【卒業研究】4単位以上	
	文化政策学科		62単位以上 なお、次の(1)～(4)の56単位を含む (1)【学科必修】必修10単位 (2)【政策】及び【経営】で合わせて28単位以上 (3)【情報】14単位以上 (4)【卒業研究】4単位以上	
	芸術文化学科		62単位以上 なお、次の(1)～(5)の34単位を含む (1)【学科基礎】10単位 (必修科目4単位、「芸術表現A」または「同B」で2単位、「芸術文化基礎A」「同B」「同C」「同D」から4単位) (2)【政策とマネジメント】8単位以上 (3)【文化と芸術】12単位以上 (4)【芸術運営の実践】2単位以上 (5)【卒業研究】2単位以上 *3	
デザイン学部	学科名	区 分	卒業に必要な単位数	合 計
	デザイン学科	全学科目	30単位以上 (1)【キャリア形成】8単位以上、ただし、次のすべてを満たすこと ・導入区分 必修3単位(「文化芸術体験演習」及び「学芸の基礎」) ・情報・データサイエンス区分 必修1単位「デジタル表現基礎」を含む1単位以上 ・キャリアデザイン区分 1単位以上 ・実践演習区分 1単位以上 (2)【教養】12単位以上 (3)【必修外国語】同一言語で4単位以上	124単位以上
		学部科目	94単位以上 [デザイン必修] 必修6単位(「デザイン概論」「基礎造形(平面)」「基礎造形(立体)」) [デザイン選択](1)～(3)を満たし76単位以上 (1)【基礎理論】4単位以上 (2)【基礎演習】4単位以上 (3)【専門理論/専門演習】【学部間共通科目】54単位以上 [総合演習](1)、(2)を満たし8単位 (1)「総合演習I」または「建築総合演習I」のいずれか4単位 (2)「総合演習II」または「建築総合演習II」のいずれか4単位 [卒業研究] 必修4単位「卒業研究・制作」	

*1 他学部科目の履修により修得した単位ならびに静岡大学情報学部単位互換制度及び放送大学単位互換制度により科目を履修し修得した単位は、合計6単位まで全学科目として卒業要件単位に算入できる。
*2 文化政策学部内の他学科科目の履修により修得した単位は、合計6単位まで自学科の学科科目として卒業要件単位に算入できる。
*3 文明観光学コースを修了するためには4単位以上が必要。

▶▶▶「文明観光学コース」は P039、「オプション・スタディーズ」は P040 をご覧ください。

専門能力の確立

専門科目

日本・東アジア	●日本文化史 ●日本文学史 ●現代日本語表現 ●日本文学A・B ●漢文学	●日本史学A・B ●日本語彙研究 ●日本文学作品研究 ●古文書の調査と読解 ●美術史(日本・東洋)I	●東南アジアの文化と社会A・B ●中国の文化と社会 ●韓国社会論 ●中国古典学 ●アジアビジネス論	●東南アジアの歴史 ●韓国文化史 ●現代の東南アジア
地中海・西欧・北米	●近現代の中東A・B ●イタリア文化史 ●フランス文化論 ●ルネサンス文化史 ●古代ギリシア・ローマ文化と社会	●中東現代史 ●英米文学史 ●西欧・北米文化論 ●英語文学概論A・B	●イギリス文化論 ●西洋史学A・B ●英語学概論I・II ●音楽史I ●ドイツの思想と社会	●美術史(西洋)I・II ●英語文化入門 ●地中海地域文化論
多文化共生	●多文化とエスニシティ ●イスラーム概論 ●日英語比較研究 ●文化交流論 ●国際労働力移動論	●日本語音声学 ●日本語文法I・II ●日本語教授法I・II ●国際協力論 ●国際機構論	●持続可能な社会 ●フェアトレード論 ●日本語教育特論 ●日本語教育の実践と応用 ●Global Studies: Culture and Society A・B	●Global Studies: Global Issues ●国際開発論

政策	●政治学 ●法学 ●行政学 ●行政法	●地域計画論 ●地域情報サービス論 ●地域社会論 ●地方財政論	●創造都市論 ●経済政策論 ●環境政策論 ●地域福祉論	●地域観光論 ●都市デザイン論
経営	●経営戦略論 ●マーケティング論 ●地域ビジネス論 ●社会起業論	●経営財務論 ●産業組織論 ●日本経済論 ●グローバルビジネス論	●金融経済論 ●地域産業論 ●産業遺産と産業史 ●デザインとマーケティング	
情報	●広報・広告論 ●マスコミュニケーション論 ●臨床社会心理学 ●メディア文化論	●組織心理学 ●地域情報論 ●社会統計分析 ●質的調査法	●学術情報論 ●地理学 ●地誌学 ●社会理論	●情報法学 ●公共デザイン戦略 ●外国語文献研究

政策とマネジメント	●芸術文化政策の理論 ●アートマネジメントA～C ●芸術文化政策の国際比較	●文化施設の管理と運営 ●文化財保護政策 ●現代社会と芸術文化	
文化と芸術	●文化と芸術A～D ●現代芸術論A～C ●芸術特論A～D	●音楽史I・II ●演劇史I・II ●美術史(西洋)I・II	●美術史(日本・東洋)I・II ●鑑賞と批評I・II
芸術運営の実践	●展示プロデュース論 ●保存と修復 ●舞台運営論	●舞台技術論 ●劇場プロデュース論 ●デザイン思考	●空間演出総合計画

卒業研究

演習(ゼミ)・卒業論文

演習(ゼミ)・卒業論文・プロジェクト

演習(ゼミ)・卒業論文

文明観光学コース 演習(ゼミ)・卒業論文

デザイン学部 2026年度 カリキュラム一覧

人間的素養・基礎力の養成

全学科目

キャリア形成

導入

- 文化芸術体験演習
- 学芸の基礎

情報・データサイエンス

- ICTスキル基礎
- デジタル表現基礎
- データサイエンス入門

キャリアデザイン

- キャリアデザイン概論
- キャリアデザイン講座
- キャリアデザイン演習

実践演習

- 企画立案演習
- 地域連携演習A・B
- 自主課題演習

教養

- 文学
- 哲学
- 心理学
- 宗教学
- 歴史学
- 文化人類学
- 日本文化論
- 静岡学
- 文明と観光
- ユーラシア文明論
- 法と社会
- 経済学基礎
- 現代の国際社会
- 社会学概論
- 社会調査論
- 情報社会論
- 人権論
- 数学概論
- 科学技術論
- サステナブルデザイン
- 健康科学
- Japanese Cultural Studies
- 音楽と社会
- 芸術と社会
- 色彩・形態論
- 映像メディア論
- 空間デザイン
- デザイン史
- 青年心理学

必修外国語

英語

- 英語中級IA・IB
- 英語中級IIA・IIB
- 英語上級IA・IB
- 英語上級IIA・IIB
- マルチメディア英語I・II
- ビジネス英語I・II
- Online English Studies

中国語

- 中国語初級IA・IB
- 中国語初級IIA・IIB
- 中国語中級IA・IB
- 中国語中級IIA・IIB
- マルチメディア中国語

フランス語

- フランス語初級IA・IB
- フランス語初級IIA・IIB

ポルトガル語

- ポルトガル語初級IA・IB
- ポルトガル語初級IIA・IIB

韓国語

- 韓国語初級IA・IB
- 韓国語初級IIA・IIB

インドネシア語

- インドネシア語初級IA・IB
- インドネシア語初級IIA・IIB

イタリア語

- イタリア語初級I・II
- イタリア語中級I・II

ドイツ語

- ドイツ語初級IA・IB
- ドイツ語初級IIA・IIB

スポーツ活動

- スポーツ活動A・B

総合

- 特別共同授業A～H
- 産官学連携授業A～H

専門領域へのアプローチ

学部科目

デザイン必修

- デザイン概論
- 基礎造形(平面)
- 基礎造形(立体)

デザイン選択

基礎理論

- プロダクトデザイン概論
- 匠造形概論
- グラフィックデザイン概論
- 映像構成論
- 建築デザイン論
- ユニバーサル/インクルーシブデザイン概論

基礎演習

- 視覚表現演習
- 写真撮影技法
- プログラミング基礎演習
- 素材基礎演習
- 専門横断演習

総合演習

卒業研究

専門能力の確立

学部科目

専門理論

- 生体機能論
- デザイン思考
- 建築構造
- 現代デザイン論
- 人間工学
- UXデザイン論
- 暮らしと創造
- 色彩計画論
- サウンドデザイン
- ゲーム・遊びのデザイン
- 建築空間計画
- インテリアデザイン論
- 空間演出計画I
- 構造力学I
- 日本伝統建築
- メディア産業論
- フィッティングデザイン
- ユーザーインターフェース
- 地域産業デザイン
- インダストリアルグラフィックス
- 移動のデザイン
- デザインとマーケティング
- テキスタイル概論
- 木のデザイン
- 都市デザイン論
- 空間演出計画II
- 構造力学II
- 環境計画

- 世界建築史
- インタラクションデザイン
- ファニチャーデザイン
- コミュニケーションデザイン論
- サウンドメディア論
- エンターテインメントデザイン
- 地域計画論
- ランドスケープ計画
- 空間演出総合計画
- 建築材料
- 設備設計
- デザインマネジメント
- プロダクトデザインプロセス
- 装飾文様論
- 絵本論
- グラフィックナラティブ
- 建築法規
- 構造計画
- 建築生産

専門演習

- 図学・製図
- 建築図学・製図
- 製品CAD
- ウェブデザイン
- 建築基礎演習
- 建築CAD
- ユニバーサルデザイン演習I
- プロダクトデザイン演習I
- CAD表現技法
- 匠造形基礎演習
- 素材加工演習
- グラフィックデザイン演習I
- アニメーション基礎
- 映像基礎演習
- 3DCG演習I
- 建築設計演習I
- 空間表現技法
- 空間演出演習I
- ユニバーサルデザイン演習II
- プロダクトデザイン演習II
- パッケージデザイン演習
- 匠造形演習
- グラフィックデザイン演習II
- 絵本・イラストレーション演習
- 映像技法演習
- サウンドデザイン演習
- 3DCG演習II
- デジタルコンテンツ演習

- 建築設計演習II
- 空間演出演習II
- 木造建築演習
- デザイン英語
- プロダクトデザイン演習III
- グラフィックデザイン演習III
- UI・UXデザイン演習
- デジタルプレゼンテーション
- 映像表現演習
- 建築設計演習III
- コンピューテーショナルデザイン
- インタラクティブプロダクト演習

学部間共通科目

- 視覚芸術論
- 広報・広告論
- マーケティング論
- 劇場芸術論
- 都市経営論
- 産業遺産と産業史
- 経営学
- ルネサンス文化史
- メディア文化論
- 美術史(西洋)I・II
- 美術史(日本・東洋)I・II
- 経営戦略論
- 地域ビジネス論
- 文化と芸術D

- 総合演習I・II
- 建築総合演習I・II

- 卒業研究・制作

卒業要件単位数一覧

2026年度 カリキュラム一覧

文化政策学部	学科名	区 分	卒業に必要な単位数	合 計
	国際文化学科	全学科目	34単位以上 (1)【キャリア形成】8単位以上、ただし、次のすべてを満たすこと ・導入区分 必修3単位(「文化芸術体験演習」及び「学芸の基礎」) ・情報・データサイエンス区分 1単位以上 ・キャリアデザイン区分 1単位以上 ・実践演習区分 1単位以上 (2)【教養】12単位以上 (3)【必修外国語】8単位以上、ただし、次のすべてを満たすこと ・英 語 8単位以上 ・中国語 8単位以上 ・英語4単位以上、かつ、中国語、フランス語、ポルトガル語、韓国語、インドネシア語、イタリア語、ドイツ語の中から同一言語で4単位以上	128単位以上
	文化政策学科			
	芸術文化学科			
		学部科目	32単位以上 なお(1)～(3)の18単位を含む (1)【文化・芸術】6単位以上 (2)【政策・マネジメント】6単位以上 (3)【情報・リテラシー】6単位以上	
	国際文化学科	学科科目	62単位以上 なお、次の(1)～(2)の8単位を含む (1)【学科基礎】必修4単位 (2)【卒業研究】4単位以上	
	文化政策学科		62単位以上 なお、次の(1)～(4)の56単位を含む (1)【学科必修】必修10単位 (2)【政策】及び【経営】で合わせて28単位以上 (3)【情報】14単位以上 (4)【卒業研究】4単位以上	
	芸術文化学科		62単位以上 なお、次の(1)～(5)の34単位を含む (1)【学科基礎】10単位 (必修科目4単位、「芸術表現A」または「同B」で2単位、「芸術文化基礎A」「同B」「同C」「同D」から4単位) (2)【政策とマネジメント】8単位以上 (3)【文化と芸術】12単位以上 (4)【芸術運営の実践】2単位以上 (5)【卒業研究】2単位以上 *3	
デザイン学部	学科名	区 分	卒業に必要な単位数	合 計
	デザイン学科	全学科目	30単位以上 (1)【キャリア形成】8単位以上、ただし、次のすべてを満たすこと ・導入区分 必修3単位(「文化芸術体験演習」及び「学芸の基礎」) ・情報・データサイエンス区分 必修1単位「デジタル表現基礎」を含む1単位以上 ・キャリアデザイン区分 1単位以上 ・実践演習区分 1単位以上 (2)【教養】12単位以上 (3)【必修外国語】同一言語で4単位以上	124単位以上
		学部科目	94単位以上 [デザイン必修] 必修6単位(「デザイン概論」「基礎造形(平面)」「基礎造形(立体)」) [デザイン選択](1)～(3)を満たし76単位以上 (1)【基礎理論】4単位以上 (2)【基礎演習】4単位以上 (3)【専門理論/専門演習】【学部間共通科目】54単位以上 [総合演習](1)、(2)を満たし8単位 (1)「総合演習I」または「建築総合演習I」のいずれか4単位 (2)「総合演習II」または「建築総合演習II」のいずれか4単位 [卒業研究] 必修4単位「卒業研究・制作」	

*1 他学部科目の履修により修得した単位ならびに静岡大学情報学部単位互換制度及び放送大学単位互換制度により科目を履修し修得した単位は、合計6単位まで全学科目として卒業要件単位に算入できる。
*2 文化政策学部内の他学科科目の履修により修得した単位は、合計6単位まで自学科の学科科目として卒業要件単位に算入できる。
*3 文明観光学コースを修了するためには4単位以上が必要。

全学科目

学習領域		科目名	卒業要件
キャリア形成	導入	●文化芸術体験演習 ●学芸の基礎	3単位
	情報・データサイエンス	●ICTスキル基礎 ●デジタル表現基礎 ●データサイエンス入門	1単位以上
	キャリアデザイン	●キャリアデザイン概論 ●キャリアデザイン講座 ●キャリアデザイン演習	1単位以上
	実践演習	●企画立案演習 ●地域連携演習A ●地域連携演習B ●自主課題演習	1単位以上
教養		●文学 ●哲学 ●心理学 ●宗教学 ●歴史学 ●文化人類学 ●日本文化論 ●静岡学 ●文明と観光 ●ユーラシア文明論 ●法と社会 ●経済学基礎 ●現代の国際社会 ●社会学概論 ●社会調査論 ●情報社会論 ●人権論 ●数学概論 ●科学技術論 ●サステナブルデザイン ●健康科学 ●Japanese Cultural Studies ●音楽と社会 ●芸術と社会 ●色彩・形態論 ●映像メディア論 ●空間デザイン ●デザイン史 ●青年心理学	12単位以上
必修外国語		英語 ●英語中級IA・IB ●英語中級IIA・IIB ●英語上級IA・IB ●英語上級IIA・IIB ●マルチメディア英語I・II ●ビジネス英語I・II ●Onlile English Studies 中国語 ●中国語初級IA・IB ●中国語初級IIA・IIB ●中国語中級IA・IB ●中国語中級IIA・IIB ●マルチメディア中国語 フランス語 ●フランス語初級IA・IB ●フランス語初級IIA・IIB ポルトガル語 ●ポルトガル語初級IA・IB ●ポルトガル語初級IIA・IIB 韓国語 ●韓国語初級IA・IB ●韓国語初級IIA・IIB インドネシア語 ●インドネシア語初級IA・IB ●インドネシア語初級IIA・IIB イタリア語 ●イタリア語初級I・II ●イタリア語中級I・II ドイツ語 ●ドイツ語初級IA・IB ●ドイツ語初級IIA・IIB	デザイン学部 同一言語で4単位以上 文化政策学部 8単位以上※
スポーツ活動		●スポーツ活動A ●スポーツ活動B	※履修方法の詳細はP093をご覧ください。
総合		●特別共同授業A～H ●産官学連携授業A～H	

学費・学生支援制度

各種制度により学生の向上心を受けとめ、様々な相談に応じることができる体制が整っています。

入学生に適用する学納金（2025年度）

区 分	県内の入学者	県外の入学者	摘 要
入 学 金	141,000 円	366,600 円	入 学 時
授 業 料（年 額）	535,800 円		

※2026年度の学納金については変更になる場合があります。

学費等の支援制度

修学支援新制度

本学は修学支援新制度の対象機関であり、国が定める要件を満たす学生は、授業料の減免と奨学金の給付をセットで受けることができます。

日本学生支援機構貸与型奨学金

無利子の第一種、有利子の第二種奨学金、さらに入学時特別増額貸与奨学金を取り扱っており、機構が定める要件を満たす学生は、本学の窓口を通じて利用することができます。

長期履修制度

障害等により、履修できる科目数が制限され、4年間での卒業が困難であると認められた学生について、最長で6年間まで4年間分の授業料にて在学できる制度があります。

授業料の分割納入制度

授業料を一括して納入することが困難な場合には、申請により分割して納入する制度があります。

民間団体・自治体の奨学金制度

在学中に応募できる奨学金制度を随時ご案内しています。奨学金制度の中には本学の学生が優先的に採用を受けることができる制度が複数用意されています。

留学支援制度

海外に留学する学生に対する独自の支援制度を用意し、留学の形態に応じた支援を行っています。

学生相談

夢や希望にあふれて大学に入学する一方、新たな生活に不安や戸惑いを感じることもあるかもしれません。

本学では、履修に関する相談に対する教務委員（専任教員）を学科・研究科ごとに置いているほか、保健室や学生相談室、教務・学生室を設け、様々な相談に応じる体制を整えています。

オフィスアワー

（教員研究室での個別相談）

学生と教員との緊密なコミュニケーションを図るために、本学ではオフィスアワーを設けています。教室では十分に尋ねられなかった事項や専門分野の説明などを聞くことができます。

保健室

病気やけが等の応急処置や心身の健康に関する相談に応じます。保健室で対応できない場合は、学校医または専門の医療機関を紹介しますので、お気軽にご相談ください。

学生相談室

心の不安、つまずきなど様々な相談に、専門のカウンセラーが応じます。直接相談しにくい内容でも、メールにより相談を受けられるので安心です。

教務・学生室

コミュニケーションが苦手、グループワークがうまくできない、身体に障がいがあるなど大学で勉強する上で困っている学生を個別にサポートします。

入試情報

2026年度入学者選抜 概要 ●：実施

学 部	学 科	一般選抜		学校推薦型選抜		特別選抜
		前期日程	後期日程	公募制	英語重点型 公募制	社会人 帰国生徒 外国人留学生
文化政策学部	国際文化学科	●	●	●	●	●
	文化政策学科	●	●	●	—	●
	芸術文化学科	●	●	●	—	●
デザイン学部	デザイン学科	●	●	●	—	●

※入試日程、試験科目の詳細は、2026年度入学者選抜要項、学生募集要項等で確認してください。

「一般選抜（前期日程・後期日程）」は、独立行政法人大学入試センターが2026年1月に実施する「大学入学共通テスト」を受験する必要があります。

「外国人留学生入試」は、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」を受験する必要があります。

2026年度学生募集要項について 学生募集要項は、以下の通り配布・配信予定です。

名 称	公表時期（予定）	配布方法等
学生募集要項（一般選抜）	2025年10月下旬	本学WebページからPDFファイルを ダウンロード（※）
学生募集要項（学校推薦型選抜）	2025年9月上旬	
特別選抜（社会人・帰国生徒・外国人留学生入試）	2025年9月上旬	
大学院募集要項	2025年5月下旬	

※このうち、一般選抜および学校推薦型選抜については、インターネットによる出願になります。

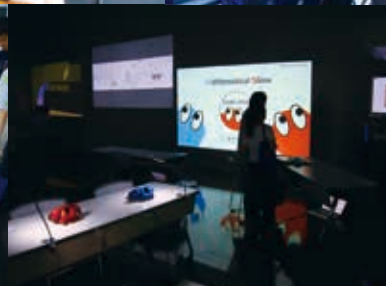
2025年度入学者選抜 実施結果〈一般選抜〉

学 部	学 科	区 分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文化政策学部	国際文化学科	前 期	65	150	143	70
		後 期	10	252	70	28
	文化政策学科	前 期	40	149	141	48
		後 期	5	148	54	9
	芸術文化学科	前 期	36	74	71	43
		後 期	5	84	28	5
デザイン学部	デザイン学科	前 期	75 Ⅰ 数学 40 Ⅱ 実技 35 (5)	301 Ⅰ 数学 177 Ⅱ 実技 124 (26)	288 Ⅰ 数学 170 Ⅱ 実技 118 (26)	88 Ⅰ 数学 45 Ⅱ 実技 43 (5)
		後 期	10	158	82	10

※デザイン学部デザイン学科の前期試験の（ ）内の数字はポートフォリオ提出型選抜入試の人数です。

2025年度入学者選抜 実施結果〈学校推薦型選抜〉

学部	学科・区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文化政策学部	国際文化学科	18	45	45	18
	国際文化学科（英語重点型）	7	14	14	7
	文化政策学科	10	32	32	10
	芸術文化学科	14	56	55	15
デザイン学部	デザイン学科	25	111	111	26



OPEN CAMPUS 2025

開催日 (予定)

8/9_土

8/10_日

実施方法・内容等の詳細は、
公式Webサイトをご覧ください。



◆ お問い合わせは下記まで

静岡文化芸術大学 入試室

〒430-8533 静岡県浜松市中央区中央2-1-1

Tel.053-457-6401 Fax.053-457-6123

Webサイトアドレス <https://www.suac.ac.jp/>

<入試案内>



2次元コード読み取り
対応型端末をお持ち
の方はこちら

Web へのご案内

公式サイトで SUAC の最新情報をチェック。

<https://www.suac.ac.jp/>

各学部 of 学びや学生生活をはじめ、入学試験や最新イベント情報、オープンキャンパスなど受験生に役立つ情報を満載しています。本誌とあわせてぜひご覧ください。



2次元コードをスマートフォン・携帯電話で読み込むと Web サイトをご覧いただけます。

大学公式 SNS

静岡文化芸術大学公式 X、Instagram では、大学からのお知らせやイベント情報を随時お届けしています。



大学公式 X
@suac_official



大学公式 Instagram
@suac2000



静岡文化芸術大学公式 YouTube チャンネルでは、大学の学びや学生の活動を紹介する動画を配信しています。



大学公式 YouTube
@suac2000



静岡文化芸術大学入試室公式 LINE では、本学の入試情報や進学説明会情報、学生生活の様子などを発信しています。

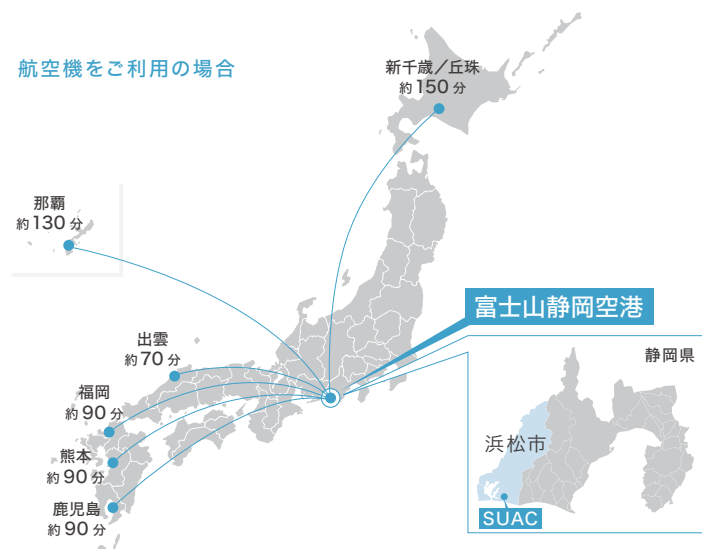


大学入試室公式 LINE
@ycp2163i



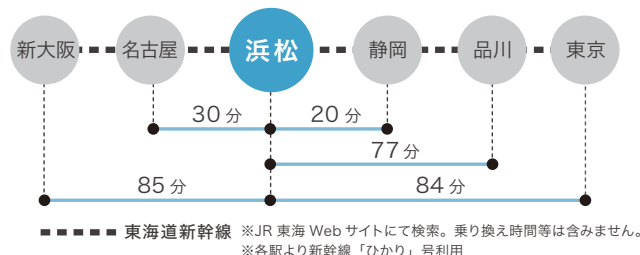
アクセス

航空機をご利用の場合



○JR 浜松駅より徒歩15分 ○遠州鉄道「遠州病院駅」下車、徒歩8分

新幹線をご利用の場合



浜松駅からバスをご利用の場合

遠鉄バス (約10～15分間隔で運行しています)

浜松駅北口バスターミナル10番のりば→バス停「文化芸術大学」下車

※浜松駅北口バスターミナル10番のりばから出ているバスは、「文化芸術大学」バス停を通ります。ただし、系統番号2番を除きます。

※本学へお越しの際は、公共の交通機関をご利用ください。



S U A C

公立大学法人

静岡文化芸術大学

SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE